



平成 20 年度

移動支援事業の効果的・効率的な実施方法の推進に  
資する調査研究事業

報 告 書

大 牟 田 市



# 【目 次】

1. 登下校見守り等支援事業を行う背景及び目的	1
2. 事業の実施に向けた準備内容	2
①自立支援協議会での協議	2
②ニーズ調査の結果	3
③コーディネーターの配置	13
④ボランティアの募集・研修	13
⑤利用者の募集	20
⑥事業調査関係対象者の抽出	22
⑦事業期間	22
⑧事業実施内容	22
⑨アセスメント（ボランティア・支援利用児及び保護者）	24
3. 対象児別の支援内容	29
4. 登下校見守り等支援事業の支援過程	45
①支援方法の過程	45
②事業実施内容	45
③支援方法・支援記録（ボランティア証・ボランティア腕章・ボラ/利用者日誌）	46
④事業実施中の利用者日誌記入内容（参考資料 25）	46
⑤登下校見守り等支援事業経過中でのヒアリング（聴き取り）	46
5. 最終ヒアリング	80
・利用児及び保護者	81
・ボランティア	93
・最終ヒアリングシート・アンケート用紙	117
6. 移動支援調査研究委員会での検討	121
7. 考察・結論	122
8. 今後の課題	126
9. 総 括	128
※ 資 料（自立支援協議会）	129
あ と が き	135

# 1. 移動支援事業の効果的・効率的な実施方法の推進に資する調査研究事業を行う背景及び目的

近年の、少子高齢化及び核家族化が進み、また、閉鎖性の高いマンション等の増加により、地域における自治会加入率は年々低下の傾向にあり、地域福祉の現状はますます脆弱なものとなっている。

さらに、本市の特徴としては、石炭産業により発展した街であり、平成9年の炭鉱閉山まで、市内にいくつもあった炭鉱関連住宅内に地域のつながりが強い大きなコミュニティが存在していた。炭鉱閉山後、炭鉱住宅はなくなると同時に跡地は廃屋になったり、新興住宅地となったり、かつてあった地域の強い繋がりコミュニティは街のあちらこちらから姿を消している。

地域福祉は年々脆弱な状況になっている一方、障害者をめぐる環境は、支援費制度、障害者自立支援法により、訪問系サービスも充実し、在宅生活の障害者に対するフォーマルサービスは改善されたが、フォーマルサービスでは支援出来ない通勤通学などの支援が依然課題として残っている。

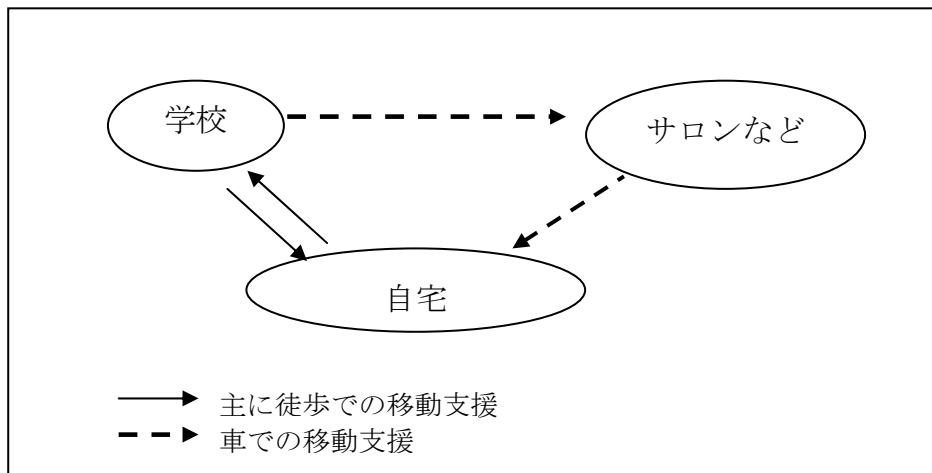
障害者自立支援法施行により、移動支援は市町村の裁量により実施されるメニューとなっているが、通学、通勤等朝夕決まった時間にサービスを提供するとなると、短時間に集中したニーズに人員体制をとれる事業者が少ないなど課題が多く、また、仮にサービス提供可能な状況にあったとしてもサービス増に対する公費負担増という財政面の問題もあり、サービス提供を行うには困難な状況である。

そのような状況の中、本市では、平成19年度に自立支援協議会を立ち上げ、平成20年には「就労」、「住居」の2つのプロジェクト会議を設置し、障害児・者の生活環境を改善するために協議を行っている。

それに加え、今回の調査研究事業を新たに「インフォーマルサービス開拓プロジェクト」として設置し、ボランティアによる障害児への登下校の移動支援事業（モデル事業を11月～12月の2ヶ月間実施）を行い、その検証を行うことで、フォーマルサービスを補い、ボランティア活動が活発になり、地域おこしを行うに繋げることを目的としている。

## 2. 事業の実施に向けた準備内容

当初は、移動支援に代わるものと位置づけ、下図のように、自家用車、徒歩などで学校までの往復、サロンへの送迎及び見守りを毎日の支援を行っていくイメージで11月からの実施に向け準備を行った。



### ① 自立支援協議会での協議

ボランティアの募集、育成、利用者のニーズの把握などについて「インフォーマルサービス開拓プロジェクト会議」として協議してきた。

プロジェクト会議メンバー：児童生徒育成会、社会福祉協議会、知的障害施設職員、特別支援学校、市福祉課、市児童家庭課、教育委員会、相談支援事業所、NPO 法人大牟田市障害者協議会

※必要に応じ適宜その他のメンバーも参加

#### ・ 自立支援協議会での検討の内容

5月 プロジェクト会議の設置の提案

7月 事業の概要及び方向性の確認

8月 事業実施のためのワーキングチーム（ボランティアの育成、ニーズ調査）の設置決定

9月 ニーズ調査（利用者募集）ワーキング1回開催

・ ニーズ調査の様式について検討

ボランティアワーキング2回開催

- ・ボランティア募集ポスターの作成、申込書作成、研修方法の協議

## 10月 ニーズ調査（利用者募集）ワーキング4回開催

- ・利用申込書作成、利用対象者の設定、利用者説明会の方法などの検討、ボランティアとのマッチング方法についての検討
- ・ボランティアワーキング2回開催
- ・ボランティアの申込み状況による支援方法について検討、支援可能な障害児についての検討、ボランティア説明会の実施、研修会の実施

当初のイメージでは、毎日の登下校の送迎的な支援を想定していたが、この時点でのボランティアの申込者は9名であり、活動できる曜日にも制限があるため、毎日の支援ではなく、週1～2日程度の障害児の自立を促進するための、訓練的な見守り、付添いなどの支援を行うよう方針を変更した。よって、事業名を「見守り等支援」とした。

また、支援を行うのはボランティアであるため、重度の障害児に対する支援については、支援開始当初は見合わせることにした。

## ②ニーズ調査の結果

### ・登下校に関するニーズの概要

支援の対象となる特別支援学校及び特別支援学級に在籍する児童・生徒の保護者に対し、各学校を通してアンケート調査（参考資料1を参照）を行った。

登校の方法として、“徒歩”で親と一緒に登校する結果が多く得られた。また、登校時ボランティアに求めたい支援として、“見守り・声かけ”が多かった。

下校の方法としては“徒歩”で一人での下校する結果が得られた。下校時ボランティアに求めたい支援として“見守り”が多かった。

放課後の活動として日中一時支援や習い事に通ったり、調査対象障害児以外にも家族内に支援を必要とする状況があるという回答結果が得られた。

現在、大牟田市では、登下校の状況を含め障害児の日常生活の状況について調査を行っております。  
別紙記入例を参考に下記の設問にお答えいただきますようご協力をお願いします。  
なお、できるだけ自由意見はご記入いただけますようお願いいたします。

◎登下校の状況についてお伺いします。該当する口にチェック及び記入をお願いします。(複数該当する場合は、すべてチェックをお願いします。)

		登下校の方法	登下校時ボランティア等に求めたし支援
1 通学の方法	登校時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<input type="checkbox"/> 徒歩 (徒歩の場合下記の設問にお答えください。)</li> <li>誰と? 【 <input type="checkbox"/>ひとり・<input type="checkbox"/>兄弟・<input type="checkbox"/>親・<input type="checkbox"/>その他 ( ) 】</li> <li>・<input type="checkbox"/> 自家用車</li> <li>・<input type="checkbox"/> 自転車</li> <li>・<input type="checkbox"/> スクールバス</li> <li>・<input type="checkbox"/> バス ( 乗換 <input type="checkbox"/>有・<input type="checkbox"/>無 )</li> <li>・<input type="checkbox"/> 電車 ( 乗換 <input type="checkbox"/>有・<input type="checkbox"/>無 )</li> <li>・<input type="checkbox"/> 集団登校</li> <li>・<input type="checkbox"/> その他 ( )</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<input type="checkbox"/> 声かけ・<input type="checkbox"/> 見守り・<input type="checkbox"/> 付き添い・<input type="checkbox"/> 身体介助</li> <li>・<input type="checkbox"/> 車での移動・<input type="checkbox"/> 公共交通機関での支援</li> <li>・<input type="checkbox"/> その他 ( )</li> <li>※できれば困っていることを詳しくご記入ください。</li> </ul>
	下校時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<input type="checkbox"/> 徒歩 (徒歩の場合下記の設問にお答えください。)</li> <li>誰と? 【 <input type="checkbox"/>ひとり・<input type="checkbox"/>兄弟・<input type="checkbox"/>親・<input type="checkbox"/>その他 ( ) 】</li> <li>・<input type="checkbox"/> 自家用車</li> <li>・<input type="checkbox"/> 自転車</li> <li>・<input type="checkbox"/> スクールバス</li> <li>・<input type="checkbox"/> バス ( 乗換 <input type="checkbox"/>有・<input type="checkbox"/>無 )</li> <li>・<input type="checkbox"/> 電車 ( 乗換 <input type="checkbox"/>有・<input type="checkbox"/>無 )</li> <li>・<input type="checkbox"/> 集団下校</li> <li>・<input type="checkbox"/> 日中一時支援事業による送迎</li> <li>・<input type="checkbox"/> その他 ( )</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<input type="checkbox"/> 声かけ・<input type="checkbox"/> 見守り・<input type="checkbox"/> 付き添い・<input type="checkbox"/> 身体介助</li> <li>・<input type="checkbox"/> 車での移動・<input type="checkbox"/> 公共交通機関での支援</li> <li>・<input type="checkbox"/> その他 ( )</li> <li>※できれば困っていることを詳しくご記入ください。</li> </ul>
2 放課後の活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<input type="checkbox"/> 部活動</li> <li>・<input type="checkbox"/> 学童保育</li> <li>・<input type="checkbox"/> 日中一時支援</li> <li>・<input type="checkbox"/> その他 ( )</li> <li>・<input type="checkbox"/> 特に無し</li> </ul>		

※裏面へお進みください。

◎日常生活の状況についてお伺いします。該当する口にチェック及び記入をお願いします。(複数該当する場合は、すべてチェックをお願いします。)

1 家族に支援が必要な方についてご記入ください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<input type="checkbox"/> 障害児 (本人)</li> <li>・<input type="checkbox"/> 障害児 (就学前) _____人</li> <li>・<input type="checkbox"/> 障害児 (本人以外の小中高高校生) _____人</li> <li>・<input type="checkbox"/> 障害者 _____人</li> <li>・<input type="checkbox"/> 介護保険サービス利用者 _____人</li> <li>・<input type="checkbox"/> その他 ( ) _____人</li> </ul>	<p>※同居でない場合でも支援している方がいればご記入ください。</p>
2 登下校以外の日常生活で困っている点についてご記入ください。	<p>通院、家族不在時の見守り、休日、長期休暇期間などのお困りの点をご自由にお書きください。</p>	

ご協力ありがとうございました。

## 登下校時アンケート調査結果

有効回答数81名

参考資料2：回答結果

### 登校時関連

#### 1 登校の方法(複数回答)

徒 歩	ひとり	15
	兄弟	11
	親	18
	その他	10
	計	54
自家用車		28
自転車		4
スクールバス		16
公共バス		8
電車		0
集団登校		3
その他		2
合計		115

#### 2 登校時ボランティアに求めたい支援(複数回答)

声かけ	28
見守り	34
付添い	11
身体介助	3
車での移動	5
バス等の利用の支援	0
その他	2
合計	83

#### 3 登校時に困っている点 別紙1

### 下校時関連

#### 4 下校の方法

徒 歩	ひとり	18
	兄弟	7
	親	15
	その他	12
	計	52
自家用車		27
自転車		2
スクールバス		12
公共バス		9
電車		0
集団下校		3
日中一時支援による送迎		2
その他		5
合計		112

#### 5 下校時ボランティアに求めたい支援(複数回答)

声かけ	19
見守り	31
付添い	11
身体介助	1
車での移動	1
バス等の利用の支援	0
その他	2
合計	65

#### 6 下校時に困っている点 別紙1

#### 7 放課後の活動 別紙1

#### 8 家族に本人以外に支援が必要な者の状況(複数回答)

就学前児童	3
小中高校生	9
65歳未満	26
65歳以上	12
その他	3
合計	53

#### 9 自由意見 別紙2

## 自由意見回答

### 3 登校時に困っている点

- ・ 朝同居している主人の母(86才)の介護と登校させるのに時間をずらしているが、なかなか難しい状況です。
- ・ 雨の日の乗りおり
- ・ 家から登校して1人で教室まで入れるような指導があればいいと思います。
- ・ 家の近くに高校が多く登校時は車と自転車がが多いので一人で登校させるのが心配です。
- ・ 横断歩道を渡る時の介助
- ・ 親が病気等で行けない時に誰かにお願い出来たらと思います。
- ・ 危険を自分で避けられない。
- ・ 校区外通学のため、毎日自家用車で送っています。
- ・ 国道を渡る際に見守って頂きたい。
- ・ 自宅からスクールバスの乗り場まで見守りがあつたら安心できる。
- ・ 自転車での速度の出しすぎ
- ・ 社会的におかしな行動をしていたら注意してもらいたい。
- ・ 自立登校できる様にしたいがなかなか登校の指導に集中できない。
- ・ 信号が理解できていないので交差点では必ず手をつなぐ。
- ・ 新栄町の踏み切りが怖いです。途中で踏み切りがしまります。
- ・ スクールバスに家の前まで来てほしい
- ・ 送迎する者がいない
- ・ たまに学校に行きたがらずごねる時があり、スクールバスが来る場所まで辿りつけない(間に合わない)事がある。
- ・ 登校中興味があること(動物)に出会うとそのまま触ったりと登校時間に遅れてしまう又一人なため知らない人に話かけたり警戒心がないため心配です。
- ・ 同世代の中学生からバカにされる。
- ・ 途中に大きな交差点がありそこを通るのが不安
- ・ 年に2～3回親が具合が悪い時に送迎にこまります。
- ・ 他の子と一緒に登下校するのが苦手で一人で行き帰りしている為、変質者などから守るためにも声かけや見守りをしたい。
- ・ リサイクル当番が回ってくるとスクールバスには乗せずに当番が終わってから学校へ車で送って行きます。
- ・ リフトバスを利用できなくなると支援が必要。

### 6 下校時に困っている点

- ・ 大きな交差点を渡る際に見守りがあれば助かる。
- ・ バスの待ち時間が長い。
- ・ 帰りに見守り隊をお願いします。
- ・ 下校時はいろんな店が開いている。
- ・ 校区外での通学の為距離があり危険なので場所場所に立ってもらい見守って欲しい。
- ・ 送迎する者がいない。
- ・ 同居している主人の母のデイケアの送迎時間と重なる日が週一回だけとはいえこまっている。
- ・ 途中まで付き添ってもらえるか、見守ってほしいです。
- ・ 乗り換えの時間が駅で1時間近く待ち時間があるので心配しています。
- ・ 一人で下校する時不審者等心配
- ・ 他の兄弟の世話が大変なので毎日送迎して欲しい
- ・ 毎日じゃなくても家庭で急な用があります時には1人で帰って来れるような指導があるといいと思います。

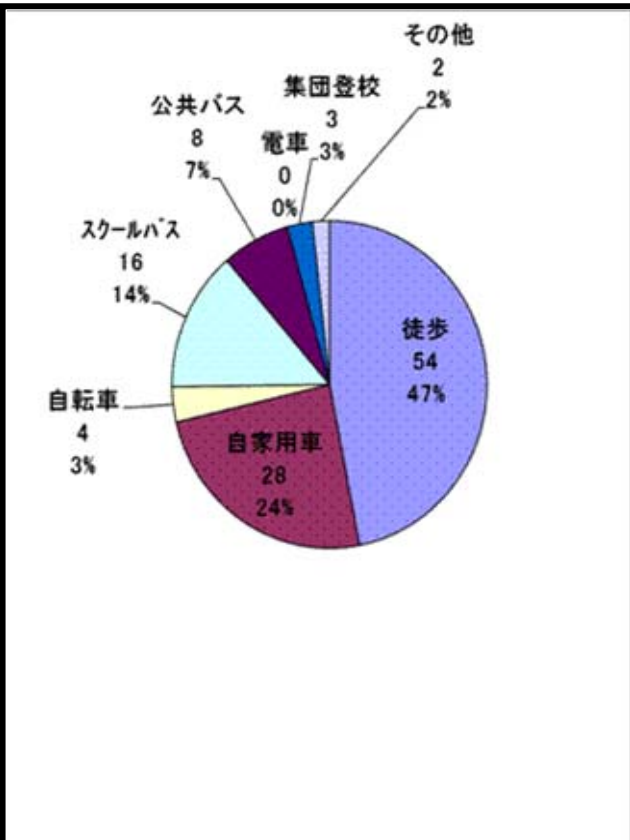
### 7 放課後の活動 別紙

日中一時支援	12
リハビリ	3
習い事(ピアノ)	1
部活動	1
計	17

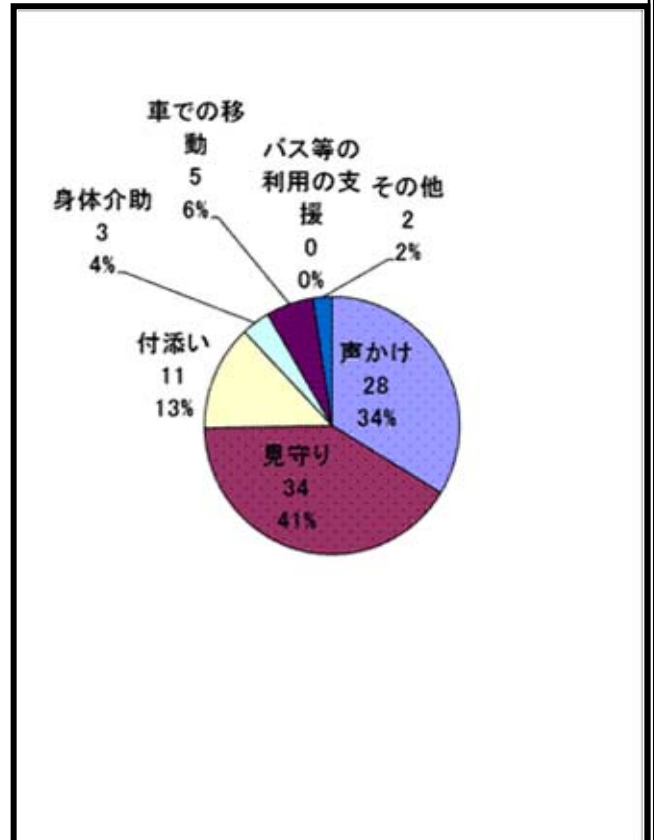


参考資料 4

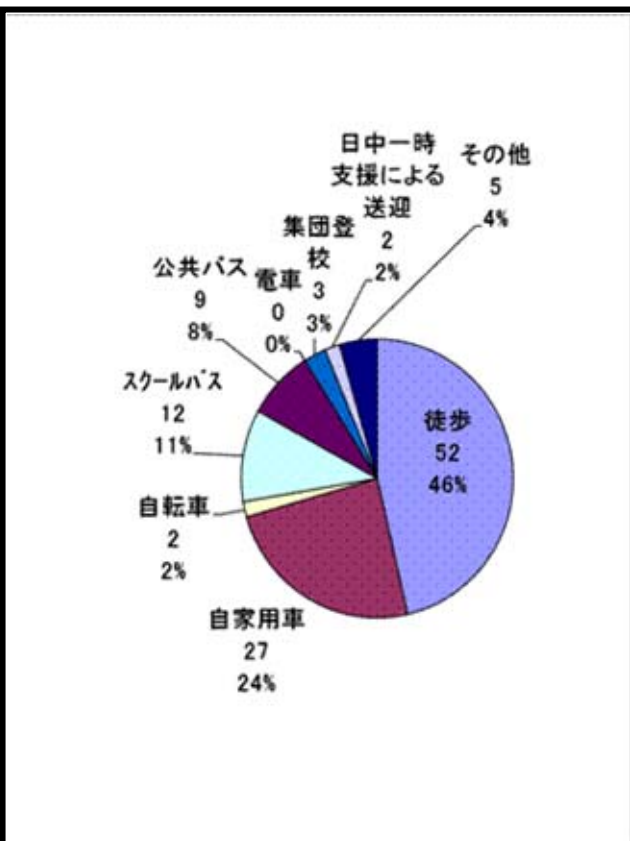
1. 登校の方法 (複数回答)



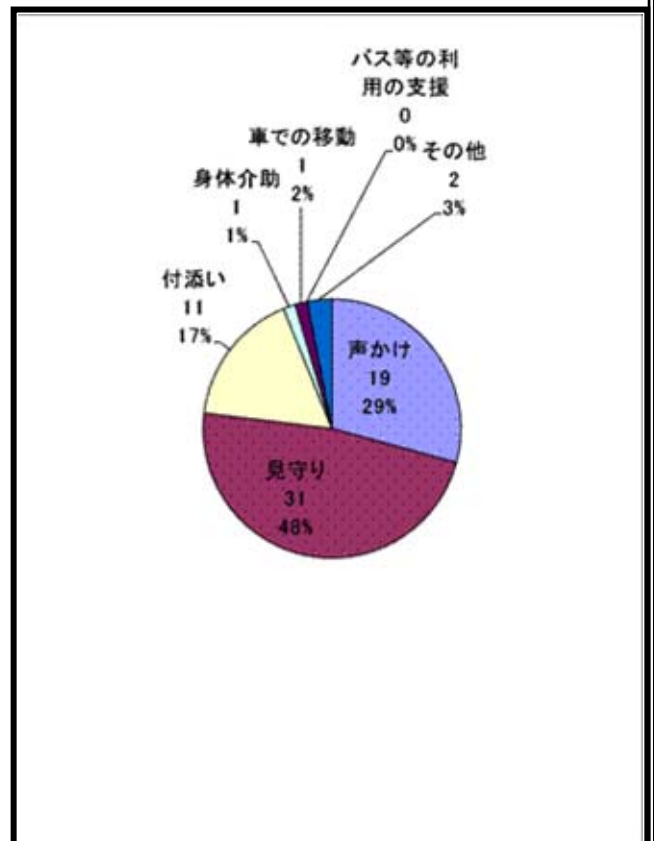
2. 登校時、ボランティアに求めたい支援 (複数回答)



3. 下校の方法 (複数回答)



4. 下校時、ボランティアに求めたい支援 (複数回答)



## ○大牟田市内で利用できる施設等希望（増設など）

- ・日中一時支援を利用したいが、金額が高い。
- ・両親が高齢のため、介護の必要性が高い。また、大牟田市内に施設の拡大や増設を希望。
- ・障害児が安心して遊べる施設設立希望。
- ・休日などの障害児が安心して利用できる施設希望。野外での自由に体を動かせることのできる施設や、障害児が利用できる施設が少ないため早急に対策を希望。
- ・長期休暇中（夏）は運動不足になりやすいため、サマースクールなどの日中支援を希望。
- ・日中一時支援利用中だが、校区内に利用できる施設を希望。
- ・ディサービス利用中だが、期間が決まっているため他に利用できる日中一時支援や施設を希望。
- ・兄弟での用事（クラブ・試合）等で、下の子どもが小さいため一時的に支援してもらいたい。
- ・兄弟（姉妹）の学校の授業時間が違うため、スクールバス停に迎えに行ってくれる支援者希望。
- ・支援学校内に学童を作ってほしい。

## ○登下校の送迎・付添い・見守り支援希望

- ・現在は何も問題はないが、突発的な事が起こると不安。
- ・出産入院中に登下校の送迎が出来なく、子どもを休学させていた。そのような時に送迎など、利用できるサービスや施設があると助かる。
- ・現在、子どもを一人で留守番させることが出来ず、登校時のバス停までの道が危険な為一緒に付き添ってくれる人がいると助かる。送迎バスから自宅まで送ってくれる人を早急を探しています。（スクールバスの先生にお願いしたところ、自宅までは無理という事で、良き回答を待っています）
- ・兄弟児の学校行事に参加するため、下校時の見守りを希望。（ディサービスなども希望）

## ○長期休暇中（夏休み・冬休み）の利用施設・支援希望

- ・長期休暇中のいつでも気軽に利用できる施設希望。
- ・長期休暇中の保護者の用事等に、一緒に留守番・支援してもらえる支援者希望。
- ・放課後に公園や買い物と一緒にしてくれる人を希望。
- ・長期休暇中の子どもの留守番をさせるのが難しい。
- ・仕事をしている為、長期休暇中の日中支援を希望。（留守番は出来るが、目が届かないと心配）
- ・長期休暇中の外出時に子どもを一人残していくことは心配な為、一時的に預かってもらえる施設や支援者を希望。
- ・子どもが学校中に働きに行きたいため、長期期間中なども預かってもらえる施設を希望。
- ・共働きで保護者の両親も介護が必要な為、家族だけの協力だけでは難しい。支援してもらえると助かる。

## ○緊急時や突発的な用事などの一時的・日中支援希望

- ・保護者の仕事と時間が合わず、平日の学校帰りにクラブを休ませて病院に行かせている。土曜に病院には連れて行きたいが、支援してもらえると助かる。
- ・病院を一人で受診できない為、またコミュニケーションに不安がある為、本人の不慣れな所に行くことは苦手である。そのような時に支援してくれる人を希望。
- ・通常は日中一時支援を利用しているが、保護者が急用の時に家を不在にしなくてはいけなくなった時、‘前もって’ではなく、“急に”でも預かってもらえるとう助かる。
- ・子どもと二人のため、保護者の用事がある時に一時的に預かってもらえる所が無くて困っている。（今は大丈夫だが、突然、何か起きた時が心配）
- ・土日・祝日、長期休暇中などの急用で外出しなくてはいけなくなった時、施設が予約待ちで利用できなくて困っている。
- ・現状維持（放課後は一人でゲームや本屋に行くが、同世代の友達と遊ぶことをしない為、外出援助をして下さる若い男性の方に来てもらっている為、現在は大変助かっている。）
- ・家族の緊急な入院時に、一時的な見守り・付添いをしてもらえる人がいると助かる。学校の行事に参加したい（学校が早い為）が、子どもを見てくれる人がいると助かる。また、日曜は祖母のデイケアが休みの時は公民館行事に参加する為、一時的に子どもの様子を見てもらえる人がいると助かる。
- ・祖母・保護者ともに通院しながら透析を行っている為、土日・祝日などに一時的に子どもの見守り支援をしてもらえると助かる。

○家族の介護中の一時支援・利用施設希望

- ・祖母が入退院を繰り返す為、一時的な預かりや支援員がいると大変助かる。
- ・祖母の通院のため下校時のお迎えに間に合わない。毎日ではないが気軽に利用できる施設やボランティアがいてくれたら助かる。
- ・両親が高齢の為、いつ介護が必要になるか分からず、子どもも目を離せない為、見守りをしてくれる人を希望。子どもを一人で留守番をさせる事が出来ない為、寄り合いなどに参加する事が出来ない。

○障害児を持つ親としての子どもの将来について

- ・日常生活ではないが、子どもの将来が不安である。一緒に生活出来るうちは良いが、保護者の病気や老いで入院や死んだ後、子どもの将来が不安。保護者が元気なうちにどうかしなくてはいけないと考えている。
- ・大牟田市内には ADHD の対応できる病院が無い為、県外の病院に通院しているが仕事との両立が難しい。また、兄弟2人とも発達障害で通院している為、周辺介助をしてもらう方には障害の知識が無い為、病院の先生と話をする事に時間が掛かる。長期休暇期間も不安である。(小学校の頃は学童があったが、中学校生になった今は、どのような行動をとるのか把握出来ない。またマンガ本屋などに入り浸るのではないかと心配している。)
- ・児童サービスは時間の制限がある為、夜間や宿泊などの予約が取りにくい。また保護者の出張や入院など子どもの支援が常に心配である。障害児の利用出来る施設は限られており、時間・日数など制限がある為、使用しにくい。療育施設利用中の預かりはしてもらえるが、将来日常生活に必要な社会適応能力(交通ルール・買い物・公共施設でのマナー)を習得する事は乏しく、家庭内で学習させるしかなく、療育能力の高い親の下でなければ子どもの社会適能力は下がるという実情があり、保護者自身が抱え込んでしまい、気力・体力・精神力にも限界がある。

○子供の自立(訓練、練習)

- ・現在は困ってないが、これから保護者の急病が予想される為、一人での留守番などが出来るように練習させたい。
- ・路面バス利用・買い物・公衆浴場などの利用に対して、保護者以外の付き添いでスムーズに出来るようにしてもらえると助かる。公民館のレクレーションに上手く参加して、他の子どもとのコミュニケーションが取れるように支援・付添いをしてもらえると助かる。工具・調理器具使用時に危険が無いように付き添ってもらいたい。
- ・一人で留守番が出来ない為、現在練習中。

○その他

- ・兄弟の学校行事時、障害児の見守り・面倒を看てもらいたい。
- ・祭りに買い物に行く時に、見守りがほしい。
- ・土日・祝日の時買い物に行く時に、見守りをしてくれると助かる。
- ・現在、日中一時支援を利用しているので、特に問題はない。

## ・ボランティアに対するニーズ調査

市内在住の障害者（身体・知的・精神）から無作為に2,000人抽出し、外出及びインフォーマルサービス全体に対するニーズの把握を行った。

結果としては、公共施設、交通など隔たりなく回答があり、特に際立った回答は見られなかったが、今までに、ボランティアの支援を受けたことがない人が75%を超え、また、25%の人はボランティアがいたとしてもお願いすることが特にないという結果となっており、実態として地域内における交流などが希薄であるという姿が浮かび上がっている。

☆ 外出時などの状況についておたずねします。

◎ 外出の時、不便に感じたり困ったりすることは何ですか。

(あてはまるものすべてに○印)

- 1 公共交通機関の利用が不便(路線がない、バスの便が少ない、乗降が難しいなど)
- 2 障害者用駐車場が不備、または少ない
- 3 歩道に問題が多い(狭い、障害物、誘導ブロックの不備など)
- 4 点字・音声案内などの整備が不十分
- 5 身体障害者用のトイレが少ない・利用しにくい
- 6 建物内の設備が利用しにくい(階段・案内表示など)
- 7 休憩できる場所が少ない(身近な公園や歩道のベンチなど)
- 8 外出するためには、たくさんお金がかかる
- 9 周囲の人の目が気になる、理解がない
- 10 介助者がいない・少ない
- 11 その他 ( )
- 12 特にない

◎ 今まで、福祉のサービス以外でご近所、ご友人、またはボランティアのかたなどに、買い物に出かける時や家事などのお手伝いしてもらったことがありますか。(1つに○印)

1 ある

2 ない

◎ もし、ボランティアのかたがいたら、してもらいたいことは何ですか。

(あてはまるものすべてに○印)

- 1 買い物への同行
- 2 レクリエーション活動への同行
- 3 映画、コンサート、美術館などへの同行
- 4 通勤・通学時の介助
- 5 炊事の手伝い
- 6 洗濯の手伝い
- 7 掃除の手伝い
- 8 その他 ( )
- 9 特にない

参考資料7： 回答結果

外出等についてのアンケート実態調査結果

有効回答数 720名(3障害合計)

・ 外出時不便に感じたり、困ったりすること(複数回答)

	回答内容	数	%
1	公共交通機関の利用が不便	261	14.36
2	障害者用駐車場の不備、または少ない	175	9.63
3	歩道に問題が多い(狭い、障害物、誘導ブロックの不備など)	186	10.23
4	点字・音声案内などの整備が不十分	60	3.3
5	身体障害者用のトイレが少ない・利用しにくい	176	9.68
6	建物内の設備が利用しにくい(階段・案内表示など)	142	7.81
7	休憩できる場所が少ない(身近な公園や歩道のベンチなど)	174	9.57
8	経済的な問題	184	10.12
9	周囲の人の目が気になる、理解がない	133	7.32
10	介助者がいない・少ない	107	5.89
11	その他	73	4.02
12	特にない	147	8.09

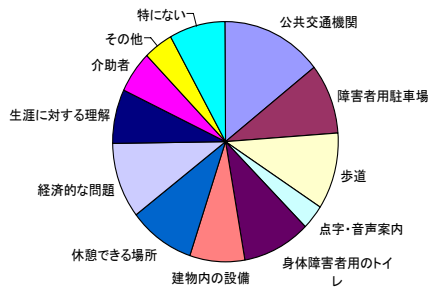
・ ボランティアに買い物など外出時の手伝いをしてもらった経験

	回答内容	数	%
1	あり	115	15.97
2	なし	556	77.22
3	無回答	49	6.81

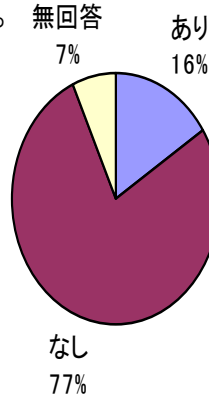
・ もしボランティアがいたら、してもらいたいこと(複数回答)

	回答内容	数	%
1	買い物への同行	156	14.18
2	レクリエーション活動への同行	113	10.27
3	映画、コンサート、美術館などへの同行	93	8.45
4	通勤・通学時の介助	39	3.55
5	炊事の手伝い	118	10.73
6	洗濯の手伝い	88	8
7	掃除の手伝い	162	14.73
8	その他	52	4.73
9	特にない	279	25.36

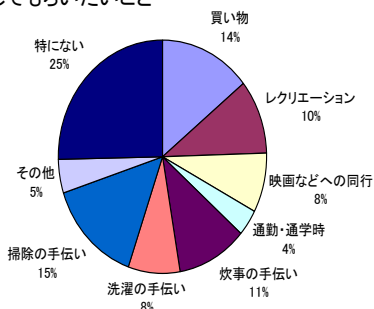
外出時不便な点



ボランティアに手伝わってもらった経験



ボランティアにしてもらいたいこと



### ③コーディネーターの配置

登下校見守り等支援事業に参加する支援利用児及び保護者とボランティアの双方を取り巻く環境や交流の懸け橋など、事業における支援や調整役として、また、利用者とボランティアへのアセスメント・マッチング・ヒアリング等の事業支援を行い、登下校見守り等支援事業において専門的な役割を持ったスタッフとして平成20年10月に配置した。

10月から、自立支援協議会の事務局として会議に参加し、ボランティア及び利用者の申込みが終了後の11月からアセスメント等を開始している。

### ④ボランティアの募集・育成

#### ○ボランティアの募集

- ・市の広報紙にボランティア募集記事掲載。
- ・ボランティア募集ポスターの作成。
- ・民生委員・児童委員協議会へボランティア募集協力依頼。
- ・大牟田市社会福祉協議会ボランティア登録者への呼びかけ。
- ・大牟田市近隣の大学などへ学生ボランティアの呼びかけ。
- ・大牟田市内の事業所及び団体等主催のボランティア講座受講者への呼びかけ。
- ・地域の新聞社（有明新報）による記事。

などにより募集し、当初11名のボランティアの方から連絡があった。

#### 9月15日号広報紙記事

障害児へのボランティアの募集

障害がある児童の登下校時の見守りや車での送迎、または放課後一緒に遊んでもらうボランティアを募集します。

事前に研修を行うため、経験は問いません。なお、安心して活動してもらえるように、ボランティア保険に加入してもらいます。保険料は市で負担します。

▼活動期間 10月～12月（10月は研修の予定）▼対象 ボランティア活動に関心のある18歳以上の人▼報酬 無償（交通費のみ支給）▼申込み・問合せ 10月3日（金）までに福祉課（☎412663）ファクス（412664）へ

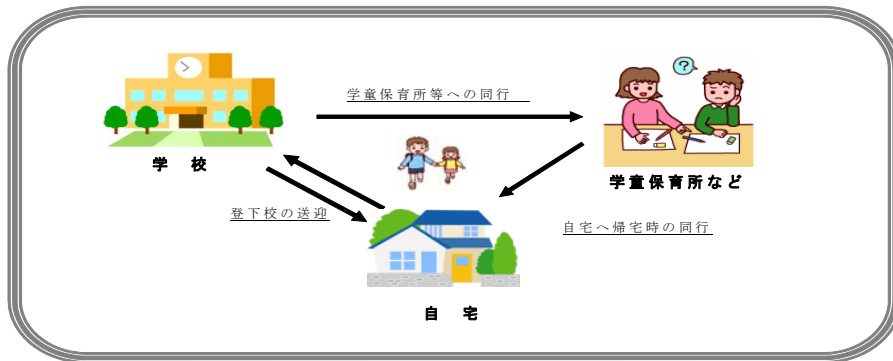


参考資料 8 : 募集ポスター

# 障害児へのボランティア募集

主に知的障害がある児童・生徒の登下校時の見守りや送迎をしていただくボランティアを募集します。

ボランティアの内容



- 対象者 : ボランティア活動に関心を持っておられる18歳以上の方。実施にあたりましては研修を行いますので、経験は問いません。
- 活動期間 : 平成20年10月~平成20年12月(10月に研修を行います。) 交通費を実費程度支給予定です。安心して活動していただくために、市の方でボランティア保険に加入いたします。
- 申込締切 : 平成20年10月3日(金)
- 申込・問合せ先 : 大牟田市保健福祉部福祉課障害サービス担当  
 電話 41-2663 ファックス 41-2664  
 電子メール fukushi01@city.omuta.lg.jp



■平成20年10月17日付 有明新報記事

The newspaper clipping features the same diagram as the poster. To the right of the diagram, the text reads:
 

**障害児の登下校の見守り**  
**ボランティア参加得て検証**  
 大牟田市

大牟田市は市民のボランティア参加を得て十一月十二日に、障害児の登下校時の見守りや送迎活動を実施する。主に知的障害がある児童、生徒の安全な通学を支援、同市障害者自立支援協議会の協力を得て、障害児やその家族からのニーズ、ボランティアスタッフの精進、活動ぶりなど検証結果を基にその後の対応を考へる。

障害児の登下校の送迎や放課後の学童保育所などへの同行、学童保育所などから帰宅への帰宅時の同行などに携わるスタッフが必要。対象はボランティア活動に関心を持つ十八歳以上の人。実施前に研修を受けるので経験の有無などは問わない。学生にボランティア希望者がおり、時間などの関係による特定の曜日、時間帯の参加も可能。駅から最寄りのバス停への乗り降りの見守りなどのニーズもあるものと市福祉課は見ており、団塊の世代の退職者などで比較的少ない時間に余裕がある人などの積極的な参加を期待する。

ボランティア関係会は二十二日午後二時半から市企業局三階特別室で開催される。市内の複数の施設で研修が行われる。

ボランティアは交通費実費程度を支給する予定。経費は金額が国庫補助される。申し込み問い合わせは、大牟田市保健福祉課福祉課(電話412663番、ファックス412664番、Eメール fukushi01@city.omuta.lg.jp)に。 (有明 公雄)



## ○ボランティア説明会

事業の概要説明の後、下記様式により今までの活動歴、持っている資格、活動できる曜日などを記入してもらい、個人情報保護に関する同意をして頂いた上で、申込みしてもらっている。

大牟田市社会福祉協議会職員よりボランティア概論の講義も同時に行う。

なお、当日は11名の内、1名が欠席し、ボランティアも辞退され、また、申込み後1名辞退申し出があり、事業開始までに活動可能ボランティアは9名となった。

参考資料 9		ボランティア申込書		平成 年 月 日	
大牟田市長 殿					
障害児へのボランティアにつきまして、下記のとおり申し込みます。					
なお、この事業により知り得る個人情報につきましては、外部に漏らしません。					
印					
氏 名			性別	□男・□女	
住 所	〒 _____		小学校区 _____		
生 年 月 日	男 大 年 月 日 生	年齢	歳		
電 話 番 号	_____	携帯番号	_____		
携帯メールアドレス	@				
パソコンメールアドレス	@				
職 業 又 は 学 校 名	※学部学科等詳しくご記入下さい。				
職 歴 等	□福祉施設 ・ □病院 ・ □学校 ・ □保育園 □その他 ( )				
ボランティア等の活動歴等	※民生員、児童員または福祉関係の活動歴などありましたら、ご記入をお願いします。 ※詳しくご記入下さい。				
資 格 等	□社会福祉士・□ホームヘルパー・□介護福祉士 □介護支援専門員・□教員免許・□幼稚園教諭免許 □保育士・□看護師・□その他 ( )				
移 動 手 段	□徒歩 ・ □自動車 ・ □自転車、バイク・ □その他 ( )				
活 動 で き る 曜 日 ・ 時 間	午 前		午 後		
	□毎日(時間____時 ~ ____時)		(時間____時 ~ ____時)		
	□週____日				
	◇月(時間____時 ~ ____時)		(時間____時 ~ ____時)		
	◇火(時間____時 ~ ____時)		(時間____時 ~ ____時)		
	◇水(時間____時 ~ ____時)		(時間____時 ~ ____時)		
	◇木(時間____時 ~ ____時)		(時間____時 ~ ____時)		
	◇金(時間____時 ~ ____時)		(時間____時 ~ ____時)		
	◇土(時間____時 ~ ____時)		(時間____時 ~ ____時)		
※ご記入いただく時間帯によって、ボランティア活動を確定するものではありませんので、活動できそうなすべての時間帯の記入をお願いします。					
※この申込書にご記入いただいた個人情報につきましては、この活動以外に利用することはありません。					

## ボランティアとは？

### 【ボランティア活動の原則】

#### ☆自発性

他から強要されて行うのではなく、自分の意思と判断によって行う活動です。

#### ☆社会性・公益性

地域社会をより良くしていこうとする活動

#### ☆無償性

活動の見返りとして、報酬や名誉などを求めない

### 【ボランティア活動ってなんだろう？】

地域社会の中で、自分にできることは何かを考え、自分から行動することがボランティア活動です。

いつでも、どこでも、だれでも、気軽に、楽しくできるのがボランティア活動です。

難しく考える必要はありません、道や公園などでゴミが落ちていれば拾ったり、街で困っている人を見かけたら自然と声を掛けたり、手を貸したりと、普段の生活の中の何気ない行動も立派なボランティア活動なのです。

また、ボランティア活動を通して多くの人との出会いや、経験が自分自身のために役立っていく、そんな活動が、ボランティア活動なのです。

### 【ボランティア活動のポイント】

#### ☆相手の立場になる

「してあげる」という気持ちでなく対等な立場で、相手にとって今何が必要なのか、何を求めているのかを考えてお手伝いをしましょう。

#### ☆約束・秘密を守る

ボランティア活動は特に相手との信頼関係が強く求められます、活動する先でのルールやマナー・約束や時間は守りましょう。

また、相手のプライバシーに関わることは、他の場所で話さないようにしましょう。

#### ☆無理をしない

ボランティア活動は、長く継続して行うことが大切です。活動を自分の能力や生活に無理のない程度に組み入れ、ライフスタイルの一部として続けていきましょう。

#### ☆責任をもとう

対人・対社会的な活動のため、自分の活動には責任を持ちましょう。

#### ☆学習をしよう

自ら活動を振り返って評価をしたり、常に新しい情報を収集し、学習することは、より良い活動やレベルの向上につながり、活動を充実させることにもつながります。

#### ☆周囲の理解と協力を

ボランティア活動は自分だけでできるものではありません。活動を継続し発展させていくために家族や友人、学校や職場の人など、周囲の理解と協力を得ることが大切です。

## ○ボランティア研修

知的障害者施設「あけぼの会」の協力により知的障害児・者の特性について、ビデオなどを使い講義形式と実際の知的障害者が軽作業を行っている現場に入って交流し、知的障害者の特性を学んでもらった。

当該施設の重度の知的障害児者が多く、また強度の自閉症児者の入所者もあり、支援の対象に想定している障害児よりはコミュニケーションをとりづらい方々を研修の対象とした。

### 参考資料 11

### ボランティア研修プログラム

講座 「知的障害児者の理解」  
「障害児者との交流」

日時：平成20年10月27日（月）午後1時30分～3時30分

場所：あけぼの学園3階レストラン  
：作業クラス

#### 1. 「知的障害者の理解について」

- |                           |     |
|---------------------------|-----|
| 1) ビデオ「右京中との交流」           | 15分 |
| 2) 知的障害について 資料1           | 20分 |
| 原因について 100以上              |     |
| 経度・中度・重度 田中ビネー知能検査        |     |
| 3) 知的障害者の移動介助マニュアル        | 15分 |
| 資料2 「国土交通省作成交通従事者向けマニュアル」 |     |
| 4) ある実習生の感想               | 10分 |
| 資料3                       |     |

#### 2. 実際の交流

あけぼの学園の作業クラスに入って交流する  
紙工芸班など

30分

#### 3. 反省会

実際に接しての感想 質問  
学校児

30分

#### 4. 資料

社会福祉法人あけぼの会総合福祉開発研修センター  
知的障害児と共に歩む「ボランティア養成講座テキスト」入門コース

## 参考資料 12: ボランティア研修

### 資料 1. 「知的障害者の概要」

#### 1) おおよその人数知的障害分布

居場所	学校児	施設入所	在宅	在宅通い
人数	10万	10万	10万	10万

従来 おおよそ40万人と言われる知的障害者の住居分布。

#### 2) 理解の困難性

知的介護の困難性

疑似体験が出来ない

ヘルパー理解しにくい

障害名	疑似体験	代 表
身体障害	車椅子 杖	国会議員
知覚障害	アイマスク	大学教授 弁護士
聴覚障害	テレビ消音	大学教授 弁護士
知的障害	いない	いない

\*意見の代表者がいない 意見がわからない。理解しにくい。

ピープルファースト運動 自分たちの意見を言おう

#### 3) ガイドヘルパーの仕事

行動を予見し、安全を確保すること

知的障害者を理解するために

特にコミュニケーションを取るためにどうするか

### 資料 2. 抜粋

「知的障害者のあるお客様への交通従事者向けの対応マニュアル作成について」

国土交通省作成

#### 1) 外出時に見受けられること

- ・人の態度や言葉使いに敏感で、言動が気になることがある。
- ・情報量が多いと混乱する傾向がある。
- ・コミュニケーション能力に障害があり、困ったことがあってもうまく意思を伝えられない場合がある。
- ・職員及び構内・車内アナウンスが早くて理解できない場合がある。
- ・駅名等の表記については、記号で覚えるので、漢字で表わされた方がよい場合がある。
- ・座席に着いた方が落ち着く

#### 2) 課題と考えられる改善・対応方法

- ・利用者に安心感を与えられるために、人的対応を充実させる
- ・人的対応の際、ゆっくり優しく心のゆとりを持って、利用者の要件を聞く姿勢が必要。また、利用者によりゆっくり、繰り返し伝えることが必要。

○ボランティア育成（フォローアップ）

大牟田市内の知的障害児施設（社会福祉法人）『あけぼの学園』・『りんどう学園』2ヶ所にて、講習・現場研修を予定していたが、研修が『あけぼの学園』での1回のみになっただけのため、見守り等支援実施期間（1週間）を設け、保護者同行にてボランティアに数回現場支援を行い、ボランティアへのフォローアップを行った。（仮実施期間について参考資料13の仮支援表を参照）

参考資料 13

平成20年度 登下校見守り支援等事業 仮実施期間 11月支援表

(11月10日～11月14日迄)

曜日	対象児 D			対象児 A			
	支援時間	ボランティア希望者	支援時間	ボランティア希望者			
11月	10(月)	午前		午前 7:50~8:10	ボランティア B ボランティア D ボランティア E ボランティア H		
		午後 15:15~	ボランティア D ボランティア E ボランティア F	午後 14:00~14:20	ボランティア A ボランティア B ボランティア H		
	11(火)						
	12(水)	午前		午前 7:50~8:10	ボランティア B ボランティア E ボランティア F		
		午後		午後 14:00~14:20			
	13(木)						
	14(金)	午前		午前 7:50~8:10	ボランティア A ボランティア C ボランティア F		
		午後 16:15~	ボランティア G ボランティア I	午後 15:00~15:20	ボランティア H		
	期間中の支援方法	①11月10日(月) 保護者通常通りに対象児と登校してもらう ②11月12日(水) 保護者通常通りに対象児と登校してもらう ③11月14日(金) 保護者はボランティアの後方から同行してもらう ボランティアが中心となって支援する。			①10日(月・午前) 保護者お通常通りに対象児と登校してもらう ②10日(月・午後) 保護者お通常通りに対象児と下校してもらう ③12日(水・午前) 対象児の前コ名(女性)ボラ、残りは後引コ名(保護者にも同行してもらう) ④14日(金・午前) 対象児の前コ名(女性)ボラ、残りは後引コ名(保護者にも同行してもらう) ⑤14日(金・午後) 対象児の横について支援(声かけ)をする。		

**※注意** 毎回支援終了後コは、障害者協議会「ほっとかん」へ連絡してください。  
各個人ずつでの連絡をお願いします!! (連絡の有無にてカウントを取ります。)

## ⑤利用者の募集

各学校を通して利用申込書を送付し、平成20年10月23日（木）に行ったところ、説明会参加者3名しか出席がなかった。

当日、児童生徒育成会と協議し、申込者が少なかった理由及び今後の申込者の拡大についての検討を行った。理由としては、確かに学校を通して案内は来ているが、事業の内容が、誰が対象なのかなど分かりにくかったことと、プロではないボランティアに子どもを任せる事に対する不安などが原因ではないかとのことで、利用者拡大方法については、児童生徒育成会を通しての周知を再度行って頂き、小人数でも事業を実施していく中で不安を解消してもらい、利用者を増す事に繋げていった。

### 参考資料 14：説明文書

ボランティアを活用した児童・生徒の登下校における見守り等の支援についての概要

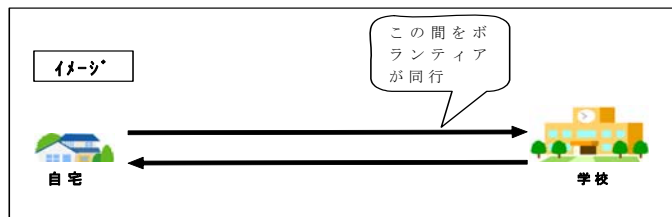
大牟田市では、平成20年度に、児童・生徒の登下校におけるニーズ調査を行い、そのニーズに対し、ボランティアによる支援がどれだけ効果があるのかという調査研究事業を国の補助を受けて行います。

その調査研究の一環として、下記のようなボランティアを活用した、登下校の移動支援のモデル事業を11月～12月にかけて行います。

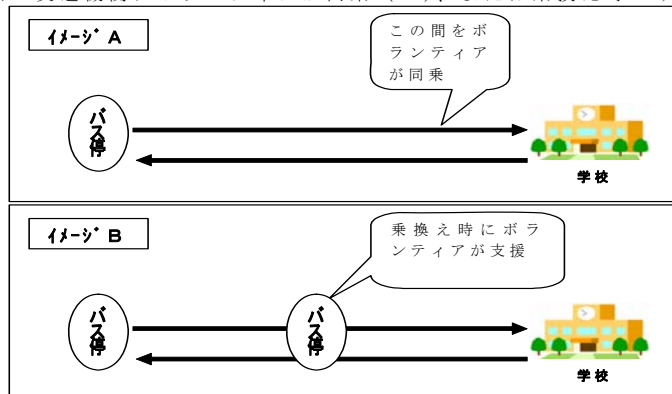
集まるボランティアの人数によっては、事業の規模など変わることがあります。また、今回支援を行うのは、ボランティアですので、専門家による高度な支援が必要な場合の対応はできない可能性もあります。申込みをしていただいた結果、対応ができない場合もあることをご了承ください。

想定されるモデル事業の例

- 1) 登下校の見守り隊から学校まで、ボランティアが徒歩により同行する支援



- 2) 公共の交通機関にボランティアが同乗 (A)、または乗換え時のみの支援 (B)



モデル事業のため、期間が短くなっておりますが、この調査研究事業の結果を、今後地域に密着した支援を充実させるために生かして行きたいと思っておりますので、ご協力をお願いします。

参考資料 15 : 申込書

登下校の見守り等支援利用申込書

平成 20 年 月 日

大牟田市長 殿

保護者 住所 \_\_\_\_\_  
 (申請者) 氏名 \_\_\_\_\_ 印  
 電話番号 ( ) \_\_\_\_\_  
 携帯番号 \_\_\_\_\_

平成 20 年 11 月 ~ 12 月にかけて行われる登下校見守り等支援事業について下記のとおり申し込みます。

申込児童・生徒名			学校名		
住 所	〒 _____				
生 年 月 日	平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日	生 小・中・高 _____ 年生	性別	<input type="checkbox"/> 男・ <input type="checkbox"/> 女	
連絡先	優先順位	氏 名	続柄	電話番号	備 考
	1				
	2				
	3				

※続柄は「申込児童・生徒」からみたものです。

○ 希望する曜日等	11月～12月における通常の登下校時間													
	<table border="0"> <tr> <td style="text-align: center;">登校時</td> <td style="text-align: center;">下校時</td> </tr> <tr> <td>◇月 (時間 _____ : _____ ~ _____ : _____ 時)</td> <td>(時間 _____ : _____ ~ _____ : _____)</td> </tr> <tr> <td>◇火 (時間 _____ : _____ ~ _____ : _____ 時)</td> <td>(時間 _____ : _____ ~ _____ : _____)</td> </tr> <tr> <td>◇水 (時間 _____ : _____ ~ _____ : _____ 時)</td> <td>(時間 _____ : _____ ~ _____ : _____)</td> </tr> <tr> <td>◇木 (時間 _____ : _____ ~ _____ : _____ 時)</td> <td>(時間 _____ : _____ ~ _____ : _____)</td> </tr> <tr> <td>◇金 (時間 _____ : _____ ~ _____ : _____ 時)</td> <td>(時間 _____ : _____ ~ _____ : _____)</td> </tr> <tr> <td>◇土 (時間 _____ : _____ ~ _____ : _____ 時)</td> <td>(時間 _____ : _____ ~ _____ : _____)</td> </tr> </table>	登校時	下校時	◇月 (時間 _____ : _____ ~ _____ : _____ 時)	(時間 _____ : _____ ~ _____ : _____)	◇火 (時間 _____ : _____ ~ _____ : _____ 時)	(時間 _____ : _____ ~ _____ : _____)	◇水 (時間 _____ : _____ ~ _____ : _____ 時)	(時間 _____ : _____ ~ _____ : _____)	◇木 (時間 _____ : _____ ~ _____ : _____ 時)	(時間 _____ : _____ ~ _____ : _____)	◇金 (時間 _____ : _____ ~ _____ : _____ 時)	(時間 _____ : _____ ~ _____ : _____)	◇土 (時間 _____ : _____ ~ _____ : _____ 時)
登校時	下校時													
◇月 (時間 _____ : _____ ~ _____ : _____ 時)	(時間 _____ : _____ ~ _____ : _____)													
◇火 (時間 _____ : _____ ~ _____ : _____ 時)	(時間 _____ : _____ ~ _____ : _____)													
◇水 (時間 _____ : _____ ~ _____ : _____ 時)	(時間 _____ : _____ ~ _____ : _____)													
◇木 (時間 _____ : _____ ~ _____ : _____ 時)	(時間 _____ : _____ ~ _____ : _____)													
◇金 (時間 _____ : _____ ~ _____ : _____ 時)	(時間 _____ : _____ ~ _____ : _____)													
◇土 (時間 _____ : _____ ~ _____ : _____ 時)	(時間 _____ : _____ ~ _____ : _____)													
11月～12月において、行事等により登下校時間が変更される日がありましたら記入してください。														

○ 通学の方法	
※該当する分はすべてチェックしてください。	
<p>登下校の方法</p> <p>登校時</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 徒歩 (徒歩の場合下記の設問にお答えください。)</li> <li>誰と? [ <input type="checkbox"/> ひとり・<input type="checkbox"/> 兄弟・<input type="checkbox"/> 親・<input type="checkbox"/> その他 ( ) ]</li> <li><input type="checkbox"/> 自家用車</li> <li><input type="checkbox"/> 自転車</li> <li><input type="checkbox"/> スクールバス</li> <li><input type="checkbox"/> 公共交通機関             <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> バス 乗換有 ( _____ バス停 ~ _____ バス停 ~ _____ バス停 )</li> <li><input type="checkbox"/> バス 乗換無 ( _____ バス停 ~ _____ バス停 )</li> <li><input type="checkbox"/> 電車及びバス ( _____ 駅 ~ _____ 駅 ~ _____ バス停 ~ _____ バス停 )</li> </ul> </li> <li><input type="checkbox"/> 集団登校</li> <li><input type="checkbox"/> その他 ( )</li> </ul> <p>下校時</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 徒歩 (徒歩の場合下記の設問にお答えください。)</li> <li>誰と? [ <input type="checkbox"/> ひとり・<input type="checkbox"/> 兄弟・<input type="checkbox"/> 親・<input type="checkbox"/> その他 ( ) ]</li> <li><input type="checkbox"/> 自家用車</li> <li><input type="checkbox"/> 自転車</li> <li><input type="checkbox"/> スクールバス</li> <li><input type="checkbox"/> 公共交通機関             <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> バス 乗換有 ( _____ バス停 ~ _____ バス停 ~ _____ バス停 )</li> <li><input type="checkbox"/> バス 乗換無 ( _____ バス停 ~ _____ バス停 )</li> <li><input type="checkbox"/> 電車及びバス ( _____ 駅 ~ _____ 駅 ~ _____ バス停 ~ _____ バス停 )</li> </ul> </li> <li><input type="checkbox"/> 集団登校</li> <li><input type="checkbox"/> その他 ( )</li> </ul>	<p>登下校時ボランティア等に求めたい支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 声かけ・<input type="checkbox"/> 見守り・<input type="checkbox"/> 付き添い・<input type="checkbox"/> 身体介助</li> <li><input type="checkbox"/> 車での移動・<input type="checkbox"/> 公共交通機関での支援</li> <li><input type="checkbox"/> その他 ( )</li> </ul> <p>※受けたい支援を詳しくご記入ください。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>

○ 放課後の活動	<input type="checkbox"/> 部活動 <input type="checkbox"/> その他 ( )	<input type="checkbox"/> 学童保育	<input type="checkbox"/> 日中一時支援 <input type="checkbox"/> 特に無し
----------	--	-------------------------------	--

家族構成 (本人以外の同居の方)

続 柄	氏 名	年 齢	備 考 (在宅又は勤務等)
		歳	
		歳	
		歳	

## ⑥事業調査関係対象者の抽出

特別支援学校及び大牟田市内の特別支援学級に在籍する知的障害児、身体障害児及び発達障害児を対象とする。利用申し込み提出後、その内容を参考に対象児を抽出する。障害の程度により、専門の援助を必要とする児童には事前に辞退していただいた。

### ○対象児 6名

- ① 対象児 A・男児：軽度知的障害・自閉症（小学1年）
- ② 対象児 B・女児：ダウン症候群（小学3年）
- ③ 対象児 C・男児：ダウン症候群・心内膜欠損症・心臓病（小学1年）
- ④ 対象児 D・男児：知的障害・ダウン症候群（小学3年）
- ⑤ 対象児 E・男児：自閉症（中学2年）
- ⑥ 対象児 F・男児：広汎性発達障害（アスペルガー・ADHD）・軽度精神発達遅滞（小学4年）

### ○ボランティア 10名

- ① ボランティア A・女性
- ② ボランティア B・女性
- ③ ボランティア C・女性
- ④ ボランティア D・女性
- ⑤ ボランティア E・男性
- ⑥ ボランティア F・男性

（※ボランティア①～⑥は、学生ボランティア）

- ⑦ ボランティア G・男性
- ⑧ ボランティア H・女性
- ⑨ ボランティア I・女性
- ⑩ ボランティア J・女性（※ボランティア⑦～⑩は、一般ボランティア）

## ⑦事業期間

- ① 予定期間：平成20年11月～12月末までの2か月間。
- ② 実施期間：支援期間は、平成20年11月17日～平成21年1月31日まで。対象児の登下校時間を支援時間とした。
- ③ 2月からの支援実施は、個別での支援としボランティアと保護者とで実施する。

## ⑧事業実施期間内容

実施期間の内容については、（参考資料 16：実施期間表を参照）



参考資料 16: 実施期間表

平成 20 年度 登下校見守り等支援等事業実施内容

7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月	
日付	事業内容	日付	事業内容	日付	事業内容	日付	事業内容	日付	事業内容	日付	事業内容	日付	事業内容	日付	事業内容	日付	事業内容
29 火	第1回プロジェクト会議			1 水	第2回ニーズ調査ワーキング	1 土	見守り支援日	1 月	見守り支援日	1 木		1 日		1 日		1 日	
				2 火		2 日		2 火		2 金		2 日		2 月		2 月	
				3 水	ボランティア編成日 校長会(事業説明)	3 月	利用者・ボランティア個別 ヒアリング	3 水	見守り支援日	3 土		3 日		3 火		3 火	
				4 木		4 土		4 木		4 日		4 日		4 水		4 水	
				5 金		5 日		5 金	見守り支援日(午前・キヤ ンセル)	5 月		5 月	ボランティア交流会	5 木	ボランティア交流会	5 木	見守り支援日(個別による 支援)
				6 土	ニーズ調査発送	6 月		6 土		6 土		6 土	ボランティア東浜ヒアリン グ(1名)	6 金	見守り支援日(個別による 支援)	6 金	見守り支援日(個別による 支援)
				7 日		7 火		7 日		7 日		7 日		7 土	見守り支援事業交流会(全 体)	7 土	
				8 月		8 水		8 土		8 月		8 木		8 日		8 日	
				9 火	利用者説明会案内発送	9 木		9 日		9 火		9 金	見守り支援日	9 月		9 月	
				10 水		10 金		10 月		10 水		10 土		10 火		10 火	
				11 木	民児協ボランティア協力依 頼	11 土		11 火	見守り支援事業仮実施期間	11 木		11 日		11 水		11 水	
				12 金	広瀬大津田記事掲載	12 日		12 水		12 金		12 月		12 木		12 木	見守り支援日(個別による 支援)
				13 土		13 月		13 木		13 土		13 火	第3回プロジェクト会議	13 金	見守り支援日(個別による 支援)	13 金	見守り支援日(個別による 支援)
				14 日		14 火	第3回ボランティアワーキ ング	14 金		14 日		14 水		14 土		14 土	
				15 月		15 水		15 土	見守り支援事業交流会(全 体)	15 月		15 木	見守り支援日	15 日		15 日	
				16 火		16 木	第3回ニーズ調査ワーキング	16 日		16 火		16 金	見守り支援日	16 月		16 月	
				17 水		17 金		17 月	見守り支援日	17 水		17 土		17 火		17 火	第1回プロジェクト会議
				18 木		18 土		18 火		18 木		18 日		18 水		18 水	
				19 金	早稲田大学・民間団体の 学・保護者連絡会ボランティア ア集集依頼	19 日		19 水		19 金		19 月	ボランティア個別最終ヒア リング	19 木		19 木	見守り支援日(個別による 支援)
				20 土		20 月		20 木		20 土		20 火	第1回移動支援調査研究委員 会	20 金	見守り支援日(個別による 支援)	20 金	
				21 日		21 火		21 金	見守り支援日	21 日		21 水	見守り支援日	21 土		21 土	
				22 月	第2回ボランティアワーキ ング	22 水	見守り支援事業ボランティア 説明会	22 土		22 月		22 火	見守り支援日(全キャンセ ル)	22 日		22 日	
				23 火		23 木	見守り支援事業利用者説明 会	23 日		23 火		23 水	見守り支援日	23 月		23 月	
				24 水	第1回ニーズ調査ワーキン グ	24 金		24 月		24 水		24 木		24 火		24 火	見守り支援日(個別による 支援)
				25 木		25 土		25 火		25 木		25 日	学生ボランティア最終ヒア リング	25 水		25 水	
				26 金		26 日		26 水	見守り支援日	26 金		26 月	利用・保護者個別最終ヒア リング。見守り支援日	26 木		26 木	
				27 土		27 月	ボランティア研修会(あけ ほの学園)	27 木	学生ボランティア・途中ヒ アリング	27 土		27 火		27 金		27 金	第1回移動支援調査研究委員 会 見守り支援日(個別による 支援)
				28 日		28 火		28 金	保護者会、保護者・ボラヒ アリング、見守り支援日	28 日		28 水		28 土		28 土	
				29 月		29 水	見守り支援事業申込締切日 (1次)	29 木		29 月		29 火		29 日		29 日	
				30 火		30 木	第5回ニーズ調査ワーキン グ	30 土		30 火		30 水		30 日		30 日	
						31 金		31 日		31 水		31 木		31 土		31 土	見守り支援事業期間終了

## ⑨アセスメント

ボランティアと支援利用児・保護者に対してコーディネーターが個別面接をし、これを参考に個別レジメを作成、支援のマッチングを行った。(参考資料 17～21：アセスメントシートを参照)

### ○ボランティア

個別でボランティア経験や今回の事業に関するアセスメントをとる。今後の日程やコーディネートに必要な情報を聴取する。

- ① ボランティア経験の有無
- ② ボランティア経験内容
- ③ 支援する対象児の障害についての知識
- ④ コーディネーターへの要望

参考資料 17：アセスメントシート		平成20年度 移動支援事業ボランティアアセスメントシート	
ボランティア名	( 歳)	平成 年 月 日	ボランティア経験 有・無
職業又は学校名(所属)			
ボランティア活動について	※ボランティア経験内容や活動内容について(対象など)		
<b>今回のボランティア参加について</b>			
■知的(ダウン症)障害について			
■自閉症について			
コーディネーターに伝えておきたいこと			
備考:			

## ○利用者及び保護者

利用される家庭に伺い、直接対象児に会い、保護者へアセスメントを行う。  
また、登下校に使用する通学路を保護者と一緒に下見をし、注意点や安全場所の確認を行う。

- ① 障害児の概要
- ② 生活状況
- ③ コミュニケーションスキル
- ④ 障害適応スキル
- ⑤ 指導法・援助
- ⑥ 通学路での危機管理、援助（支援）方法
- ⑦ 緊急時の対処方法

### 参考資料 18：アセスメントシート

#### 訪問票（アセスメント票）

訪問日： 年 月 日

障害児名： ( 歳 小・中 学年)		障害名：		
障害児本人の概要	生活歴	【最近の体調・情緒面】		
	好きな事			
	苦手な事			
薬の服用	有 - 無	服用の薬名：	(服用時間： )	
1日の生活状況(大体の1日の流れ)				
日常生活での気になる事・行動		※特定のこだわりや行動など		
■コミュニケーションスキル(障害児本人)				
意志表示の手段 (目声かけに対してなど)	行動の特徴		本人の能力	
	言語	非言語	気づいたこと	カード・絵
意志表示の程度	言語	非言語	気づいたこと	カード・絵
■コミュニケーションスキル(対人関係)				
行動の特徴		本人の能力		
野外移動				
対人関係での意志表示				

参考資料 19 : アセスメントシート

知的(ダウン症)障害 適応スキル			訪問日: 年 月 日
	チェック項目	スキルの有無	障害児の能力と制限
社会的スキル	他者の感情の理解	有・無	
	自己の行動の制御	有・無	
	他者からの要求に応じる	有・無	
自律性	物事に対する選択能力	有・無	
	状況に応じた行動能力	有・無	
	援助を求める・必要に応じて	有・無	
	新しい場面での自己解決	有・無	
<b>指導法・援助</b> 現在受けている援助			
自閉症 適応スキル			
	社会的相互交渉パターンの分類内容		スキルの有無
社会的相互交渉	孤立群	年齢相応に人に興味を持つことなく、他者に関心・無反応・無表情。	有・無
	受動群	他者との接触を受け入れ、他者を避けることはないが、自己から関わろうとしない。	有・無
	積極・奇異群	他者と積極的に近づこうとするが、関わり方は一方的であり、他者の感情などに関心をほらわない。	有・無
<b>指導法・援助</b> 現在受けている援助			

参考資料 20 : アセスメントシート

訪問日: 年 月 日

移動支援中の希望する1日の流れ

通学路中での危機管理	登校時	※ 登校中における障害児の注意点
	下校時	※ 下校時における障害児の注意点
	援助方法	※ 支援中の希望(付き添い・自立支援・目的地到着時に連絡は必要か)
通学路中での援助方法	現在の援助方法	
	支援中の希望支援	※ ボランティアへ希望する援助方法(声かけ・手をひく):ボランティアの体質や性別(人数)など
緊急時の対処方法	障害児の症状	※ 緊急時の行動特性・症状など
	場所	※ 緊急時での安全を確保できる場所
	望む対処方法	

備考:

参考資料 21 : アセスメントシート

二次アセスメントシート

訪問者名:

障害児名 氏名: (年齢: 歳) 学校 小・中 年生

現在の状況	在宅時	
	通学時	
援助方法の希望	全体的	
	特にホラへ	

※注意すべき点・気になる点など

訪問者所見

通学路(地図)  
※気になる所

※ポイントとなる所・注意点

### 3. 対象児別の支援内容

#### 1. 本人概要

##### 1) 生活状況

- ・アセスメントでの対象児の特徴や行動特性、好きなことなどについて

##### 2) コミュニケーションスキル

- ・自他においてのコミュニケーション能力について

##### 3) 登下校見守り等事業での支援方法

- ・登下校見守り等支援事業実施中、個別での支援方法について

#### 2. コーディネーターのアセスメント・支援観察状況

- ・支援実施初回時の支援状況及びボランティアと対象児の関係性

#### 3. 登下校見守り等支援事業実施

- ・登下校見守り等支援回数（実施した支援回数 / 全体の予定支援回数）

- ・登下校見守り等支援事業実施中の支援内容について

〔※①・②：実施期間中を前半と後半に分けて記載〕

〔※1)：ボランティアが支援を行った日 2) 交通手段（支援方法）〕

#### 4. 登下校見守り等支援事業の感想

- ・登下校見守り等事業参加者の感想及び実施結果について

#### 5. 登下校見守り等支援事業後

- ・事業後の支援経過について

※実施内容として1次ヒアリング・ボランティア日誌・最終ヒアリングを参照

##### ○利用保護者

・利用者日誌（利用者証）：参考資料 25 参照

・1次ヒアリングシート・1次ヒアリング結果：参考資料 26・28 参照

・最終ヒアリング：参考資料 31 参照

・最終ヒアリングシート、アンケート記入用紙：参考資料 33 参照

##### ○ボランティア

・1次ヒアリングシート・1次ヒアリング結果：参考資料 27・29 参照

・ボランティア日誌：参考資料 25 参照

・最終ヒアリング結果：参考資料 32 参照

・最終ヒアリングシート、アンケート記入用紙：参考資料 32・34 を参照

## 【対象児 A・男児：軽度知的障害・自閉症（小学 1 年）】

### 1. 本人概要

#### 1) 生活状況

最近まで風邪ぎみで、薬を服用。情緒面は安定している。食事は偏食ぎみで 1 年前から体重の増加が見られ、現在食事制限中。食べ物やアニメ、飛行機が好き。虫や暗い所、足下が不安定な所は苦手。

#### 2) コミュニケーションスキル

他者の声かけには理解を示す。今までの環境で女性と関わるが多かったため、男性に対して少し拒否行動が見られる可能性がある。自分が興味を持つことに対して自発的に動く。声かけや会話の度合も対象児に合わせるが、しつこく話し過ぎると知らん振り、無視などでの拒否行動が見られる。

#### 3) 登下校見守り等支援事業での支援方法

対象児のペースに合わせ、通学路中の交差点や細道との合流場所での車や自転車の飛び出しに注意し、事前の声かけを行う。自立登下校を目指しているが、関係が良好なものになるまで手を繋いで支援し、その後は対象児に合わせ、状況に応じて支援を行う。

### 2. コーディネーターのアセスメント・支援観察状況

保護者と離れることを嫌がり、見えなくなると立ち止まってしまう。ボランティアの声かけに対しても反応が少なく、対象児から積極的に話すことは見られなかった。下を向いて歩くため、危険個所での注意が疎かになっている。事前の声かけに反応は見られるが、その場での認識は薄い。常に声かけをし意識させていくような支援方法を 1 つのパターンとして行い、通学路中の危険個所をクイズ形式で楽しく覚えさせる。

### 3. 登下校見守り等支援事業実施

平成 20 年 11 月 10 日～平成 21 年 1 月 30 日迄（支援 26 / 31 回）

#### ①支援前半

1) 11 月 14 日（金）登校：対象児 A

2) 徒歩：今回で 2 回目でしたが、まだ慣れていない様子でした。お母さんが少しでも後ろを歩くと、すぐに探してしまい、なかなかお母さんから離れられませんでした。ボランティアが話しかけると、返事をしてくれることもありましたが、今回はこちらからの呼びかけが少なかったと思います。

（ボランティア A：日誌/ 参考資料 25 参照）

1) 11 月 17 日（月）登校：対象児 A

2) 徒歩：対象児 A は、今朝からお母さんの付添いなしでの登校を始めました。初めは嫌がり、途中までお母さんと一緒に行きましたが、通学路半分からはボランティアメンバーと行けました。

（ボランティア B：日誌/ 参考資料 25 参照）

1) 11 月 17 日（月）登校：対象児 A

2) 徒歩：対象児 A は、最初は母親と離れるのを嫌がり、結局近くの橋の所まで母親について来てもらった。ぐずったことにより、出発したのが 8 時過ぎになり、学校に到着したのが 8 時 23 分と、ぎりぎりだった。

（ボランティア D：日誌/ 参考資料 25 参照）



参考資料(写真)



- ボラA：対象児Aとお母さんが前を歩いて、私は後ろからついて行った。最初はなかなか会話ができなかった。常にお母さんの近くで歩いていた。歩行中は下を向いて黙々と前を見て歩くようすが見られなかった。
- ボラC：お母さんと一緒に登校していたので、話はあまりできなかった。朝、お母さんと別れる時、ちょっと嫌がるが、ボランティアとの登校にだいぶ慣れてきたと思う。話しかけたら答えてくれる。安全確認もきちんと行っているが、下を向いて歩きがちである。
- ボラD：すごくお母さんと離れることを不安がり、お母さんの姿が見えなくなるとお母さんを探していた。まだやはりお母さんと離れるのを嫌がり、家から通学路の最初にある橋の所までお母さんについて来てもらった。まだボランティアとの間に壁を作っている気がする。
- ボラF：当初は、お母さんの姿が見えなくなると、すぐ立ち止まっていた。

(ボランティア1次ヒアリング：参考資料29参照)

②支援後半 ※「ボ：」・・・ボランティア 『対：』・・・対象児

- 1) 12月12日(金)登校：対象児A
- 2) 徒歩：ずっと会っていなかったのが心配だったが、特に嫌がられなく行けた。前の時とは登校の雰囲気違った。

(ボランティアE：日誌/参考資料25参照)

- 1) 12月15日(月)下校：対象児A
- 2) 自転車・徒歩：今日は歩きながらガードレールを触ったり、道端で立ち止まったり、目につく物が気になっていたようすです。交差点で一時停止して左右の確認をすることは、日によってできたりできなかったりしているようです。今日は私が注意を促しても、そのまま確認なしで通り過ぎていました。今日は、「ボ：(対象児Aの名前)君の手、大きいね。」と言って、私と手を合わせたり肌を触れたりしながらスキンシップを取りました。



(ボランティアA：日誌/参考資料25参照)

- 1) 1月9日(金)下校：対象児A
- 2) 徒歩：興味ある物、目に入ったりしたら立ち止まりなかなか進まないこともありました。寒いのに『対：暑い、暑い。』と言って上着を脱いだりしてこっちが心配でした。体温調整が上手くできないのかな？

(ボランティアI：日誌/参考資料25参照)

- 利用児保護者A：やはり当初は、打ち溶けにくい面がありましたが、顔合わせなどをして頂き、だいぶ馴染みやすくなったようです。最初の頃からは、ボランティアの方に迎えに来て頂くのを、とても喜んでおりました。そして日々進むにつれて、自立登校しなくてはならない自覚が出てきたように見受けられます。

(利用児保護者A：1次ヒアリング/報告資料28参照)

#### 4. 登下校見守り等支援事業の感想

- ボランティアC：登下校見守り等支援（ボランティア）というよりも楽しく一緒に登下校するという感じだった。対象児Aは、支援始めは母親から離れなかったが、数回支援に行くようになると自宅前で母親に『対：行って来ます。』と言い、校門到着時はボランティアからの声かけに対して『対：バイバイ。』とボランティアとスムーズに離れることができた。
- ボランティアE：対象児Aは学校ではとても元気で、校舎の窓から他の児童に『対：名前は？』と積極的に働きかけているように見られたが、支援中は話かけると答えてくれるが、あまり喋らないように見られた。

(ボランティア最終ヒアリング / P93～116 参照)

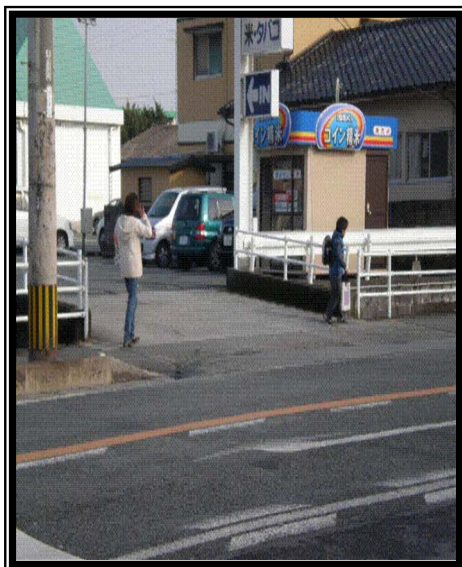
- 利用児保護者A：交差点の危険箇所も自分で意識しながら口に出して確認するようになった。ボランティアからの質問になかなか答えることが難しいこともあったが、自分なりに関わっていた。支援当初、ボランティアは女性を希望していたが、男性のボランティアに対しては嫌がらずに登下校できていた。

(利用児保護者A最終ヒアリング / P82～参照)

#### 5. 登下校見守り等支援事業後

最終ヒアリングで支援継続の希望があり、2月以降は学校の教室から大きな交差点の横断までボランティアが付添い、約200m先にいる保護者の所まで一人で下校をさせた。自立登下校ができるようにボランティアと協力して、日程調整を行いながら支援継続。

その後ボランティアと支援を継続していたが、対象児が3分の1程度、自立登下校ができるようになったため、ボランティアの支援はキャンセルとなった。今後は保護者が完全自立登下校できるように対象児と一緒に登下校を行っていくこととなった。





## 【対象児 B・女児：ダウン症候群（小学3年）】

### 1. 本人概要

#### 1) 生活状況

体調は良好であり、情緒面も安定している。絵を描いたり歌を歌ったりすることが好き。寒いのが苦手、体調によっては寒いと体力が落ちる。

#### 2) コミュニケーションスキル

他者からの声かけには理解を示す。また、自分が興味を持つことに対しては自発的に動く。人と関わることが好きなため、積極的に関わる。関係が良好になると自分に関わって欲しい時など、座り込むなどの行動もありえる。意思表示も言語、非言語で行う。

#### 3) 登下校見守り等支援事業での支援方法

対象児のペースに合わせ、メリハリをつけさせる。国道沿いの交差点や車、自転車などの飛び出しを注意し、事前の声かけも“ゆっくり・丁寧に”を心がけて行う。

### 2. コーディネーターのアセスメント・支援観察状況

対象児は明るく元気で、とても人なつっこい印象であった。初対面でも対象児から自発的に関わることが多く、対象児から手を繋ぐように積極的に関わりボランティアと会話をしながら登下校していた。関係が良好になると多少甘えたいという感情が出ると思われる。第三者からの声かけに対して行動・内容理解が出来るため、スムーズに行動に移すことができていたと思われる。

### 3. 登下校見守り等支援事業実施

平成20年11月17日～平成21年1月30日迄（支援 20 / 23 回）

#### ①支援実施前半

1) 11月17日（月）下校：対象児 B

2) 徒歩：対象児 B は、最初緊張していたけど、直ぐ仲良くなれた。お母さんの話をいろいろ聞いて、ただ仲良くするだけではいけないと思った。その子のためになるようなボランティアを心がけたい。

（ボランティア D：日誌/ 参考参考 25 参照）

1) 11月21日（金）登校：対象児 B

2) 徒歩：話をしながら歩いていると、話に夢中で後方の自転車への注意が疎かにな

っていました。ベルの音には気づいていたようすで、今後は道端に避けるようになるまで声かけをしていきたいと思います。（ボランティア B：日誌/ 参考資料 25 参照）

■ボラ A：初めて会った時からフレンドリーだった。誰にでもあいさつをしていた。

■ボラ B：一人言のように何か言っていることをよく聞くと、家族や友人を紹介してくれているようでした。「ボランティアの方と行くのを楽しみにしてたんです。」と言われて嬉しかったです。一緒に歌を歌いながら登校したりと楽しいです。

■ボラ D：すごく心を開いてくれた。嬉しいのか急に走りだしてしまうことがあった。

■ボラ E：初めて会った時からとても活発な女の子でこちら側のペースを巻き込んでいく子でした。その他は、突然の行動は慎重なようにも見えました。

（ボランティア 1 次ヒアリング/ 参考資料 29 参照）



参考資料(写真)

## ② 支援実施後半

- 1) 12月5日(金)下校：対象児B
- 2) 徒歩：寒かったけど元気で自宅に着くまで上機嫌でした。

(ボランティアH：日誌/ 参考資料 25 参照)

■利用児保護者B：初めは少し緊張しているようでしたが、すぐ慣れたようでした。「今日はボランティアさんよ。」と伝えると、嬉しそうに張りきって朝の準備もスムーズにできています。



(利用保護者B：1次ヒアリング/参考資料 31 参照)

### 4. 登下校見守り等支援事業の感想

■ボランティアC：対象児Bは、積極的にボランティアに話しかけたり手を繋いだり、とてもフレンドリーで関わりやすかった。ボランティアCが入る前、他のボランティアが支援に入っていたこともあったからではないかと思う。また、支援中に後ろから来る車・自転車から対象児を避けさせようとしたら、逆に「来てるよ。」とボランティアの心配をしてくれた。寒い時期だったので「体力が落ちているから、手を繋いであげてください。」と保護者から要請を受け、手を繋ごうとすると対象児から手を繋いでくれた。

■ボランティアH：対象児Bは、始めから会話が上手でとても元気だった。逆に会話ができなくて不安だったが支援していて元気をもらった。初回に対象児の荷物を持ってしまったが、次回より自分で持って帰るようになった。

(ボランティア最終ヒアリング / P93～116 参照)

■利用児保護者B：大きな変化はなかったが、子どもも学校へ行く楽しみができ、支援の日はとても楽しみにして朝の準備も本人の動きがスムーズになり、気持ちの変化が見られた。障害児童の親としては大変ありがたい事業でした。ただ回数など期待していたよりも少なかったと感じました。緊急対策などまだ考えていくことはあると思う。

(利用児保護者B最終ヒアリング / P85～参照)

### 5. 登下校見守り等支援事業後

事業開始から人との関わりが好きな対象児であり、支援の日はとても楽しみにしていた。最終ヒアリングでボランティア支援の継続を希望しているため、支援後にボランティアと日程調整を行い週1回の支援を行っている。

## 【対象児 C・男児：ダウン症候群・心内膜欠損症・心臓病（小学1年生）】

### 1. 本人概要

#### 1) 生活状況

体調は良好であり、情緒面は安定している。少し頑固な面も見られるが、モチベーションが上がると自発的に行動に移すことができる。会話中に気持ちが焦ると“どもる”ことがある。絵を描いたり、歌が好き。身体を動かす事も好き。怖がり音に敏感である。また、爪かみの癖がある。

#### 2) コミュニケーションスキル

他者からの声かけに理解を示す。意志表示も言語・非言語で行う。他者への感情表現として、一生懸命話そうとし“どもり”が見られるが、ゆっくりと話を聴き、強く聞き返すとより焦らせてしまう。他者との関係が良好なものとなると、突発的な出来事では見ついたりする。

#### 3) 登下校見守り等支援事業での支援方法

自立登下校を目指し、初めは付添い支援を希望。通学路中で対象児の好きな“しりとり”遊びをしながら支援を行い、危険個所や交差点、細道の合流場所での車や自転車の飛び出しに注意・声かけを事前に行う。体力を付けるためにも自力での登下校を行う。対象児に全て確認をさせる。

### 2. コーディネーターのアセスメント・支援観察状況

初めは恥ずかしがるが人と関わることが好きなため、関係が良好になると対象児から関わりを持つ。元気よく身体を動かしながら登下校をしている。対象児のモチベーションが上がると、突発的な行動もあるが声かけにより対処でき対象児から他者に手を繋ぐなどで積極的に関わる。

### 3. 登下校見守り等支援事業実施

平成20年11月28日～平成21年1月30日迄（支援15/19回）

①支援実施前半 ※「ボ：」・・・ボランティア 『対：』・・・対象児

1) 11月18日（金）下校：対象児C

2) 徒歩：元気で直ぐにお話しできました。途中『対：しんどい、これ持って。』と言ってくるのですが、なんとかランドセルの中にしまっておきました。

（ボランティアJ：日誌/ 参考資料25参照）

1) 11月28日（金）登校：対象児C

2) 徒歩：支援日が、初めて会った次の日だったので心配だった。想像以上に明るくいい子だった。

（ボランティアE：日誌/ 参考資料25参照）

1) 11月28日（金）登校：対象児C

2) 徒歩：今日は支援初日ということで、お母さんも学校までついて来た。しかし、対象児Cはお母さんがついて来なくてもいいみたいだった。対象児Cの大好きな“しりとり”をしながら学校まで行った。赤信号と分かっていたみたいだったけど、走りだそうとしていた。

（ボランティアB：日誌/ 参考資料25参照）





②支援後半 ※「ボ：」…ボランティア 『対：』…対象児

- 1) 12月12日（金）登校：対象児C
- 2) 徒歩：初めての場所で5分位遅刻してしまった。自分が初めてだったせいか、とてもぐずって、なかなか学校に行こうとしなかった。

（ボランティアF：日誌/ 参考資料 25 参照）

- 1) 12月19日（金）登校：対象児C
- 2) 徒歩：今日は“鬼ごっこ”をしながら登校がしたかったようで“じゃんけん”をしながら行きました。車が来て危ない場面があったので「ボ：今、怖かったね。だから走ったらダメだよ。」と言ったら少し分かってくれたように思います。



（ボランティアB：日誌/ 参考資料 25 参照）

- 1) 1月30日（金）下校：対象児C
- 2) 徒歩：直ぐにコーディネーターに気づき、帰る用意を急いでしていた。小学校近くのガソリンスタンドの横断歩道では一言声かけをするだけで止まり、信号の確認ができるようになっていた。国道沿いの歩道では今までと同様にルールの説明をしてから、石音出し遊びをした。途中、自宅近くで対象児の兄と一緒に帰った。対象児のようすを見ながら兄が先導し、工事中の所では対象児が行くのを確認し、先導してくれた。

（コーディネーター：状況報告/ 参考資料 25 参照）

- 利用児保護者C：今日が移動支援初めてだったのですが、前日にボランティアの方が自宅に来て頂き、顔合わせができたので、子どもにとっての明日の心の準備ができていたと思います。11/28（初日）は問題なく、スムーズにボランティアと楽しく登校ができていたと思います。ボランティアに付く人数が、マンツーマンの方がいいじゃないかと思いました。

（利用児保護者C：1次ヒアリング/ 参考資料 28 参照）

#### 4. 登下校見守り等支援事業の感想

- ボランティアB：通学路中に“鬼ごっこ”をしたかったのか、『対：しよう！』と誘われた。危ない場所があったので「ボ：危ないからできないよ。」と注意をした後は誘わなくなった。
- ボランティアE：対象児Cは3回支援し、登校支援後『対：下校は来てくれる？』と積極的に関わってくれ、対象児から手を繋いでくれた。通学路の道順もスムーズで、学校到着時にボランティアが『対：バイバイ。』と言うとスムーズに離れて行けた。

（ボランティア最終ヒアリング/P 93～116 参照）

- 利用児保護者C：以前より、一生懸命に歩くことを意識し、登下校している。時々、兄弟と一緒に帰るようになり、兄もこの事業を通して、弟への関わり方に変化が見られた。今回の参加は、利用している保護者から話を聞いて

た。学校からのお便りではなく直接話を聞いたので参加しやすかった。今までは保護者と一緒に登下校していたが、兄弟で行ったり、第三者が子どもと関わることでどの様な変化が見られるか、今までできなかったこともできるようになったりした。子どもにとっても保護者にとってもいい経験・きっかけとなった。

(利用児保護者C最終ヒアリング/P87～参照)

## 5. 登下校見守り等支援事業後

ボランティア支援継続希望しているため、ボランティア及びコーディネーターと日程調整を行い週1回の支援を行っている。

## 【対象児 D・男児：知的障害・ダウン症候群（小学3年生）】

### 1. 本人概要

#### 1) 生活状況

体調は良好であり、情諸面も安定している。成長に伴い気管が狭まっており、常に鼻水が出たりする。アニメや最近ハマっている食べ物（牛乳、カレー、ラーメン）の話が好き。人と触れ合うのは好きだが、人から何かを強制されるのが苦手である。集中している時は、少し“うなる”ことがある。

#### 2) コミュニケーションスキル

他者からの声かけには理解を示し、自分が興味を持つことに対しては自発的に動く。緊張、不安、嫌悪感などの自己表現として排尿することがあり、言語での意思表示が難しく、非言語での対応を行う。他者との関係性では、相手を試すことで相手がどのように理解し行動するのか、反応を見極めたりする。

#### 3) 登下校見守り等支援事業での支援方法

初めての人に対して試す行動があるため、危険個所などの注意をする。試す行為に対しては対象児が相手を見極めているため、その時々での対応が求められる。関係が良好になると積極的に関わるので、それまでの関係作りが重要となる。支援中は工事現場などの危険な所の回避など、事前の声かけや対象児のペースに合わせて支援を行う。

### 2. コーディネーターのアセスメント・支援観察状況

初対面の人の前では突然走ったり逃げたりするなどの一見、悪ふざけのような行動が見られる。対象児を理解してくれる人なのか反応を見極めるための行動であり、良好な関係が築ければ、とても明るく人なつっこい性格であるため、試す行動も変化し、他者からの声かけに理解を示す。

### 3. 登下校見守り等支援事業実施

平成20年11月10日～平成21年1月30日迄（支援 15 / 17回）

#### ①支援実施前半 ※「ボ：」・・・ボランティア 『対：』・・・対象児

1) 11月14日（金）下校：対象児D

2) 徒歩：しばらくジャングルジム、うんていで遊ぶ、元気、明るい。

（ボランティアG：日誌/ 参考資料25参照）

1) 11月17日（月）下校：対象児D

2) 徒歩：対象児Dは、いきなり走りだして、どうしたらよいのか分かりませんでした。友達にバイバイと声をかけたりして、とてもいい下校だったと思います。

（ボランティアB：日誌/ 参考資料25参照）

■ボラE：人なつっこい子だと感じました。

■ボラB：初対面で照れていたのか、少し逃げるように走りだしたので、注意が必要だと思った。途中、工事中の道を通る時「ボ：先に行くから後ろをついて来てね。」と言うと、『対：ありがとう。』と元気よく言ってくれて嬉しかった。

■ボラG：玄関で本人が出て来た時、私が気づく前に遊具の方に行ってしまった。

（ボランティア1次ヒアリング/ 参考資料29参照）





## ② 支援実施後半

- 1) 12月1日(月)下校：対象児D
- 2) 徒歩：今日も元気。帰り際には、ふざけてのお礼のあいさつをした。

(ボランティアG：日誌/ 参考資料 25 参照)

- 1) 12月8日(月)下校：対象児D
- 2) 徒歩：今日で対象児Dとの下校は2回目だったが、1回目より慣れたようすで走ったりすることもなく下校できた。帰り道ずっと対象児が笑顔だったのが嬉しかった。

(ボランティアB：日誌/ 参考資料 25 参照)

- 利用児保護者D：予想通りボランティアの方を試すようなことをそれぞれ行い、2回目3回目のなると自分から手を繋いだり、仲良く歩くことができている。多くのボランティアと接触することにより、母親に対して表現が増えたり、新しい一面を示している。ボランティアの方が毎回変わるなど、当初本人のストレスもあったかもしれないが、その反面社会性が出てきた気がする。(利用児保護者D：1次ヒアリング/ 参考資料 28 参照)

## 4. 登下校見守り等支援事業の感想

- ボランティアB：対象児Dの初支援の日、突然走りだすなどのボランティアへの試しがあつて心配だったが2回目はちゃんと一緒に並んで帰ることができた。
- ボランティアG：対象児Dは、最近では下校中に楽しく遊びながら帰り、たまにボランティアを干渉しながら試したりする。

(ボランティア最終ヒアリング / P93～116 参照)

- 利用児保護者D：自立登校ができた。初めは担任の先生が途中から見守ってくれ、少しずつ距離を離して1週間で自立登校できるようになった。今回の事業に参加したことで、子どもも親も安心して1人で学校へ出せるようになり、いいきっかけとなった。

この事業をやってみようというチャレンジ精神は嬉しかったし、ありがたと思ったが、こと実践となるとなかなか進まず、積極性や実行力不足にがっかりしました。ボランティア募集とボランティア養成についての努力不足、認識不足をすごく感じた。でも、この老人の街、大牟田に障害児者に市役所が関心を寄せてくれたことを高く評価したい。孤独になりやすい障害児者本人と保護者に“勇気と元気、育てていこう”という意欲を与えてくれる事業だと思う。絶対継続して下さい。協力は惜しみません。

(利用児保護者D：最終ヒアリング/ P89～90 参照)

## 5. 登下校見守り等支援事業後

最終ヒアリングでボランティア支援の継続希望をしており、支援を行っていたボランティアと日程調整を行い、週1回での支援を行っている。



## 【対象児 E・男児C中：自閉症（中学2年）】

### 1. 本人概要

#### 1) 生活状況

体調は最近風邪を引いていたが、だいぶ落ち着いてきている。情緒面は日によって変化するが、体調が悪くなると学校も欠席することもある。朝夜に薬の服用がある。電車や駅のスピーカーなどの写真を撮ることが好き。花や風景など綺麗な物を見ることも好きで散歩をする。雑音や人ごみ、足場の不安定な場所が苦手。特に大きな音に対して敏感である。ゆっくりと物事を進める。

#### 2) コミュニケーションスキル

他者からの声かけには理解を示す。意思表示は言語、非言語で行い、手を耳に当てたり目を反らすなどの行動が見られる。声かけもゆっくりと簡潔に説明をすると理解できる。対象児のパーソナルスペースに入り過ぎると、拒否反応を起こす。また、後方からの声かけ・接触は対象児のパニックを起こすことに繋がるため、対象児が確認できる所よりコミュニケーションを行う。

#### 3) 登下校見守り等支援事業での支援方法

対象児のパーソナルスペースに配慮し、コミュニケーションを取りながら支援を行う。また、対象児は自己で計画を立てて物事を進めるため対象児の行動ペースに合わせて支援を行う。支援をするという感覚ではなく、友達と一緒に帰るという雰囲気の中で楽しく下校支援を行う。声かけや会話は対象児のペースに合わせ、配分を十分に考慮する。

### 2. コーディネーターのアセスメント・支援観察状況

対象児のパーソナルスペースへの配慮を第一とし、声かけもゆっくりと行う。初めての場所では長時間居ることができないのだが、アセスメント時は保護者も驚くほどに長時間話をしていた。このことから対象児にとって興味があることや落ち着ける環境であれば他者との関わりは良好なものへ変化すると思われた。また対象児なりの計画パターンがあるため、計画パターンまたは行動ペースに合わせ、十分に配慮して支援を行う。

### 3. 登下校見守り等支援事業実施

平成20年11月26日～平成21年1月30日迄（支援 6 / 10回）

#### ①支援実施前半

- 1) 11月17日（月）下校：対象児 E
- 2) 徒歩：対象児のパーソナルスペースに少し入ったようで途中立ち止まることがあった。非常に緊張していた。

（ボランティアF：日誌/ 参考資料25参照）

- 1) 11月26日（水）下校：対象児 E
- 2) 徒歩：対象児 E は私を覚えていてくれて嬉しい。

（ボランティアG：日誌/ 参考資料25参照）

- 1) 12月1日（月）下校：対象児 E
- 2) 徒歩：今日は本当に対象児の機嫌が良かったためか、いろんな話をして帰った。お母さんもびっくりする程に対象児 E との距離が縮まった気がする。



（ボランティアF：日誌/ 参考資料25参照）

■ボラ F：当初は、ほとんど話さず、かなり緊張していた。パーソナルスペースに敏感であった。一番初めの時、パーソナルスペースが近かったせいか、「お兄ちゃんとは帰りたくない」と言われ、パーソナルスペースには1 m位取ることに気を付けている。また、声をかける時は、できるだけ対象児Eの真横から話かけるようにしている。

■ボラ E：顔合わせの時は上手く話せたとは思いますが、最初の支援の時に途中で拒絶されてしまい、考えてしまうことがあった。以後、絶妙な距離感を上手く取れるようになりたいです。 (ボランティア1次ヒアリング/ 参考資料 29 参照)

## ②支援実施後半

1) 12月15日(月) 下校：対象児 E

2) 徒歩：今日は最後のボランティアということで、対象児 E のクラスの子と一緒に写真を撮らせてもらった。対象児 E とはだいぶ距離が近づき、とても自分としては満足である。これから対象児 E はどんな大人になるのかな。 (ボランティアF：日誌/ 参考資料 25 参照)

1) 1月21日(水) 下校：対象児 E

2) 徒歩：母親の同伴なしで帰宅。問題なし。 (ボランティアG：日誌/ 参考資料 25 参照)

1) 1月26日(月) 下校：対象児 E

2) 徒歩：母親も同伴なしで帰宅。鼻歌まじりで気分よし。

(ボランティアG：日誌/ 参考資料 25 参照)

■利用児保護者 E：最初は緊張していました。周りもあまり見る余裕もなかったです。帰ってからは達成感があったようです。1回目よりも2回目は落ち着いていました。1回目はボランティアが一生懸命で、子どものパーソナルスペースがうまく掴めず、ちょっとショックを受けていたみたいですが、前日から本人に伝えていたので、子ども自身も心構えもできており、支援が終わった後の達成感も強かったみたいで、ちょっと興奮気味であった。2回目はボランティアGとふれあい共室で会った記憶があったのか落ち着いており、子どもが他人と雑談しながら歩いている姿を見るのは初めての経験であった。子どもも自信をつけたのか、他の移動教室を受けてみようかとも考えている様子です。

(利用児保護者E：1次ヒアリング/ 参考資料 28 参照)

## 4. 登下校見守り等支援事業の感想

■ボランティア F：対象児 F は自閉症で、パーソナルスペースの認識不足で初回は対象児から拒否されてしまった。次回パーソナルスペースの改善をしたところ、一緒に帰ることができた。自分も好きな食べ物の話をしたところ、話が広がった。最終的に一緒に写真を撮ろうと言ってくれた。また、対象児 F は、雨天時に傘をさして帰ったことがなかったが、今回の支援で初めて傘をさしてボランティアと一緒に帰った。その時はなかなか話ができなかったが、保護者も初めてのことでとても驚いていた。このボランティア活動に参加して、対象児 F の心を少しは開けたかなあと思い、達成感があり、やりがいがあった。

- ボランティアG：初回では音に敏感で、耳をふさぐなどがあったが、最近はなく鼻歌も聞くことがあった。対象児と面識があり、支援の回数が増えるにつれて繋がりやすかった。

(ボランティア最終ヒアリング / P93～116 参照)

- 利用児保護者E：支援当初は保護者同行だったので、子どもの可能性が広がっていくのが見えた。学生ボランティアの最終日、保護者を確認することなく自宅まで2人だけで下校していた。だが、今日で学生ボランティアと“お別れ”という言葉の理解ができていなかった。しかし、子どもにとってボランティアの存在が新鮮なものとして感じ、別れがどのようなことなのかを知ることができ、いい経験だったと思う。いろいろできるようになり子どもの世界も少しずつ広がっているように思う。

(利用児保護者E：最終ヒアリング / P91～参照)

## 5. 登下校見守り等支援事業後

支援スタート時では、少しずつボランティアと良好な関係を築きながら順調に進んでいた。最終ヒアリング時も支援の継続を希望し、ボランティアと日程の調整を行っていた。しかし、学校行事で怪我をしたことで2週間ほど休んでいたため、支援は一時キャンセルとなった。その後対象児の怪我の状態を見つつボランティアと日程調整を行った。学校は少しずつ行くようになったが、もともと対象児なりの計画パターン（1日の流れや学校出席日、早退する日など）にこだわりがあり、怪我をしたという出来事によって、今までの計画パターンと合わず、新たな計画パターンに変わった。そのためボランティアとの支援日が合わずキャンセルが続いたと思われる。下校ボランティアへの意欲はあるため、対象児の計画に合わせて支援日をボランティアと調整を行いながら今後支援を継続していく。

# 【対象児 F・男児：広汎性発達障害（ADHD・アスペルガー）・軽度精神発達遅滞

（小学4年生）】

## 1. 本人概要

### 1) 生活状況

体調は良好であり、情緒面も安定している。2年程前にパニックが起きたが、現在は落ち着いている。非科学的なことや食べ物の話が好き。虫や猫、犬が苦手である。

### 2) コミュニケーションスキル

他者からの声かけに初めは恥ずかしがるが理解を示す。強いこだわりとして他者から触れられた箇所につば吐きや引掻きをすることもある。他者からの声かけには理解を示すが、反応が小さかったり返事がなかったりするが、良好な関係でない他者からの強制的な聞き返しは対象児を不安にさせることがある。意思表示も言語・非言語で行う。

### 3) 登下校見守り等支援事業での支援方法

ポイントでの見守りを希望。歩行速度が速く下を向いて歩くため、危機管理が疎かになっている。交差点や細道の合流場所など車や自転車の飛び出しに注意・声かけを事前に行う。声かけも対象児の情緒面に配慮しながら支援を行う。

## 2. コーディネーターのアセスメント・支援介入状況

コーディネーターからの声かけに対しての返答は見られたが少し緊張していた。歩く速度は速く、下を向いて歩くことがあり、危険個所での注意が疎かになっていた。自宅近辺では道が細く車や自転車の交通量があるため、事前での声かけを行う。他者から触れられることの拒否反応の程度が認識不足のため、危険時の対処方法の検討が必要と思われる。

## 3. 登下校見守り等支援事業実施

1) 12月3日（水）下校：対象児 F

2) 徒歩：今まで通りの道順を通う（歩道に変更はできなかった。）タッチして別れる。

（ボランティア G：日誌/ 参考資料 25 参照）

### ■コーディネーター / 平成 20 年 12 月 3 日（水）下校：支援時間 15 時 40 分～15 時 55 分

B 小学校から一人で下校し、合流地点よりボランティアが下校支援を行った。対象児の横にボランティア、後ろにコーディネーター（男性）、100m 後方より別のコーディネーター（女性）が確認。祖母との合流地点までは、会話をしながら下校支援を行った。支援終了後、ボランティア・コーディネーターにタッチをして祖母と自宅へ向かった。対象児は帰宅後、祖母を数回叩くなどした。通常と違った環境で対象児も混乱し、少々パニックを起こしたのではないかとの報告だった。祖母から「（ボランティアに）迎えに来られるのは嫌？」に対して「（うなずき）一人で帰る。一人の方がいい。」と意志表示があり、今後の支援について検討したいということで連絡があった。

## 4. 登下校見守り等支援事業後の経過

保護者より連絡があり、今後の支援については全キャンセルとなった。支援終了後、対象児は合流場所で祖母と待ち合わせはせず、学校から自宅まで一人で自立下校が出来るようになり、今後は自立登校を目指したいとの報告を頂いた。

## 5. 事業実施における結果

対象児のパニックにおいて、対象児との関係・パーソナルスペースの認識不足、安全の為に通常使用している歩道とは逆の歩道を数回勧めたことに対し拒否が見られ、これに対して家族なら意思表示できたのが、第三者の指示にストレスを感じたのではないかと考えられる。また、パニックを起こしたのが支援スタート前であり、支援継続を希望の場合、対象児が支援事体に拒否反応を示す可能性があったと思われた。

対象児の情緒面も考慮しつつ対処をし、もし拒否が見られた時には必ずフォローアップを行い、保護者にも支援前日・当日に声かけを行ってもらうことで対象児へのストレスも軽減すると思われる。また付添いではなくポイントでの見守りなどの支援方法を状況に応じて行うことで、今後の対処も迅速に行えると思われた。

今回の支援の結果として、自立下校が可能となったが個別での支援方法については、今後の課題となる。



## 4. 登下校見守り等支援事業の支援過程

### ①支援方法の過程：人数、支援方法、月間支援表など

支援初回はボランティア2名・ローテーションでの支援を実施。2名支援体制が緊急時対応が迅速であると考えたが、ボランティア2名の支援体制は対象児の負担となったため、ボランティア1名での支援を行った。また、ボランティアを固定にすることで、対象児のストレスや環境への負担を軽減するようにコーディネートした。支援対象児に合わせ支援方法は、見守り・手を繋ぐ・横に並んで支援するなど、支援方法は状況に応じて行った。

(参考資料 22：支援月間表を参照)

参考資料 22：支援月間表

平成20年度 見守り支援事業12月・月間表

注意)ボランティアは支援終了後、必ず障害者協議会ほっとかん・市役所(福祉課)のどちらかにメール、電話をして下さい。電話の際は「移動支援ボランティア」と一言伝えてください。またメールを送られる時は氏名を入れてください。

曜日	A 小学校						B 小学校		C 中学校		
	対象児 A		対象児 B		対象児 C		対象児 D	対象児 E	対象児 F		
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	
集合場所	自宅	学校(教室)	自宅	学校(教室)	自宅	学校(教室)	自宅			学校(教室)	
1 時間	7:50~	13:45~	7:55~	15:05~	7:40~	13:45~					15:55~
2 月	ボラD	ボラA	ボラH	ボラD		ボラE					ボラF
3 時間									15:40~		
4 水									ボラG		
5 時間	7:50~	15:05~	7:55~	15:05~	7:40~	15:05~		15:15~			
6 金	雨天キャンセル	ボラI	雨天キャンセル	ボラH	雨天キャンセル	ボラJ		ボラG			
7 土						コーディネーター					
8 時間	7:50~	14:05~	7:55~	15:05~	7:40~	14:05~		15:15~			13:00~
9 月	利用者キャンセル	ボラD	利用者キャンセル	ボラE	コーディネーター	ボラB					ボラF
10 時間		14:05~									
11 水		利用者キャンセル									
12 時間	7:50~		7:55~	15:05~	7:40~	15:00~		15:15~			
13 金	ボラA		ボラD	ボラH	ボラB	ボラJ		ボラG			
14 土	ボラE		ボラC	ボラF							
15 時間	7:50~	14:05~	7:55~	15:05~	7:40~	14:05~		15:15~			
16 月	ボラE	ボラA	ボラD	ボラH	ボラB	コーディネーター		ボラG			
17 時間		14:05~									
18 水		ボラI									
19 時間	7:50~		7:55~	15:05~	7:40~	15:05~		15:15~			
20 金	ボラキャンセル		ボラC	ボラH	ボラB	ボラJ		ボラG			
21 土											
22 時間	7:50~	11:45~	7:55~	11:45~	7:40~	11:45~		15:15~			15:55~
23 月	雨天キャンセル		雨天キャンセル		利用者キャンセル			利用者キャンセル			利用者キャンセル
24 時間											10:50~
25 水	A 小学校 冬休み期間						B 小学校		C 中学校		冬休み期間

### ②事業実施内容：ボラ保険、場所、支援校区、交通費

登下校見守り等支援ボランティア登録者は、事前にボランティア活動保険に団体加入する。移動支援対象児の自宅より在籍する学校までの通学路(校区内)を支援場所とし、対象児と一緒に徒歩での登下校支援を行う。場合によって、公共交通機関使用での支援もあると考える。支援場所までかかった実費での交通費は、使用した交通方法、支援距離を計算し支援翌月に支給した。

### ③支援方法・支援記録：利用者日誌（利用者証）・ボランティア日誌・ボランティア証

ボランティアは支援する時、ボランティア日誌を常備してもらうことになっているが、学校や通学路では確認するのが困難なため、“ボランティア腕章”と写真付の“ボランティア証”を付けて支援を行った。対象児の登下校支援中での情緒的反応や行動、ボランティアの気づいたことなどの活動内容を日誌に記録する。対象児の支援方法として、事前のアセスメント内容より抜粋したレジメを参考とし支援を行う。支援終了後は、利用者日誌（利用者証）に状況報告を含めた感想などを記入、ボランティア日誌も同様とした。

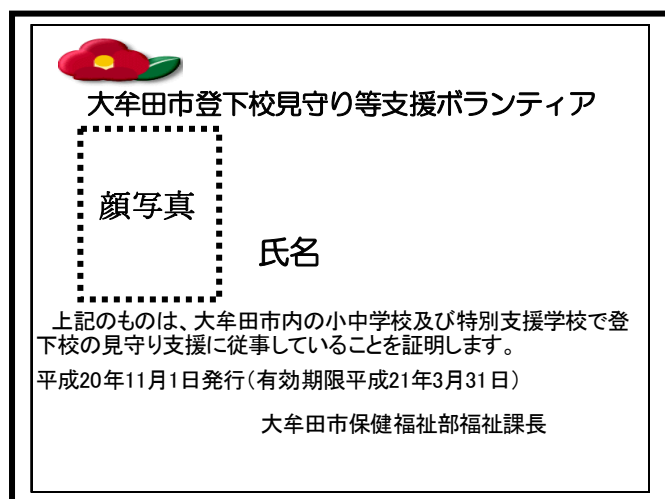
（ボランティア日誌：参考資料23を参照・利用者日誌：参考資料24を参照）

#### ○ボランティア証

登下校見守り等支援事業実施期間中に、ボランティア個人身分証明として、支援中は常時着用し、支援を行う。

#### ○ボランティア腕章

登下校見守り等支援事業実施期間中に、ボランティア身分証明として、支援中は常時着用し、支援を行う。



### ④事業実施中の利用者日誌記入内容

支援実施中に使用した利用者日誌（利用者証）とボランティア日誌について、対象児別で支援があった曜日の利用保護者とボランティアの内容をまとめた。（利用者日誌（ボランティア日誌）：参考資料 25 参照）

### ⑤登下校見守り等支援事業経過中でのヒアリング（聴き取り）

登下校見守り等支援事業・ボランティア活動を実施し、支援についての問題点や改善方法等のヒアリングまたはディスカッションを行った。これにより支援対象児への対応、ボランティアの活動不安の軽減、情報交換の場として見守り支援事業の実施内容の改善を図った。

- ・中間報告（ボランティア・保護者1次ヒアリング）については （ヒアリング記入用紙・参考資料 26～29 参照） とする。
- ・合同インタビューについては （参考資料 30 参照） とする。



## 登下校見守り等支援事業

### ボランティア日誌

	支援した児童・生徒名	移動区間	使用した交通手段	交通費(公共の交通機関を利用した場合のみ) (円)
11/4 (火)	登校			
	下校			
	気づいたこと			
11/5 (水)	登校			
	下校			
	気づいたこと			
11/6 (木)	登校			
	下校			
	気づいたこと			

#### 《緊急時の対応》

##### ○児童・生徒が

☆事故にあった。

☆急な病気になった。

☆いなくなった。

☆パニックになった。

などの状況が発生したら、下記連絡先に至急ご連絡ください。

##### ○ボランティアの方が

☆病気になった。

☆急な予定が入った。

などの状況で支援ができなくなった場合、下記連絡先に至急ご連絡ください。

#### 1 大牟田市障害者協議会

(8:30以降) TEL 0944-57-7161

メール hotkan@hotkan.jp

(8:30 前) 携帯

#### 2 大牟田市福祉課

(8:30以降) TEL 0944-41-2663

メール

(8:30 前) 携帯

メール

#### 《日誌の記入方法》

##### 「支援した児童・生徒名」

支援したお子さんの名前をお書きください。

##### 「移動区間」

実際に支援を行った区間(自宅～学校など)をお書きください。

##### 「使用した交通手段」

支援を行ったときに利用した交通手段をお書きください。

##### 「交通費」

バスなどを利用した際の交通費の合計(バスに同乗して支援する場合は、学校から自宅へ帰るまでの運賃等も含む)をお書きください。また、コインパーキングを利用した際なども、その費用をお書きください。

※領収書は必要ありません。

氏名 大牟田 太郎

MEMO

参考資料 24 : 利用者日誌 (利用者証)

# 登下校見守り等支援事業

## 利用者証

### 利用者証の記入方法等について

自宅(またはバス停)から学校まで及び学校から自宅(またはバス停)までボランティアが同行する場合に、以下の方法で利用者証を受け渡ししていただき、ご記入をお願いします。

☆登校時

○保護者の方は、まずこの利用者証をボランティアの方にお渡しください。

○ボランティアの方は、利用者証の最後のページに記載してあります児童・生徒の状況をまず確認いただき、「支援したボランティア名」欄に自分の名前をご記入ください。

○ボランティアの方は、目的地につきましたら、その日気づいたことを簡単に記入のうえ、児童・生徒のカバンの中に入れてください。

※ボランティアの方は、利用者証を受け取る時に保護者の方とカバンのどこに入れるかなどについてご確認ください。

☆下校時

○ボランティアの方は児童・生徒から利用者証を受け取り(できない場合はそのまま児童・生徒の自宅までご同行ください。)  
「支援したボランティア名」欄に自分の名前をご記入ください。

○児童・生徒の自宅についたら、その日気づいたことを簡単に記入のうえ、保護者の方にお渡しください。(下校時に利用者証を受け取っていない場合は、「支援したボランティア名」欄のご記入もお願いします。)

【児童・生徒が急病になったり、急な用事で変更になる場合の連絡先】

大牟田市障害者協議会

(8:30以降)

TEL 0944-57-7161

メール hotkan@hotmail.jp

(8:30前)

携帯

大牟田市福祉課

(8:30以降)

TEL 0944-41-2663

(8:30前)

携帯

11/18 (火)	ボランティア記入欄	登校時	支援したボランティア名	
			移動手段	
			気づいたこと	
	下校時	支援したボランティア名		
		移動手段		
		気づいたこと		
保護者の感想				
11/19 (水)	ボランティア記入欄	登校時	支援したボランティア名	
			移動手段	
			気づいたこと	
	下校時	支援したボランティア名		
		移動手段		
		気づいたこと		
保護者の感想				

11/20 (木)	ボランティア記入欄	登校時	支援したボランティア名	
			移動手段	
			気づいたこと	
	下校時	支援したボランティア名		
		移動手段		
		気づいたこと		
保護者の感想				
11/21 (金)	ボランティア記入欄	登校時	支援したボランティア名	
			移動手段	
			気づいたこと	
	下校時	支援したボランティア名		
		移動手段		
		気づいたこと		
保護者の感想				

## 利用者日誌・利用者証（ボランティア日誌）

1. 対象児A（男児：軽度知的障害・自閉症 / 小学1年）
2. 対象児B（女児：ダウン症候群 / 小学3年生）
3. 対象児C（男児：ダウン症候群・心内膜欠損症・心臓病 / 小学1年生）
4. 対象児D（男児：ダウン症候群 / 小学3年生）
5. 対象児E（男児：自閉症 / 中学2年生）
6. 対象児F（男児：広汎性発達障害・軽度精神発達遅滞 / 小学4年生）

### ■学生ボランティア 6名（平成20年11月17日～12月22日迄）

1. ボランティアA
2. ボランティアB
3. ボランティアC
4. ボランティアD
5. ボランティアE
6. ボランティアF

### ■一般ボランティア 4名（平成20年11月17日～平成21年1月30日迄）

7. ボランティアG
8. ボランティアH
9. ボランティアI
10. ボランティアJ

## <日誌内容>

- 1) 支援日（支援を行った日）
- 2) 支援したボランティア名（※ ①登校支援 ②下校支援）
- 3) 使用した交通手段
- 4) 保護者の感想
- 5) 気づいたこと（ボランティア記入内容）
- 6) ボランティア日誌抜粋

※「ボ：」・・・ボランティア 『対：』・・・対象児 「コ：」・・・コーディネーター

【対象児 A・男児：軽度知的障害・自閉症（小学1年生）】

- 1) 11月14日（金） 2) ①登校：ボラA・D・F ②下校：ボラH 3) 徒歩
- 4) 登校時はいつもと変わらず母親から離れなかったが、下校時は初めてボランティアHと2人で数メートル先に歩いて帰れたのでとても良かったです。
- 5) ①・②未記入
- 6) ①・ボランティアA：今回で2回目でしたが、まだ慣れていないようでした。お母さんが少しでも後ろを歩くと、直ぐに探してしまい、なかなかお母さんから離れられませんでした。ボランティアが話しかけると、返事をしてくれることもありましたが、今回はこちらからの呼びかけが少なかったと思います。今日は対象児Aの水筒の話、給食の話などをしました。
- ・ボランティアD：未記入
  - ・ボランティアF：未記入
- 6) ②・ボランティアH：活発で陽気、その割には言葉が聞き取りにくい、お母さんも親しみやすい方で、信号の渡り方でお話を聞く。

- 2) 1) 11月17日（金） 2) ①登校：ボラB・D ②下校：ボラA 3) 徒歩
- 4) 登校時なかなか親から離れず時間がかかったため、下校時も同じか心配になり、のぞきに行ったが、帰りはスムーズに帰れたようで安心しました。
- 5) ①登校時間ギリギリだった。最初お母さんと離れるのが嫌で、お母さんに橋の所までついて来てもらった。その後はボランティアと一緒に行った。
- ②未記入
- 6) ①・ボランティアB：対象児Aは、今朝からお母さんの付添いなしでの登校を始めました。初めは嫌がり、途中までお母さんと一緒に行きましたが、通学路半分からはボランティアメンバーと行けました。
- ・ボランティアD：対象児Aは、最初は母親と離れるのを嫌がり、結局近くの橋の所まで母親について来てもらった。ぐずったことにより、出発が8時過ぎになり、学校到着が8：23のぎりぎりだった。
- ②・ボランティアA：今日はお母さんなしで帰りました。教室まで迎えに行った時、私のことを覚えていたようで、対象児Aから近寄ってくれました。こちらからの話かけにもきちんと対応してくれました。途中、「ボ：あの信号機、今何色？」『対：青だよ。』「ボ：青は進んでいいの？止まらないとダメ？」『対：赤は止まれ。青は・・・進む。』というようなやり取りをしました。信号には赤・黄・青の3色があることも分かっていたし、どの色がどういう意味をなす物かも分かっていました。ただ、赤の時は止まるというのは直ぐに答えられましたが、青色の時は答えが出てくるまでに少し時間がかかりました。

3) 1) 11月21日(金) 2) ①登校:ボラC・E ②下校:ボラI 3) 徒歩

4) ボランティアだけで登下校2日目、1日目よりスムーズに出発ができた。良かったです。

5) ①あまり喋らなかったが、もくもくと歩いてくれた。安全確認をきちんとしていた。  
②恥ずかしかったのか、話しかけてもうなずくだけだった。自分が慣れないせいか、ぎこちなかった。歩くのが速かったので、あっという間に送迎が終わった感じです。

6) ①・ボランティアC:未記入

・ボランティアE:お母さんと一緒に登校しないようになったのは、すごい進歩だと思う。

②・ボランティアI:恥ずかしかったのか話しかけてもうなずくだけ、自分も慣れないせいか少しぎこちなかった感じ。歩くスピードが早く、あっという間に終わった感じでした。

4) 1) 11月28日(金) 2) ①登校:ボラA ②下校:ボラI 3) 徒歩

4) 朝もニコニコして出て行きました。帰りは金曜で給食袋や体操服など荷物をボランティアの方に持ってもらい帰って来たが、なるべく本人に持たせて頂けたらいいなあと思います。

5) ①今日は交差点で、一時停止と左右の確認をする練習をしました。事前に「ボ:あそこで止まってね。」と言って直前でも呼びかけるとできました。でも、直前に言わないと止まらずに進んでしまいます。きちんとできた時、軽く頭を撫でてあげました。少し嬉しそうでした。

②2回目でしたが、びっくりしたのか『対:誰?誰?』とちょっと引かれた。持って帰る物が重かったらしく、下駄箱の所からかばん持ってと言われた。持ってあげました。

6) ①・ボランティアA:交差点の手前で、「ボ:あそこが来たら1回止まって左右見てね。」と伝えましたが、1回目は失敗。2回目は少し止まるのが遅れてしまいましたが、1度止まって左右の確認ができました。3回目は「ボ:車、来てない?左右見てみて。」と言うことができました。こちらが事前に注意を促さないと、まだ1人では止まって確認ができません。止まって左右の確認でき時、頭を撫でて褒めました。少し嬉しそうでした。今日は「ボ:今、あの信号、何色?」と前もって質問しました。『対:今、青だよ。』と答えたので、「ボ:青だね。じゃあ、信号の下にいる人達は今歩いてる?止まっている?」と質問しました。『対:歩いてる。』と答えたので、「ボ:青は止まるの?歩く?」と聞くと、『対:青は歩く。』と答えました。赤の時も同じように質問しましたが、きちんと正確に答えられました。今日は何回か褒めてあげました。やはり対象児Aは、話しかけてくることはありませんでした。

②・ボランティアI:いつも通り元気の一言、ただ今日は荷物が多く重そうだった。

5) 1) 12月1日(月)      2) ①登校：ボラD ②下校：ボラA      3) 徒歩

- 4) 今日は帰りは暖かかったようで上着を脱ぎ、自分で持って帰ってきた。とても良かったです。自立に一步二歩位、進めた気がします。
- 5) ①最初は下を向いて歩いていただけ、徐々に前も見て歩いてくれた。本が重そうだったが、頑張って自分で持って行けた。
- ②今日初めて対象児Aから話しかけてくれました。スポンジボブ(アニメ)の話でした。
- 6) ①・ボランティアD：対象児Aと一緒に学校へ行くのは11/17以来だった。今日、以前と違い、すんなりと学校へ行けたので良かったと思う。会話も少しですが、あったので良かった。
- ②・ボランティアA：今日も交差点で止まる練習をしました。1回目は失敗。呼び止め「ボ：左から車が来てるよ。今渡って良かった？」交差点に戻って車を見ながら聞くと、『対：危ない。』と答えました。「ボ：じゃあ、さっき車が来てないか、左右を見た？もし車が来てたらどうする？危ないから・・・。』『対：止まる。』というようなやり取りをしました。2回目以降からは、交差点が来る度に「ボ：またあそこ(交差点)で何するんだっけ？止まって・・・？」と言うと『対：左と右を見る。』と答えてくれました。1回1回きちんと誘導すると止まって左右の確認ができました。今日できた時は頭を撫でて褒めました。途中で4、5人の小学生と合流し、一緒に帰りましたが、対象児Aから友達に話かけることはありませんでした。他の小学生と別れてしばらくすると対象児Aが私の顔を見ました。直ぐに下を向いてしまいました。が、「ボ：なに？」と聞くと、初めて対象児Aから話しかけてくれました。“スポンジ・ボブ”の話でした。ずっと下を向いて歩いている対象児Aが、顔を上げて私の目を見てくれたのは初めてでした。その後『対：あれ？友達は？』と友達がいなくなったことに気づいて質問もしてきました。信号の色とその意味はスムーズに答えることができ、こちらが「ボ：今は何色？」と注意を促しているのも、もし、こちらが信号のことに何も触れなかったらどう行動するのか分かりません。

6) 1) 12月5日(金)      2) 下校：ボランティアI      3) 徒歩

- 4) 今朝は雨のため、登校時ボランティアはキャンセルとのこと。下校は寒かったみたいで本人が、少々機嫌が悪いみたいだった。
- 5) 話かけたことに対してちゃんと答えてくれた。校門を出て直ぐ『対：かばん持って。』と言われたが、「ボ：みんな持ってるよ。頑張って持って行こう。」と言ったら持ってくれた。
- 6)・ボランティアI：慣れたせいかわざわざ話しかけられたらちゃんと答えてくれた。また『対：かばんを持って』と言われたが「ボ：自分で持とう」と言ったらなんとか持ってくれた。途中でまた『対：持って。』と言われて持ってあげました。

7) 1) 12月8日(月)                      2) なし                      3) なし

4) 風邪のため、ボランティアのキャンセル連絡を前日にコーディネーターの携帯に何回もかけたが繋がらなかった。ボランティアに直接かけた方がいいのでしょうか。

5) 未記入

8) 1) 12月10日(水)                      2) なし                      3) なし

4) 今日は下校時のみボランティアの予定でしたが、個人懇談で下校時間が早かったのでボランティアをキャンセルしました。

5) 未記入

9) 1) 12月12日(金)                      2) 登校：ボランティアA・E                      3) 徒歩

4) 今日は帰りに迎えに行ったら「対：ボランティアさんは？」と本人が聞いてきた。楽しみにしていたようだ。金曜日は荷物が多いけど自分で持って帰った。今までだと嫌がっていたのに、随分自立しています。

5) 今日はいつもと変わりなし。でも一人で交差点で止まり、左右の確認をしていました。かなりの前進です。嬉しいです。

6) ・**ボランティアA**：久しぶりに会いましたが、いつもと変わらないようでした。今日は私の名前を教えたりしながら歩きました。いつもと違ったのは、初めて1人で交差点で止まって左右の確認ができていました。こちらが何も言わなくても、自分から行動していたのでびっくりしましたが、とても嬉しかったです。その時は何度も褒めてあげました。お母さんから『保：ボランティアのおかげでマミーズの信号からは1人で学校に行けるようになった。』と聞き、これも嬉しかったです。ただ、いつも黙々と歩くので何を考えているのか、ぼおーっとしているのか気になります。たまに話かけても返事がなかったり、『対：うーん。』としか返事がなかったりするので、聞こえているのか、理解できていないのかが分かりません。そのような時は、違う質問を投げかけるようにしています。反応が大きい話題を探し、それを中心に話しています。

・**ボランティアE**：ずっと会っていなかったのが心配だったが、特に嫌がられなく行けた。前の時とは登校の雰囲気が違った。

10) 1) 12月15日(月)                      2) ①登校：ボラE                      ②下校：ボラA                      3) 徒歩

4) ボランティアの方達にも慣れてきたようで、気を緩めているみたいです。

5) ①普段より会話が弾み、スムーズに登校ができた。信号の確認もきちんとできた。

②今日は行動パターンが多くて歩道の端の手すりを触ったり、ちょっと立ち止まって寄り道したりしていました。用水路から出ているススキを引っ張った時、水の中に入りそうで少し心配でしたが、説明してみると危険だと分かったようです。

- 6) ①・ボランティアE：まだ名前が覚えられていないが、前回と違い少し親密になったような気がした。
- ②・ボランティアA：今日は歩きながらガードレールを触ったり、道端で立ち止まったり、目につく物が気になっていたようです。途中、マミーズ横の用水路からススキが生えていたので、それを引っ張っていました。ガードレールから身を乗り出していたので少し危なかったです。「ボ：もし、その草がちぎれて、その反動で水の中に落ちてしまうかもよ。」などの説明しながらその行為が危険ということをお話すと、『対：危ない。』と分かったようです。しかし、またしばらくすると同じような行動をしてしまいます。その度に身振り手振りを用いて「ボ：もし・・・。」という形で説明を繰り返しました。会話で「ボ：私の名前は何？」という質問をして『対：忘れた。』と言われました。そこで、名前を教えて何回か2人で口にした後、しばらくしてもう1度質問をしました。すると、『対：わからない。』と言われ、頭を自分の両手で押えて、少しパニックになっていました。
- その後は、直ぐに違う話題に変え、状態は元に戻りました。パニックというのも、その場で立ち止まって頭を抱えて『対：わからない。』と言い、少し困惑しているような表情でした。いきなり叫んだり、走りだしたりすることは、あまりありませんでした。その後は、いつも通り歩いて帰れました。交差点で一時停止して左右の確認をすることは、日によってできたりできなかったりしているようです。今日は私が注意を促しても、そのまま確認なしで通り過ぎていました。今日は、「ボ：(対象児Aの名前)君の手、大きいね。」と言って、私と手を合わせたり肌を触れたりしながらスキンシップを取りました。

1 1) 12月17日(水) 2) 下校：ボランティアI 3) 徒歩 4) 未記入

5) 送迎風景を写真で撮られて機嫌が良かった。人数も多くて楽しそうでした。

6)・ボランティアI：送迎風景、写真に撮られて嬉しそうでした。人数も多かったもので、本人も楽しく帰れたみたいでした。

1 2) 1) 12月19日(金) 2) なし 3) なし

4) 7：50から登校ボランティアだが、ボランティアの姿が見えずコーディネーターに電話をしたが繋がらず、ボランティア本人に電話をしました。その後コーディネーターから電話があった。電話が繋がらないことが多いです。

5) 未記入

1 3) 1) 1月9日(金) 2) 下校：ボランティアI 3) 徒歩 4) 未記入

5) 帰り道、興味引く物があったりすると時々立ち止まり進まないこともありました。寒いのに『対：暑い。』と言って上着を脱ぎたがったりして、こっちが心配したりした。体温調整が苦手ようだ。

6)・ボランティアI：興味ある物、目に入ったりしたら立ち止まりなかなか進まないこともありました。寒いのに『対：あつい、あつい。』と言って上着を脱いだりしてこっちが心配でした。体温調整が上手くできないのかな？



**14** 1) 1月16日(金) 2) 下校: ボランティア I 3) 徒歩 4) 未記入

5) 慣れて甘えているのか金曜日は荷物が多く、重いので必ずかばんを持ってと言う。なるべく自分で持つように声かけをすると、頑張っけて持つて行くようにはなりました。

6) ボランティア I : 慣れて甘えているのか、金曜日は荷物が多く重いので必ずかばんを持ってと言う。なるべく自分で持つように声かけをすると頑張っけて持つて行くようにはなりました。

**15** 1) 1月23日(金) 2) 下校: ボランティア I 3) 徒歩 4) 未記入

5) 未記入

6) ・ボランティア I : 未記入

**16** 1) 1月30日(月) 2) 下校: ボランティア I 3) 徒歩 4) 未記入

5) 未記入

6) ボランティア I : 未記入

## 【対象児 B・女兒：ダウン症候群（小学3年生）】

1) 11月17日（月）                      2) 登校：ボランティアE・H                      3) 徒歩

- 4) B小学校入口のガソリンスタンドの所で、人と車と込み合っていたせいだと思いますが、横断歩道を渡して誘導して下さっていました。今後のためにも、ここは少し待って人や車をやり過ごしてから横断歩道を渡らずに手前の道路を歩かせて頂けるようお願いしました。
- 5) 道路で急な移動をさせてしまい、以後気をつける点と感じた。対象児Bは今日も元気でした。
- 6) ・ボランティアE：未記入  
・ボランティアH：未記入

2) 1) 11月17日（月）                      2) 下校：ボランティアD                      3) 徒歩                      4) 未記入

- 5) 最初、対象児が少し緊張していた。
- 6) ・ボランティアD：対象児Bは、最初緊張していたけど、直ぐ仲良くなれた。お母さんの話をいろいろ聞いて、ただ仲良くするだけではいけないと思った。その子のためになるようなボランティアを心がけたい。

3) 1) 11月21日（金）                      2) ①登校：ボラA・B                      ②下校：ボラH                      3) 徒歩

- 4) ボランティアの方が迎えに来てくださる日は、楽しみで朝の準備も円滑にできます。なるべくなら荷物は本人に持たせて頂いた方がいいと思います。荷物を持って歩く練習にもなると思います。
- 5) ①後ろから来た自転車のベルの音が聞こえているようだったが、注意を払うようすがなく、話に夢中でした。ガソリンスタンドを曲がってからの道が狭く、車と距離が近いので怖いです。  
②相変わらず元気で帰って来ました。
- 6) ①・ボランティアA：小学校近くのガソリンスタンドの曲がり角がとても狭く、車と子どもとの距離が近いので注意が必要です。後ろから来た自転車のベル音は聞こえていたようですが、特に注意を払ったり寄ったりするようすがありませんでした。今日は私達、ボランティアが注意して避けましたが、これからは自分で気づいてもらい、それから自分で行動を起こしていけるように話かけていきます。  
・ボランティアB：話をしながら歩いていると、話に夢中で後方の自転車への注意が疎かになっていました。ベルの音には気づいていたようすで、今後は道の端に避けるようになれるまで声かけをしていきたいと思います。後、ガソリンスタンドを曲がってから歩道と車の距離が狭いので危険です。  
②・ボランティアH：いつもに変わらず朗らかで元気。気を病むようなことは別ありません。

4) 1) 11月28日(金) 2) ①登校:ボラB・C ②下校:ボラ・H 3) 徒歩

4) 満足げに嬉しい顔で登下校できました。

5) ①歌を歌いながら、にこにこしていた。信号を赤や青ときちんと判断していたし、自転車にも気づいていた。水溜りを見つけると1度止まり、飛び越えていた。

②特に、意外なことはなし。少しだけ荷物が多かったようです。

6) ①・ボランティアB:歌を唄いながら楽しそうに登校していました。横断歩道で走る癖があるように思います。

・ボランティアC:未記入

②・ボランティアH:未記入

5) 1) 12月1日(月) 2) 下校:ボランティアD 3) 徒歩 4) 未記入

5) 今日は手を繋かず2人で歌いながら帰って来ました。細い道などの安全確認もちゃんとできていました。

6)・ボランティアD:対象児は、教室の前で待っている私を見つけたのか、すごく笑顔で手を振ってくれた。一緒に歌いながら帰って来た。途中、小さな犬とすれ違った時に、少し怖がっていた。

6) 1) 12月5日(金) 2) 下校:ボランティアH 3) 徒歩 4) 未記入

5) 今日は風が冷かったけど元気で帰って来ました。

6)・ボランティアH:寒かったけど元気で自宅に着くまで上機嫌でした。

7) 1) 12月8日(月) 2) 登校:ボランティアD 3) 徒歩 4) 未記入

5) 今日は5分遅れて出てきたけど、元気に歌いながら学校に行けました。校長先生にもちゃんとあいさつできていた。

6)・ボランティアD:今日の対象児Bは、登校予定時刻の7時55分から5分遅れて出てきた。気持ちだけ張りきっていて、準備がなかなか進まなかったらしい。だけど、学校までの道のりはすごくスムーズだった。歌を歌ったり楽しそうだった。途中、校長先生にも元気にあいさつをしていた。学校近くの交差点で別の対象児Cと会ったので、一緒に仲良く行った。

8) 1) 12月12日(金) 2) ①登校:ボラC・D②下校:ボラ・H 3) 徒歩 4) 未記入

5) ①今日は手を繋いで学校へ行った。寒いのにいつもよりすごく元気だった。

②相変わらず元気でした。でも荷物が重たくて、少し眠たかったようです。

6) ①・ボランティアC:未記入

・ボランティアD:今日は、ボランティアCと2人で対象児Bと一緒に学校へ行った。対象児Bは今日も元気で、たくさん歌を歌っていた。クリスマスが近いのか、ジングルベルをよく歌っていた。お母さんからお菓子を貰った。本当にありがとうございます。

②・ボランティアH:未記入

9) 1) 12月15日(月) 2) ①登校:ボラD ②下校:ボラH 3) 徒歩 5) 未記入

5) ①今日は友達を見つけて走りだそうとした。その他は特に大丈夫だった。

②元気です。

6) ①・ボランティアD:朝、家の前で待っていると、カーテンの隙間から対象児がニコニコ顔を出していた。いつも通り通学路を歩いていると、川に空が反射して、とてもきれいだったのを2人で立ち止まって見た。友達を見つけて走りだそうとしたのを捕まえた。その後はいつも通り学校へ行った。

②・ボランティアH:未記入

10) 1) 12月19日(金) 2) ①登校:ボラC ②下校:ボラH 3) 徒歩 4) 未記入

5) ①元気にクリスマスソングを歌っていた。地域の方にも元気よくあいさつをしていた。機嫌がとても良かった。

②別にありません。元気です。

6) ①ボランティアC:未記入

②ボランティアH:未記入

11) 1) 1月16日(金) 2) 下校:ボランティアH 3) 徒歩 4) 未記入

5) 特になし。

6) ボランティアH:未記入

12) 1) 1月23日(金) 2) 下校:ボランティアH 3) 徒歩 4) 未記入

5) 今日はいつもに増して元気でした。

6) ボランティアH:未記入

13) 1) 1月30日(月) 2) ボランティアH 3) 徒歩 4) 未記入

5) 未記入

6) ボランティアH:未記入

## 【対象児 C・男児：ダウン症候群・心膜欠損症・心臓病（小学1年生）】

- 1) 11月18日（金） 2) 下校：ボランティアJ 3) 未記入 4) 未記入
- 5) 未記入
- 6) ボランティアJ：元気で直ぐにお話できました。途中「しんどい、これ持って。」と言ってきますが、なんとかランドセルの中にしまっただけで帰りました。言うことを聞いてくれ、危険もありませんでした。
- 2) 1) 11月27日（木） 2) ①登校：ボラD・E ②下校：ボラJ 3) 徒歩
- 4) 初めて、ボランティアのお兄さんとお姉さんと登校。親の思いとはうらはらに、本人はいたって大喜び。元気良く、だだをこねることもなく楽しく登校できました。下校時は朝のお兄さんとお姉さんが迎えに来ると思ったのか帰りはなぜか納得いかなかったようで、帰りのボランティアの方にご迷惑をおかけしたようで、大変申し訳なかったです。頑張ってお返事をありがとうございました。
- 5) ①最初だったが、非常にオープンな接し方をしてくれたので、かなり会話が進んだ。その他は突然の行動が気になったので、以後気をつけます。  
②元気で“しりとり”をしながら帰る。座り込んだり、しばらく休むと立ち止まる。
- 6) ①・ボランティアD：未記入  
・ボランティアE：未記入  
②・ボランティアJ：未記入
- 3) 1) 11月28日（金） 2) ①ボラ：B・E 3) 自宅～A小学校 4) 徒歩 5) 未記入
- 6) ①・ボランティアB：前日に、対象児Cと少し会っていたおかげで、朝会った時に直ぐに仲良くなれた。今日は支援初日ということで、お母さんも学校までついて来た。しかし、対象児Cはお母さんがついて来なくてもいいみたいだった。対象児Cの大好きな“しりとり”をしながら学校まで行った。途中で水溜りを見つけて、それ以降ずっと水溜りに入っていた。通学路は細い道が多かった。赤信号と分かっていたみたいだったけど、走りだそうとしていた。  
・ボランティアE：支援日が、初めて会った次の日だったので心配だった。想像以上に明るく良い子だった。
- 4) 1) 12月1日（月） 2) 下校：ボランティアE 3) 徒歩 4) 未記入
- 5) 疲れるとランドセルを脱ぎだしたりしていた。その他は横断歩道などをきちんと確認をしたりしていたので偉かった。
- 6) ボランティアE：変わらずフレンドリーだった。他に神社の鳥居に石を投げることは習慣になっているようだった。

5) 1) 12月5日(金)      2) 下校: コーディネーター(女性)      3) 徒歩

4) 今日はとっても寒くて大変だったと思います。ありがとうございました。対象児Cはとっても元気に帰って来て「がんばった。楽しかった。」とコーディネーターと下校できたのが嬉しかったようでした。ご苦労さまでした。

5) 今日は寒かったため、少し走りながら下校した。とても楽しそうに“しりとり”や“英語しりとり(色)”をしながら下校した。自宅前になると足早で帰って来た。今日も神社で石投げをしていた。

6) コーディネーター: 未記入

6) 1) 12月8日(月)      2) ①登校: ボラE      ②下校: コーディネーター(男性)

3) 徒歩

4) 登下校お世話になりました。朝はわがままも言わずスムーズに登校でき、ほっとしました。おトイレに行きたくなるなどのハプニングが起こり、臨機応変に対処して頂き本当に助かりました。ありがとうございました。

5) ①わがままも言わず、言うことを聞きながら登校できた。

②途中トイレに行きたがったので「JAまで我慢しようね。」と言ったら我慢してくれました。とても元気が良かったです。

6) ①ボランティアE: 未記入

②コーディネーター: 未記入

7) 1) 12月12日(金)      2) ①登校: ボラB・F      ②下校: ボラJ      3) 徒歩

4) 登校担当の方、初めての場所で子どもとも初対面で本当に気を遣って頂き、ありがとうございました。登下校ともボランティアの方と一緒に頑張り屋さんになれる子ども本人のようです。お世話様でございました。

5) ①今朝ボランティアが道に迷い、遅れてすみません。登校中に違う道に入り込んでしまっただけ遅刻しました。すみません。

②今日は単語(英語)遊びをしながらとても元気に帰りました。でも時折、動いている車に足で蹴るマネをしたりしていました。

6) ①・ボランティアB: 今日はボランティアEと2人で支援でしたが、2人共初めてだったので、通学路が分からず、対象児Cに任せていたら違う道を行って、同じ所をぐるぐる回りました。ランドセルを持たせたりしてしまうことがあったので自分で持つようにちゃんと注意しなくてはと思いました。

・ボランティアF: 初めての場所で5分位遅刻してしまっただけ。自分が初めてだったせいかもしれないが、なかなか学校に行こうとしなかった。

②・ボランティアJ: 校区内の方も声をかけてくださると、安心して登下校できる環境だなと感じました。

8) 1) 12月15日(月) 2) ①登校：ボラB ②下校：コーディネーター(男性)

3) 徒歩

4) 登下校とも元気にお姉さんお兄さんの言うことも聞けて元気に歩いて良かったです。お世話になりました。ありがとうございました。

5) ①今日は“しりとり”とサンタの歌を歌いながら真っ直ぐ学校に行けました。今日は偉かったです。

②サンタの歌を歌い、“鬼ごっこ”をしながら帰りました。終了後にありがとうございましたと言ってくれました。

6) ①ボランティアB：未記入

②コーディネーター：未記入

9) 1) 12月19日(金) 2) ①登校：ボラB ②下校：ボラJ 3) 徒歩 4) 未記入

5) ①今日は“鬼ごっこ”がしたかったみたいで走りだした時に、車が来て危なかったです。でも危ないので「駄目だよ。」と言うと、分かってくれました。

②石で色んな所を叩いて違った音がいろいろ出て、楽しみながら帰りました。遅くなってすみません。明日お父さんとプールに行くんだと嬉しそうにしていました。

6) ①ボランティアB：今日は“鬼ごっこ”をしながら登校がしたかったようで、“じゃんけん”をしながら行きました。車が来て危ない場面があったので「ボ：今、怖かったね。だから走ったらダメだよ。」と言ったら少し分かってくれたように思います。

②ボランティアJ：遊びが楽しくて下校に30分程度かかったと思います。お母様が待っていたので少しテンポアップして帰らなければと感じました。

10) 1) 1月9日(金) 2) 下校：コーディネーター(女性) 3) 徒歩

4) 寒い中お世話になりました。朝『保：今日はボランティアさんのお迎えだよ。』と言うと子どもはとても喜んで頑張るポーズをしてました。左右確認ができるとは、私もビックリ。なんか小さなことでも嬉しい私です。ありがとうございました。

5) 今日は交差点や白線などで遊びを入れながら注意をすることをして下校しました。ちゃんと左右確認をしたり、車・自転車など来たら、止まる・白線から出ないなどばっちりでした。

6) コーディネーター：対象児を教室まで迎えに行こうとしたら、担任の先生と一緒に下駄箱まで来た。週末、雪が降る予報があったので対象児に「コ：明日は雪が降るかもしれないよ。』『対：雪だるま作れる、こおーんくらい大きい(ジェスチャー)』『コ：雪がたくさん降ったら大きい雪だるま作れるね。』『対：降る?』『コ：楽しみだね。』と言いながらガソリンスタンド横の信号まで到着。「コ：信号は?』『対：青』『コ：行っていい?』『対：いいよ。』と言いながら、横断歩道の白線だけ踏んで進んだ。国道沿いの歩道では“鬼ごっこ”をした。歩道から出たり、交差点・横からの細道合流地点では、止まって確認しないと鬼になると決めた。走っては休憩、また走って休憩を繰り返した。途中、同学年の児童(以下同級生)と一緒に“鬼



ごっこ”をした。同級生は対象児のことを気にしながら鬼ごっこをしてくれ、一緒に交差点や危ない所では止まった。前方に下校中の児童集団がいて、その横を走り抜けると「他児童：ばいばい。」と声をかけてくれ、『対：ばいばい。』と対象児も返す。JA 交差点より歩道が細いため、白線と側溝ブロックを電車のレールと見立て、“電車ごっこ”をして帰った。対象児はバランス良く側溝ブロック上を歩いていた。バランス感覚としては、多少左右へのぐらつきは見られたが、上手にバランスを取りながら進んで行った。途中、車が横を通ったが、車が通る前にその場で止まるというルールも後づけした。ルールを守りながら楽しく下校して行った。また、細道との合流場所では事前に声をかけ「コ：車にぶつかったらどうなる？」と聞くと、『対：怪我して血が出る。』『コ：怪我して、血が出て痛いよね。それじゃ、車が来たらどうするの？』『対：・・・。』『コ：止まる。分かった人？』『対：はい。』というように確認をし、事前に「コ：車が前から来たよ。』『対：うん（止まる）。』『コ：良くできたね、やったね。』と褒めると嬉しそうに笑い、次も同様に声かけすると止まるようになった。事前に確認しながら下校支援スタートすれば、対象児も理解し行動に移せたと思う。自宅まで“電車ごっこ”をしながら帰った。

1 1) 1月16日（金）      2) 下校：コーディネーター（女性）      3) 徒歩

- 4) 昨日、『保：明日ボランティアさんのお迎えだよ。』と対象児Cに話していたことを今朝『対：今日はボランティアさん。』と覚えていたのでビックリ。楽しみのようなでした。今日も大変お世話になりました。ありがとうございました。
- 5) 今日教室まで迎えに行った時、少し元気がないように見られましたが、下校中少しずつ楽しみ始めたのか笑顔が増えていきました。交差点・車が通る時は、必ず止まるということを事前に約束すると、きちんと止まって左右確認、停止することができました。又、電車遊び、石音遊びをしながら帰りました。石でいろんな音を出しては、次の物（石）を探していました。
- 6) コーディネーター：教室まで迎えに行ったが、下校するまで少し元気がないように見受けられた。少しずつ気分を上げさせるために、初めは会話に重点をおいて支援をした。今日は手袋を持って来ていなかったため、コーディネーターの手袋を付けた。まずはそのことについて会話スタート。校門からガソリンスタンド前の信号まで側溝ブロックを上手に渡る遊びをし、対象児も少しずつテンションが上がってきたようす。信号では事前に確認させ、横断歩道の白線だけを上手に渡った。国道沿いの歩道では“鬼ごっこ”をした。ルールとして、交差点・横からの細道合流地点では、止まって確認しないと鬼になると決めた。下校中の児童集団が先 100m内にいたため、その間の距離で鬼ごっことした。交差点前で「コ：道が切れるよ。さあどうするのかな？」と声かけすると直立し、左右確認。「コ：車は来てますか？』『対：来てます（冗談で言うこともある）。』『コ：それじゃ行けないね。』『対：来てないよ。』『コ：確認した？』『対：（左右確認しながら）した。』鬼ごっこスタート。途中休憩を入れ、道端に落ちている石を拾い、いろんな物の音を楽しみながら帰った。『対：これは？（石でトントン・・・）いい音。』『コ：あそこの電柱はどう？』電柱まで走り、『対：いい音！』という感じで下校して行った。途中後方から自転車

が来たので「コ：後ろから自転車が来たよ。」と声かけすると、自転車を確認後、その場に止まった。できた時は褒めると、同じような状況の時、声かけするとできた。

“石音出し遊び”中に歩道と車道白線との間に、石を見つけ『対：あ、石があったよ。』とコーディネーターに呼びかけた。「コ：石がほしいの?」『対：うん。』「コ：でも車が来るから危ないよね。」『対：うん。』「コ：石を取ってもらいたいですか?」

『対：はい。』先にコーディネーターは車が来ないことを確認し、対象児も同様に確認させ、コーディネーターは歩道からは出ずに石を取り、対象児に渡すと『対：ありがとうございます。』とお礼を言った。

JA 交差点からは歩道が細いため、白線と側溝ブロックで“電車ごっこ”をした。対象児はブロック、コーディネーターは白線をレールと見立てその上を通り、出てしまうとアウトで“デコピン”というルール。2人ではみ出さないように進んで行く。

途中、対象児がはみ出してしまうと「コ：はい、アウト1回。」『対：えー出てないよ。』「コ：ちゃんと見てるよ。」とルールを守らせた。途中車が来た時は「コ：前から車が来てるけど、どうするの?」、車を確認させ、止まりながら『対：えっと・・・』、

「コ：そう、ストップ。よくできたね。」と褒める。下校中10台程通ったが、必ず止まらせ確認をし、できると褒めた。そのうち声かけをすると車を確認し止まるようになった。声かけに対して『対：ストップ。』と言えるようになった。対象児のテンションを下げないようにし、自主的に行動できるような声かけをした。自宅近くになると『対：もうすぐでお家だよ。』「コ：そうだね、早かったね。」『対：ねえ。どうしょっか?』「コ：どうやってお家まで帰ろうか?」『対：走ろっか?』「コ：それでは・・・スタート!」楽しそうに走りだした。疲れたのか休憩し、コーディネーターに『対：次は?』「コ：スキップとかどう?」『対：する。』スキップしながら進んだ。自宅前になると『対：ママいるかな?』「コ：お家で待ってるかな?」『対：そおっと帰ろう。』シー(ジェスチャー込)と言いながら歩いて行った。自宅到着、玄関にて『対：ただいま。』と元気よく言っていた。

10 1) 1月30日(金) 2) 下校：コーディネーター(女性)

3) 徒歩 4) 未記入

5) 今日は2週間振りだったので、足の調子もあり、どのようにしながら帰るか考えていましたが、対象児Cから、『対：あそぼ!』と言って前回と同じようにブロック渡りの遊びをして帰りました。途中、音出し遊びをしたり、“電車ごっこ”もしました。車が来た時には、『ボ：前から車が来たよ。』と伝えると、止まって確認をしていました。少しずつ確認をすることの意味を理解しているようにも見受けられました。いつも明るく楽しみながら、下校しているようでした。

6) コーディネーター：教室まで迎えに行くと、直ぐにコーディネーターに気づき、帰る用意を急いでしていた。他の対象児を待つことになったが、説明をすると『対：分かった。』と言い一緒に待ってくれた。下校支援スタート直後、2月節分の鬼の話を始めた。保護者より鬼がとても怖いという話を聞いていたので、対象児に聞いてみると『対：鬼怖いよ！鬼が来るね。』と節分が近づくのがとても怖いようすだった。小学校近くのガソリンスタンドの横断歩道では、コーディネーターが一言だけ声か

けをすると止まり、信号の確認ができるようになっていた。国道沿いの歩道では今までと同様にルールの説明をしてから、石音出し遊びをした。途中、下校中の児童集団と合流しながら下校した。交差点・横からの細道合流地点では、「コ：道が切れるよ。」と声かけすると必ず止まり確認をしていた。JA 交差点では見守り隊より声かけをしてもらい、対象児も『対：さようなら。』と大きな声であいさつをしていた。細道では前回と同様に側溝ブロック上と白線を通る“列車ごっこ”をしながら帰った。通学路にある小川へ石を投げ入れ、音を楽しむことが好きだったようで2回のみ一緒にした。ただ、橋から身を乗り出すと危険ということと新たなルールを伝えた。何回もしたかったようすだったが、約束は守るということを伝えると、納得し止めた。途中、自宅近くで対象児の兄と一緒に帰った。対象児のようすを見ながら兄が先導し、工事中的所では対象児が行くのを確認してまた先導してくれた。自宅近くからは、皆でかけっこをした。対象児も兄と競争しながら楽しそうに走っていた。

## 【対象児 D・男児：知的障害・ダウン症候群（小学3年生）】

- 1) 11月17日（月）      2) 下校：ボラB      3) 徒歩
- 4) いきなり走りだしたのはボランティアBさんが初めての方だったので、試したのかもしれませんが。慣れたら大丈夫なので……。また、3人で対象児Dを囲む様な感じより、少し離れて見守ってほしいです。
- 5) いきなり走りだしたので、どうしたらよいか分からなかったのですが、途中からは少し話ながら歩いたりできました。
- 6) ボランティアB：対象児Dは、いきなり走りだして、どうしたらよいのか分かりませんでしたでしたが、友達にバイバイと声をかけたりして、とてもいい下校だったと思います。
- 2) 1) 11月21日（金）      2) 下校：ボランティアG      3) 徒歩
- 4) 担任の先生が出張で臨時の先生が5時限目と帰りをみてくれていて、この先生を試したようだ。靴をそっと持ち出し、いつもと違う出口から出て、シーソーで遊んでいたということです。
- 5) シーソーで遊ぶ。
- 6) ボランティアG：靴を持って玄関を通らないでシーソーで遊んでいた。
- 3) 1) 11月28日（金）      2) 下校：ボランティアG      3) 徒歩      4) 未記入
- 5) 初めて対象児DがボランティアGに「ありがとうございました。」とキチンとあいさつしたので、2人でびっくりしました。
- 6) ボランティアG：自宅に着いたら大きな声で『対：ありがとうございました。』と言ってくれた。
- 4) 1) 12月1日（月）      2) 下校：ボランティアG      3) 徒歩
- 4) いつも犬が吠えるため、吠えたら出ようと思いつつ家のことをしていてボランティアGが来られたのが分からず、ボランティアGも時間になったので、学校へ向かわれたそうで、ボランティアに直接連絡すればよかったけれど、慌てて大障協に電話しました。時間がなかったので、余計に慌ててしまった。
- 5) 未記入
- 6) ボランティアG：今日も元気、帰り際には、ふざけてのお礼のあいさつをした。対象児Fの家を確認本人とも話ができた。帰りの道順（歩道を歩く事）についても本人、母親と打ち合わせをした。本人も理解できたようです。
- 5) 1) 12月5日（金） 2) 下校：ボランティアG      3) 徒歩      4) 未記入      5) 未記入
- 6) ボランティアG：未記入

- 6) 1) 12月8日(月)            2) 下校: ボランティアB    3) 徒歩    4) 未記入
- 5) 今回で2回目だったので、だいぶ慣れていたようでした。一緒に帰りながら、たくさん笑ってくれて嬉しかったです。
- 6) ボランティアB: 今日で対象児Dとの下校は2回目だったが、1回目より慣れたようすで走ったりすることもなく、下校できた。帰り道ずっと対象児が笑顔だったのが嬉しかった。

- 7) 1) 12月12日(金)            2) 下校: ボランティアG    3) 徒歩    4) 未記入
- 5) 未記入
- 6) ボランティアG: 未記入

- 8) 1) 12月15日(月)            2) 下校: ボランティアG    3) 徒歩    4) 未記入
- 5) 未記入
- 6) ボランティアG: 未記入

- 9) 1) 12月19日(金)            2) 下校: ボランティアG    3) 徒歩
- 4) やっぱりふざけて、サッと走って反対の道を走って行ったそうですが、慣れて楽しんでいる感じのようです。ボランティアGも「今日はどんな姿を見せてくれるかな」と言って下さるので頼もしいです。
- 5) 未記入
- 6) ボランティアG: 未記入

- 10) 1) 1月9日(金)            2) 下校: ボランティアG    3) 徒歩    4) 未記入
- 5) 未記入
- 6) ボランティアG: 未記入

- 11) 1) 1月16日(金)            2) 下校: ボランティアG    3) 徒歩    4) 未記入
- 5) 未記入
- 6) ボランティアG: 未記入

- 12) 1) 1月27日(金)            2) 下校: ボランティアG    3) 徒歩    4) 未記入
- 5) 未記入
- 6) ボランティアG: 未記入

## 【対象児 E・男児：自閉症（中学2年生）】

- 1) 11月17日（月）      2) 下校：ボランティアE・F      3) 徒歩
- 4) 興奮して帰って来ました。今日で自信がついたようです。次は誰が来るのかを確認していました。次回を楽しみにしています。
- 5) パーソナルスペースが上手く取れておらず、拒絶された時もあった。緊張していた。
- 6) ・ボランティアE：未記入  
・ボランティアF：対象児のパーソナルスペースに少し入ったようで途中立ち止まることがあった。非常に緊張していた。
- 2) 1) 11月26日（水）      2) 下校：ボランティアG      3) 徒歩      4) 未記入
- 5) 未記入
- 6) ボランティアG：対象児Eは私を覚えていてくれて嬉しい。
- 3) 1) 12月1日（月）      2) 下校：ボランティアF      3) 徒歩      4) 未記入
- 5) 今日は本当に良かった。
- 6) ボランティアF：今日は本当に対象児の機嫌が良かったためか、いろんな話をして帰った。お母さんもびっくりする程、対象児Eとの距離が縮まった気がする。
- 4) 1) 12月8日（月）      2) 下校：ボランティアF      3) 徒歩      4) 未記入
- 5) 今日は雨だったためか、前回よりも緊張している感じがした。
- 6) ボランティアF：今日は少し雨が降っていたせいか、なんだか注意散漫になっていた気がする。修学旅行が近いらしく旅行の話をするとう話にのって来た。
- 5) 1) 12月11日（木）      2) 下校：ボランティアF      3) 徒歩      4) 未記入
- 5) 今日で最後でした。最初とすると、ずいぶんいい方向に良かったと思う。
- 6) ボランティアF：未記入
- 6) 1) 12月15日（月）      2) 下校：ボランティアF      3) 徒歩      4) 未記入
- 5) 未記入
- 6) ボランティアF：今日は最後のボランティアということで、対象児Eのクラスの子と一緒に写真を撮らせてもらった。対象児Eとはだいぶ距離が近づき、とても自分としては満足である。これから対象児Eはどんな大人になるのかな。
- 7) 1) 1月15日（木）      2) 下校：ボランティアG      3) 徒歩      4) 未記入
- 5) 未記入
- 6) ボランティアG：未記入

8) 1) 1月21日(金)            2) 下校: ボランティアG            3) 徒歩            4) 未記入  
6) ボランティアG: 母親の同伴なしで帰宅。問題なし。

9) 1) 1月26日(月)            2) 下校: ボランティアG            3) 徒歩            4) 未記入  
5) 未記入  
6) ボランティアG: 母親も同伴なしで帰宅。鼻歌まじりで気分よし。

**【対象児F・男児: 広汎性発達障害(アスペルガー・ADHD) 軽度精神発達遅滞  
(小学4年生)】**

1) 1) 12月3日(金)            2) 下校: ボランティアG            3) 徒歩            4) 未記入  
5) 未記入  
6) ボランティアG: 今まで通りの道順を通い、(歩道に変更はできなかった。)タッチして別れる。

平成20年度移動支援事業  
一次ヒアリング記入用紙

記入日	保護者(支援対象児)氏名
移動支援当初の子どもの様子・気付いたこと	
現在、移動支援中の子どもの様子・ボランティアとの関係について	
支援中で気になること(疑問や不安な事など)	
今後の支援について(ボランティア・コーディネーターに伝えたい事)	
移動支援の感想	



平成20年度移動支援事業  
一次ヒアリング記入用紙

記入日		ボランティア氏名	
移動支援当初の対象児の様子・気付いたこと(支援している対象児すべて)			
現在、移動支援中の対象児の様子・ボランティアとの関係について(支援している対象児すべて)			
支援する時、気を付けている事(支援している対象児・全体的な事)			
移動支援中の疑問点(困っている事・不安な事など)			
移動支援の感想			

## 1次ヒアリング

## 【利用児及び保護者 (6名)】

## &lt;ヒアリング設問&gt;

- ① 登下校見守り等支援当初の子どもの様子について(情緒面・ボランティアとの関係など)
- ② 現在、登下校見守り等支援中の子どもの様子(情緒面・ボランティアとの関係など)
- ③ 登下校見守り等支援中で気になること(疑問や不安なこと)
- ④ 今後の登下校見守り等支援について(ボランティア・コーディネーターに伝えたいこと)
- ⑤ 登下校見守り等支援の感想

## 【対象児 A・男児：軽度知的障害・自閉症(小学1年) / 保護者】

- ① やはり当初は、打ち溶けにくい面がありましたが、顔合わせなどをして頂き、だいぶ馴染みやすくなったようです。ボランティア初日のみ、親と離れての登校を嫌がっただけで、その後はスムーズに登校しています。
- ② 最初の頃からは、ボランティアに迎えに来て頂くのを、とても喜んでおりました。そして日々進むにつれて、自立登校しなくてはならない自覚が出てきたように見受けられます。
- ③ 交差点などでは、本人はどのようにしているのか不安。
- ④ とても感謝しています。ありがとうございます。このままでよろしくお願いします。
- ⑤ とてもありがたい支援活動で、助かります。自立登校の手助けになりますし、親との自立の第一歩を踏み出すことができました。これから先も続けて支援が継続して頂けたらいいと思います。そうすると市内の小学1年生はとても助かると思います。

## 【対象児 B・女児：ダウン症候群(小学3年) / 保護者】

- ① 初めは少し緊張しているようでしたが、すぐ慣れたようでした。
- ② 「今日はボランティアさんよ。」と伝えると、嬉しそうに張りきって朝の準備もスムーズにできています。
- ③ 通学路の交通量が多いため、本人やボランティアの方が心配ですが、今のところ上手く対応して頂いているようです。
- ④ 本人が自分でできることはなるべくさせて頂きたいと思います。例えば荷物ですが、本人が持てそうであるなら荷物を持って歩く練習にもなりますので、持たせて頂きたいと思います。
- ⑤ 下に兄弟がいるため、移動支援はとても助かっています。本人の楽しみにもなっているようです。

### 【対象児 C・男児：ダウン症候群・心内膜欠損症・心臓病（小学1年） / 保護者】

- ① 今日が移動支援初めてだったのですが、前日にボランティアの方々が自宅に来て頂き、顔合わせができたので、子どもにとっての明日の心の準備ができていたと思います。
- ② 今朝（11/28）は問題なく、スムーズにボランティアの方と楽しく登校できていたと思います。
- ③ すごくありがたいんですけど、ボランティアに付いてくださる人数が、マンツーマンの方がいいのではないかと思いました。
- ④ 障害を持っている子どもの親としては、とてもありがたい支援だと思います。ぜひ、将来に繋げて頂ける活動になればと思います。よろしくお願い致します。今朝（11/28）スタートしたばかりなので上手く伝えることができないのですが、子どもも親も自立への、また新たな一歩になれるような気がします。

### 【対象児 D・男児：ダウン症候群（小学3年） / 保護者】

- ① 予想通りボランティアの方を試すようなことをそれぞれ行い、2回目3回目になると自分から手を繋いだり、仲良く歩く事ができている。
- ② 良好。
- ③ 工事があっているの。（工事中の所が心配。）
- ④ 同じ人をお願いしたい。  
すごく良いチャンスを貰ったと思う。これをきっかけに朝、完全に自立登校ができるようになった。ボランティアの方がコロコロ変わらない方がよかった。

### 【対象児 E・男児：自閉症（中学2年） / 保護者】

- ① 最初は緊張していました。周りもあまり見る余裕もなかったです。帰ってからは達成感があったようです。
- ② 1回目よりも2回目は落ち着いていました。
- ③ 子どもとの距離の取り方。
- ④ あと数回しかないけど、子どもの事を知ってもらい仲良くしてもらいたい。
- ⑤ 今のところ親も一緒に行っていますが、子どもにとって私から少し離れるきっかけになりました。

### 【対象児 F・男児：広汎性発達障害（アスペルガー・ADHD）・軽度精神発達遅滞（小学4年） / 保護者】

→ヒアリングなし

1次ヒアリング

【ボランティア（10名）】

<ヒアリング設問>

- ① 登下校見守り等支援当初の対象児の様子・気づいたこと（支援している対象児すべて）
- ② 現在の登下校見守り等支援対象児の様子・ボランティアとの関係性（支援している対象児すべて）
- ③ 登下校見守り等の支援する時、気をつけていること（支援している対象児・全体的）
- ④ 登下校見守り等支援中の疑問点（困っていること・不安な事など）
- ⑤ 登下校見守り等支援の感想

【ボランティア A / 学生ボランティア】

- ① 対象児 A：対象児 A とお母さんが前を歩いて、私は後ろからついて行った。最初はなかなか会話が  
できなかった。常にお母さんの近くで歩いていた。歩行中は下を向いて黙々と前を見て  
歩くようすが見られなかった。  
対象児 B：初めて会った時からフレンドリーだった。誰にでもあいさつをしていた。
- ② 対象児 A：自分から話し出すことはない。こちらからの質問に対してきちんと返事をしてくれるよ  
うになった。歩く時はやはり、下を向いて歩いている。私の横を歩いている。  
対象児 B：まだ1回しか行ってないので分からない。
- ③ ・交差点等で必ず一度立ち止まって車の確認をする。  
・会話を切らさない。  
・後ろから来る自転車などに注意している。  
・子どもの目線から死角になりそうな所に注意している。
- ④ 特になし
- ⑤ 少し信頼関係が築けたかと思います。その進歩が嬉しいです。あと少しでもいい関係が築けるよう  
になりたいと思います。対象児の目線に立って物事を考えることなど、これからの勉強になってい  
ます。

## 【ボランティアB / 学生ボランティア】

- ① 対象児A：初めてお母さんの付き添いのない中での登校の日に10分程抵抗し、普段の登校よりも遅い時間に登校することになってしまったが、予想以上にお母さんの付添いなしでの登校に慣れたようすだった。ただ、やはり声をかける人がいないと車への注意などが薄い。
- 対象児B：ボランティアのメンバーで登校するのが楽しみなようすで、朝から歌を歌いながら登校する場面が見られた。話や歌に夢中で、自転車や車への注意を怠ることがあった。ガソリンスタンドを曲がった所は車が多く、歩道ギリギリを通るため、車が通る時は止まる様に言った方がいいと思った。
- 対象児D：初対面で照れていたのか、少し逃げるように走りだしたので、注意が必要だと思った。途中、工事中の道を通る時「先に行くから後ろを付いて来てね。」と言うと、「ありがとう」と元気よく言ってくれて嬉しかった。
- ② 対象児A：あまり話しかけると返事をしなくなるが、少しずつ会話もしてくれるようになってきました。自分からは話かけてはこないが、話はしてくれます。
- 対象児B：一人言のように何か言っていることをよく聞くと、家族や友人を紹介してくれているようでした。お母さんから「ボランティアの方と行くのを楽しみにしてたんです。」と言われて嬉しかったです。一緒に歌を歌いながら登校したりと楽しいです。
- 対象児D：まだ1回しか支援していないので、これからいろいろ話をしたりしながら関係を築いていけたらと思います。下校時は、友達と途中まで一緒なので、その友達と明るく帰るようすを見ているのもいいかと思いました。
- ③ いつ車が飛び出して来るか分からない、車が通りそうな道は車が来なくても止まるようにしている。後ろから来る自転車の迷惑にならないように、後ろからも注意を払い、周囲へ迷惑をかけないように心がけている。
- ④ 特になし。
- ⑤ 子どもたちと触れ合えることで、普段の子どもの目線というものを体感でき、危険なこと・普段気づかないことなど、発見も多いようです。ボランティアなのに、こちら側がいろいろと勉強になり、すごくいい経験をさせていただいていると思っています。

## 【ボランティアC / 学生ボランティア】

- ① 対象児A：お母さんと一緒に登校していたので、話はあまりできなかった。ボランティアが対象児Aのスピードに合わせて歩き過ぎると、だんだん歩くのが遅くなるので、あまり遅く歩くと遅刻する。
- ② 対象児A：朝、お母さんと別れる時、ちょっと嫌がるが、ボランティアとの登校にだいぶ慣れてきたと思う。話しかけたら、答えてくれる。安全確認もきちんと行っているが、下を向いて歩きがちである。
- ③ 対象児A：積極的に話しかけるようにしている。歩くスピードが遅くなり過ぎないようにしている。止まった時は「行こう」と声をかけている。
- ④ 特になし。
- ⑤ 初めは心配だったが、対象児Aは明るく接してくれるので、登校していて楽しい。とてもいい経験になっていると思う。

## 【ボランティア D / 学生ボランティア】

- ① 対象児 A：凄くお母さんと離れることを不安がり、お母さんの姿が見えなくなるとお母さんを探していた。どの子も最初は恥ずかしいのか、お母さんにピッタリくっついていました。
- ② 対象児 A：まだやはりお母さんと離れるのを嫌がり、家から通学路の最初にある橋の所までお母さんについて来てもらった。まだボランティアとの間に壁を作っている気がする。  
対象児 B：凄く心を開いてくれた。しかし嬉しいのか急に走りだしてしまうことが少しあった。
- ③ 車が来ているかどうかを一緒に確認するようにしている。通学中に危なそうな交差点はより注意している。話す時に顔を見ながら話すようにしている。対象児に道路側を絶対歩かせない。
- ④ 今のところは特になし。
- ⑤ 子どもとの接し方は、自分が思っているよりも凄く難しかった。ただ楽しく登下校するだけではなく、今やっていることがその子のためになるようにボランティア活動をして行きたいと改めて思った。お母さん達が安心して任せられるようになりたい。

## 【ボランティア E】

- ① 対象児 A：とても甘えん坊な感じだと思いました。ただ最近はお母さんなしで登校しているので、だいぶ進んだのではないかと思います。そして恥ずかしがりやな所も見られます。ただ打ち解ければ、凄く明るく接してくれるようになり、とても面白い子だと分かりました。  
対象児 B：初めて会った時からとても活発な女の子でこちら側のペースを巻き込んでいく子でした。その他は、突然の行動は慎重なようにも見えました。  
対象児 E：顔合わせの時は上手く話せたとは思いますが、最初の支援の時に、途中で拒絶されてしまい、考えてしまう事があった。以後、絶妙な距離感を上手く取れるようになりたいです。  
対象児 D：人なつっこい子だなと感じました。
- ② 対象児 A：まだ顔を覚えられていないかもしれないと感じることがあります。その他に会話が上手く弾まないこともあるので、まだ仲はそれほど縮まっていないように感じます。ただ顔合わせの時は自分から遊びに来てくれたので、あの関係を戻せるようにしたいです。  
対象児 B：上記同様  
対象児 E：1回目の支援から良くなかったなので、これからの改善が必要に感じます。  
対象児 D：意外と恥ずかしがりなところがあるのではと感じます。顔は多分覚えられてはいない。
- ③ 対象児 E：やはり距離間と歩くスピードに気をつけようと思います。  
対象児 A：いかに上手に対象児 A とコミュニケーションを取り、楽しい通学に出来ればと思っています。全体的には、主に車などの移動時の事故を警戒しています。話し方も明るくいけるようにしています。
- ④ 特にありません。
- ⑤ 対象児の様々な一面が見れて、それだけで充実しています。ただ個人的な話術はまだまだで、上手に会話をやっていければと思いました。今後はより楽しく登下校が行える事が目標です。また、対象児に無駄なストレスを与えてしまっては意味がないので、行動ひとつひとつに気を配りたいです。

## 【ボランティア F / 学生ボランティア】

- ① 対象児 A：当初は、お母さんの姿が見えなくなると、すぐ立ち止まっていた。  
対象児 E：当初は、ほとんど話さず、かなり緊張していた。パーソナルスペースに敏感であった。
- ② 対象児 E：今では、彼からも積極的に話しかけてくれ、当初に比べぎこちなさ等がだいぶなくなってきたと思う。
- ③ 対象児 E：一番初めの時、パーソナルスペースが近かったせいか、「お兄ちゃんとは帰りたくない」と言われたので、パーソナルスペースには1 m位取る事に気をつけている。また、声をかける時は、できるだけ彼の真横から話かけるようにしている。
- ④ 対象児 E：対象児の場合、支援する期間が1週間程、間が空くときこちない感じになってしまうので、週2、3回は一緒に帰る時間が必要だと思う。
- ⑤ 個人的には、手ごたえを感じている。C中学校に行くことで、対象児 E のクラスの子ともコミュニケーションが取れ、いい感じだと思う。もう少し対象児 E と居る時間が増えればもっといい関係になるのではないかと思う。

## ボランティア G / 一般ボランティア】

- ① 対象児 D：玄関で本人が出て来た時、私が気付く前に遊具の方に行ってしまった。対処として、対象児の下駄箱 の位置を確認しておくこと。  
対象児 E：本人と私の出入口を同じにした方がいい。  
本人は生徒昇降口。ボランティアは玄関。→対処として、対象児の教室まで迎えに行く。
- ② 対象児 D：すぐ遊びに夢中になる。(シーソー・石けり)  
対象児 E：音に敏感。(車・他の生徒たちの声等)
- ③ 本人との距離。(付かず、離れず)  
話題・本人の関心事(食べ物・乗り物)
- ④ 未記入
- ⑤ 注意深く、ぼちぼちと。

## 【ボランティア H / 一般ボランティア】

- ① 対象児 A：元気で人なつっこく、特別気を遣うこともなく普通に気をつけていけば、大丈夫と思います。  
対象児 B：元気がよく話しかけてくれるのですが、ちょっとだけですが言葉がはっきりしないのでよく聴き取ることに努めて、話ができるようになりたいです。
- ② 以下、上記同様
- ③ 以下、上記同様
- ④ 以下、上記同様
- ⑤ 以下、上記同様

## 【ボランティアⅠ / 一般ボランティア】

- ① 凄く明るく、話していることの意味を理解し行動している。まだ、ボランティア活動を始めたばかりでよく分からない。
- ② 未記入
- ③ なるべく声をかける事を重点においています。
- ④ 自分の子どもが大きく支援対象児との年齢差があり、どんな事を話して（会話）いいのか困っている。少し戸惑っている。
- ⑤ いろんなことをボランティアを通じて勉強させてもらっています。

## 【ボランティアⅡ / 一般ボランティア】

- ① 未記入
- ② 未記入
- ③ 未記入
- ④ 仲良くなれるか心配。交通量が比較的多く、歩道を通ると思うので、安全に下校できるか心配。
- ⑤ 未記入



## 出席者

保護者：対象児 A（保護者）、対象児 B（保護者）、対象児 C（保護者）、対象児 D（保護者）、対象児 E（保護者）

ボランティア：ボラ G、ボラ H、ボラ I、ボラ J

事務局：事務局長、コーディネーター 2 名

福祉課：コーディネーター 1 名

プロジェクトメンバー：メンバー 1、メンバー 2

## ■今までの支援に対する個別感想

### ・対象児 A（保護者）

保護者：特に変化はないが、朝ボランティアが来ると時は喜んでいる。

ボランティア I：自分の子どもより幼いため、少し戸惑いがある。

### ・対象児 B（保護者）

保護者：最初は緊張していたが、今は楽しみになっている。

ボランティア H：たまに会話が成立しない時があり、困る時がある。

（保護者）→意思伝達はもともと難があるが、言われていることは理解ができているので気にしないでもらいたい。単語で伝えていただければと思っている。

### ・対象児 C（保護者）

保護者：楽しんでいる。親に「ついて来ないで。」というほど関係は良好であった。

ボランティア：支援担当が学生のため、インタビューは欠席

### ・対象児 D（保護者）

保護者：子どもがボランティアを試すことで、ボランティアの反応を見ている。多くのボランティアと接触することにより、母親に対して表現が増えたり、新しい一面を示している。ボランティアの方が毎回変わったりと、当初本人のストレスもあったかもしれないがその反面社会性が出てきた気がする。なお、本日は完全自立登校ができた。

ボランティア G：子どもからよく観察されている気がする。

### ・対象児 E（保護者）

保護者：1 回目はボランティアが一生懸命で、子どものパーソナルスペースが上手く掴めず、ちょっとショックを受けていたみたいだが、前日から本人に伝えていたので、子ども自身も心構えもできており、支援が終わった後の達成感も強かったみたいで、ちょっと興奮気味であった。2 回目はボランティア G とふれあい共室で会った記憶があったのか、落ち着いており、子どもが他人と雑談しながら歩いている姿を見るのは初めての経験であった。子どもも自信をつけたのか、他の移動教室を受けてみようかとも考えているようです。

ボランティア G：自分はよく覚えていなかったが、本人が覚えていたことの記憶力など驚かせられる。

## ■個別の感想の後のフリートーキングの内容■

### ・複数ボランティアでのローテーションが組まれる事について

→顔見知りであることに越したことはないが、人が変わることで社会性を持たせることになり良いのではないかと思われる。ただし、こだわりがある子どもにはあまり変えないほうがいい。

### ・利用者全体について

→利用対象児が軽度の障害に限定されているため、利用申し込みが少なかったのもあり、ある程度成功している面もあるが、実際、人に我が子を預けるとなると親には勇気がいる、本人にも勇気がいる。しかし、今回の事業はすごく良い影響をもたらしているのを実感しているので、多くの人にも知ってもらいたい。

### ・ボランティア全体について

→研修方法については、施設ではなく学校に直接行ってもらった方が良かった。今後応募のあるボランティアについては、各学校と協議のうえ実施の検討をしたほうがいい。また、顔合わせも行わずに一部スタートしたことは、今回の問題点として反省材料となる。

→ボランティアの服装を見守り隊のジャケットを借りて行うことにより、活動内容を知らせた方がいいのではないか。しかし、子ども本人または兄弟が障害の受け入れが難しい場合などあり、まず、IDとしての腕章とボランティア証をベースとする。ボランティア証は風でひっくり返っても見えるように裏表になっても見れるようにしてもらいたい。ボランティア証については直ぐに改良。

→ボランティアの方が活動していることが、近所の方にも認知されつつあり、多くの目が向けられて、理解して頂いていると思われることはいいことである。

### ・今後の継続性について

→(保護者)：活動が始まって、すでに3週間目に入り効果が目に見えて出てきている。途中での支援終了は困る。なんとか継続してほしい。

→(保護者)：今回の事業を实际活用して、他の保護者の方にも是非体験してもらいたい思いは強い。

→(ボランティア)：ボランティアの活動自体は、お金がかかるものではないので。

→(行政・回答)：あくまでも国の補助を受けて行う調査研究事業であるため、平成21年度移行予算化はできないが、お金をかけなくてもできる体制作りについて、自立支援協議会で検証を行い、今後どうやれば実施できるかの検証をしたい。

### ・雨天時の午前中の見守り支援について

→(コーディネーター)：前回の全体顔合わせの時、前日の午後5時の天気予報の降水確率50%以上あればキャンセルという取り決めは行ったが、昨日の天気予報では40%で前日の段階でキャンセルはしていなかったが、仮に雨が降った場合は、支援を行うのが物理的に難しいため、昨日の夜に本日の天気次第でキャンセルするかどうかの連絡を朝7時にすることを通知し、今朝の段階で天気が良かったため、予定通り支援をお願いした。今後も今回と同様に朝の支援については、天気次第では朝7時にキャンセルの決定を行うことがある。という旨、了承頂いた。

## 5. 最終ヒアリング

登下校見守り等支援事業実施にあたり、事業参加者全員に対して個別での最終ヒアリングを行った。ヒアリングでは事前に配布したアンケートを基にコーディネーターが聞き取りをし、登下校見守り等支援事業への感想や今後の継続についての聴き取りを行った。

※対象児F：男児・広汎性発達障害（ADHD・アスペルガー）・軽度精神発達遅滞（小学4年）の最終ヒアリングは、実施期間前半にて支援終了となり最終ヒアリングは行っていないため記載はなし。

- ・利用児及び保護者最終ヒアリングシート・アンケート用紙：参考資料 31 参照
- ・ボランティア最終ヒアリングシート・アンケート用紙：参考資料 32 参照

# 平成20年度 登下校見守り支援事業 最終ヒアリング

## 【利用児及び保護者（6名）】

### <ヒアリング設問>

- 1) 登下校見守り等支援事業前に不安に感じたこと
  - ① 登下校見守り等支援事業活動について不安があったか？
  - ② 利用者説明会及び事前顔合わせ・交流会について（改善・要望等）
  
- 2) 登下校見守り等支援中に感じたこと
  - ① 登下校見守り等支援事業内容について
  - ② 登下校見守り等支援事業対象児の支援過程の変化について
  
- 3) 登下校見守り等支援事業関係者間の関係性
  - ① 登下校見守り等支援ボランティア
  - ② 登下校見守り等支援コーディネーター
  
- 4) 登下校見守り等支援事業中に感じたこと
  - ① 登下校見守り等支援回数について
  - ② 登下校見守り等支援を受けての感想（利用対象児）
  - ③ 登下校見守り等支援を受けての感想（保護者）
  
- 5) 登下校見守り支援の継続について
  - ① 登下校見守り等支援の継続について
  - ② 登下校見守り等支援コーディネーター（調整役）の必要性について
  - ③ 利用者時実費が発生する場合の利用について
  
- 6) 登下校見守り等支援事業後の感想
  
- 7) 備 考 (以下設問省略)

## 【対象児 A・男児：軽度知的障害・自閉症（小学1年）】

### 1) 登下校見守り等支援事業前に不安に感じたこと

- ① ・アンケート：少し不安だった / 支援中に事故に遭ったり、子どもがボランティアを受け入れることができず拒絶して迷惑をかけるのではないかと不安だった。
- ・ヒアリング：特にボランティアと合わずに子どもが拒絶し、継続が難しくなるのではないかと不安だった。子どもへは支援が始まるまでに事前の説明をしていたが、初回は少し緊張していた。
- ② ・アンケート：少し足りなかった / 支援の計画準備の順序が悪かった。①利用説明②スケジュール決定 ③対象学校への説明 ④事前顔合わせ（交流会）⑤支援実施等の流れの方が良かった。学校説明と顔合わせが実施後だったのが考慮する所だと思う。
- ・ヒアリング：事前の学校への説明と顔合わせがあった方が良かった。利用説明会の内容は理解できた。

### 2) 登下校見守り等支援中に感じたこと

- ① ・アンケート：心配なかった / 開始1週間はボランティアに同行し通学をした。ボランティアを拒絶せず、自然体でいたので安心だった。交差点などの危険回避・指導も習慣づけも協力してもらった。
- ・ヒアリング：説明があったので心配ではなかった。
- ② ・ヒアリング：交差点などの危険箇所も自分で意識しながら口に出して確認するようになった。ボランティアからの質問などになかなか答えることが難しいこともあったが、自分なりに関わっていた。支援当初ボランティアは女性を希望していたが、男性のボランティアに対しても嫌がらずに登下校できていた。

### 3) 登下校見守り等支援事業関係者間の関係性

- ① ・アンケート：良好であった / 支援登校日の朝は、ボランティアのお迎えをとっても楽しみにしていたことが、保護者としても嬉しかった。
- ・ヒアリング：支援当初は保護者の同行が気になり、なかなか時間がかかり、初めてボランティアと2人で登校する時に1度ぐずったが、その後はスムーズにできていた。また、今回の固定の女性ボランティアの名前を覚えようとしていた。
- ② ・アンケート：良好であった
- ・ヒアリング：いろいろしてもらったので、特にない。

#### 4) 登下校見守り等支援事業中に感じた事

- ① ・アンケート：少し足りなかった / 週3日の登下校支援をして頂くと、自立登校も早く達成できるように思う。
- ・ヒアリング：週2、3日がいいと思った。現在、3分の1程度を一人で登校できるようになってきているため、登校での支援をしてもらおうと助かる。しかし、保護者以外の他の子と一緒に登下校することはなかなか難しく、保育園から一緒に友達がいるが、少し難しい。当学校は集団登下校がなく、あれば自立登下校ができるが、メリット・デメリットもあると思ひ心配でもある。
- ② ・アンケート：(対象児)とても楽しかった / 朝、迎えに来てくれたことが楽しかった。自宅に帰って来ても安定していたので支援日は良かったと思った。(保護者)
- ③ ・アンケート：(保護者)自立登校を目指して親子で頑張っていたが、親離れが難しく一人では短距離でも行くことができなかった。しかし、ボランティアに任せることで子ども自身も、他の子達みたいに一人で学校に行こうという意思づけができた。そのため3分の1程度は一人で自立登校できるようになり、大変感謝している。
- ・ヒアリング：今まで(保育園時)送迎をしていたのでそのままでよかったが、同学校の自閉症6年生が、一人で自転車に乗ったり、近くのお店に買い物に行くようすを見て、子どもにも一人でできるようになってほしいと思った。今回の登下校見守り等支援事業でボランティアに任せることは多少不安ではあったが、チャレンジさせてみなくてはいけないと思っている。いきかっけとなった。

#### 5) 登下校見守り等支援の継続について

- ① ・アンケート：継続したい / できるのであれば、登下校見守り等支援の継続を希望。自立登下校の大きな支えになっている。
- ・ヒアリング：週1、月1回でもいいので継続したい。少しずつ自立登下校を目指し、ボランティアとも良好な関係なので続けたい。
- ② ・アンケート：常に必要 / 緊急時など必要。
- ・ヒアリング：緊急時や何か起きた時などの対応してもらおうと助かる。キャンセル時に、直接ボランティアへ連絡することが早いですが、間にコーディネーターを置いて連絡した方が状況やボランティアとの関係上、いいと思う。
- ③ ・アンケート：利用したい / 多少の費用負担があっても自立の手助けになるため、代えることはできない。
- ・ヒアリング：子どもの自立を目指しているため、多少の実費であれば利用したい。

#### 6) 登下校見守り等支援事業後の感想

入学したばかりの小学1年生の特殊学級の子どもの持っている保護者の方は、なぜこのボランティアの見守り支援事業に申し込まなかったのか疑問だった。参加して、こんなに役に立つボランティア事業を皆も積極的に利用すればと思った。

## 7) 今回の事業全体について

小学校のお便りに今回の事業内容を見て、参加したいと思った。説明会だけでも聞いてみることも良いのではないかと感じた。子どもは自閉症のため、保護者と一緒に登下校するというパターンを持ってしまうと自立ができなくなってしまうと思い、申込みした。ゆくゆくは自立登下校ができるようにさせたいが、現在通っている小学校では集団登下校がなく、もしあれば自立登下校ができるのではないかとも思った。しかし、集団登下校もメリット・デメリットがあると思う。

今回の参加ではボランティアと個別で直接支援ができ自立登下校を目指すための意思づけができたと思う。

## 【対象児 B・女兒：ダウン症候群（小学3年）】

### 1) 登下校見守り等支援事業前に不安に感じたこと

① ・アンケート：少し不安だった

・ヒアリング：初めてのことだったので、どの程度まで支援してもらえるか不安だった。対象児本人に関しての不安というより、ボランティアがどんな人か不安だった。保護者として警戒心と期待感と両方があったが、途中からボランティアへの甘えとは関係なく楽しみになっていった。

② ・アンケート：十分だった

・ヒアリング：始まってみないと分からない部分が大きかった。

### 2) 登下校見守り等支援中に感じたこと

① ・アンケート：少し心配だった / 期間の途中でボランティアの方が携帯電話をお持ちでないことが分かり緊急の時はどうなるのかと少し不安になった。

・ヒアリング：携帯電話を持っていた方が安心感がある。事業が大きくなれば携帯電話の貸し出しなどもできると思う。

② ・ヒアリング：大きな変化はなかったが、子どもも学校へ行く楽しみができ、支援の日はとても楽しみにして朝の準備も本人の動きがスムーズになり、気持ちの変化が見られた。

### 3) 登下校見守り等支援事業関係者間の関係性

① ・アンケート：良好であった

・ヒアリング：ボランティアとの関係は、楽しく登下校していたので良かった。

② ・アンケート：良好であった / コーディネーターには細かい所まで気を配って頂き、大変感謝している。

・ヒアリング：頼りにさせてもらった。人間関係のなどのトラブルで間に入って頂けるのはありがたかった。細かな所までして頂いて助かった。

### 4) 登下校見守り等支援事業中に感じたこと

① ・アンケート：足りなかった / 毎日のことなので希望とすれば多い程ありがたい。

・ヒアリング：やはり回数は多い方が良かった。しかし今回はボランティアの人数などの状況があったので、週2回でも支援があったので良かった。

② ・アンケート：(対象児) とても楽しかった。

・ヒアリング：人と関わることが好きで支援は良い刺激になった。また、言語表現が上手ではないため、子ども自身の世界観やペースで人と関わることで意志表示をしている。

・アンケート：(保護者) とても楽しかった。

・ヒアリング：家庭や幼い子どもも居るため、親として支援がある日はとても助かった。



5) 登下校見守り等支援の継続について

- ① ・アンケート：どちらとも言えない / 保護者側の負担が増えれば継続は難しいと思う。
- ・ヒアリング：負担が増えれば難しい。子どもの保護者であり家庭や親としてある程度の協力はできるが、助けとして欲しい。
- ② ・アンケート：常に必要 / ボランティアとの直接的なトラブルを避けるためにも必要だと思う。
- ・ヒアリング：必要だと思う。人間関係のため、ボランティアと保護者との間に人が入ることで関係や状況に応じて対応してもらえる。
- ③ ・アンケート：どちらとも言えない / 金額にもよるが、ある程度までであれば利用したい。
- ・ヒアリング：生活もあり、実費金額にもよる。

6) 登下校見守り等支援事業後の感想

都会の方がやりやすいかもしれないと思う。なぜなら農家の方は定年を過ぎてからも農業を続けることが多く、都会の方が時間は空いていると思う。

7) 今回の事業全体について

障害児童の親としては大変ありがたい事業でした。ただ回数など期待していたよりも少なかったと感じました。緊急対策などまだ考えていくことはあると思う。

## 【対象児 C・男児：ダウン症候群・心膜欠損症・心臓病（小学1年）】

### 1) 登下校見守り等支援事業前に不安に感じたこと

- ③ ・アンケート：少し不安だった / とにかく初めてのことだったので、支援の内容はいまいち分からなくて不安だった。
- ・ヒアリング：支援前日にボランティアと顔合わせができていたので、子どもも安心だった。
- ④ ・アンケート：充分だった / 説明会は、時間に都合上合わなかったでの行けず内容は分からなかったが、事前に顔合わせ・交流会で支援して頂くボランティアとも話ができてよかった。
- ・ヒアリング：事業内容の説明は分かりやすかった。ボランティアと子どもの交流会は多い方がいい。今回支援が始まる前にボランティアと子どもと顔合わせができたので安心はできた。直接、学校で子どものようすも見てもらい関係を作ってもらおうといいと思う。

### 2) 登下校見守り等支援中に感じたこと

- ① ・アンケート：心配なかった / 支援初日の前日にわざわざ自宅までボランティアとコーディネーターが来てくれたことで、子どもとも顔合わせができていたので不安はあまりなかった。
- ・ヒアリング：遊びが入ると、子どもの気持ちが高ぶりボランティアへ迷惑をかけるのではないかと心配であった。
- ② ・ヒアリング：以前より、一生懸命に歩くことを意識し、登下校している。時々兄弟と一緒に帰るようになり、兄もこの事業を通して、弟への関わり方に変化が見られた。

### 3) 登下校見守り等支援事業関係者間の関係性

- ① ・アンケート：良好であった / 学生ボランティアだったので、お兄さんお姉さんと本人は結構嬉しそうだった。
- ・ヒアリング：とても優しくかったので、子どもにも良くしてもらい良好だった。
- ② ・アンケート：良好であった
- ・ヒアリング：連絡も手配もすごく早く、とても助かった。

### 4) 登下校見守り等支援事業中に感じたこと

- ① ・アンケート：充分だった / 初めてのことで、日数は子どもにとっても親にとってもちょうどいい日数だった。
- ・ヒアリング：週3回での支援を希望していたが、初めの中は週2回程度で十分だった。今後は少しずつ回数が増えていくことを希望。
- ② ・アンケート：(対象児) とても楽しかった / “しりとり”をしたり、“鬼ごっこ”をしたり楽しみながら登下校ができたようすだった。
- ・アンケート：(保護者) 寒い時期で、朝早いのでボランティアやコーディネーターに本当によく頑張って支援して頂き感謝の気持ちでいっぱい。親では甘えが出て、わがままも多く出てしまうが、頑張ることの大切さを本人も学ぶいい機会だった。

- ・ヒアリング：今回の事業はいい経験だった。初めはどこまで介入したらいいのか、コミュニケーションの取り方などの不安はあった。しかし、今回の事業に参加して親が子どもから少し離れることができるようになった。

## 5) 登下校見守り等支援の継続について

- ① ・アンケート：継続したい / できることであれば継続してもらいたい。
  - ・ヒアリング：来年より学年が2年生に上がり、そのためにも自立登下校ができるように準備として、継続したい。
- ② ・アンケート：最初だけ必要 / ボランティアとの関係が上手く取れるようになるまでは、やはり必要。時間帯やキャンセル変更などはボランティアと利用者間でも連絡は可能だと思う。
  - ・ヒアリング：ボランティアが固定であれば、キャンセルなどの連絡は直接して調整ができると思う。しかし、支援日程の調整などはコーディネーターにしてもらった方がいいと思う。状況によっては必要と思う。
- ③ ・アンケート：利用したい / 運営費は必要だと思う。利用者としても少々実費があってもいいと思う。
  - ・ヒアリング：利用する際にある程度の実費は大丈夫。遠慮してしまうこともあるので、多少の実費があった方がいいと思う。

## 6) 登下校見守り等支援事業後の感想

事業自体も初めて、ボランティアも利用者も初めてのことだったので、何かと大変だったと思う。でもこの支援を始めようと考えてくれた事に感謝している。できれば継続を目標に頑張ってもらいたいと思う。よろしくお願いします。

## 7) 今回の事業全体について

今回の参加は、利用している保護者から話を聞いた。学校からのお便りではなく直接話を聞いたので参加しやすかった。今までは保護者と一緒に登下校していたが、兄弟で行ったり、第三者が子どもと関わることでどのような変化が見られるかなど、今までできなかったこともできるようになったりした。子どもにとっても保護者にとってもいい経験・きっかけとなった。他の保護者にも、是非声をかけたいと思っている。

## 【対象児 D・男児：知的障害・ダウン症候群（小学3年）】

### 1) 登下校見守り等支援事業前に不安に感じたこと

- ① ・アンケート：少し不安だった / 人なつっこい性格ではある。相手を自分なりに見極めるまで時間がかかるので、ボランティアの方が気を悪くしないか、待てるかなど心配だった。又、本人なりの見極めは、一見イタズラされている、イジ悪に見られるようなことをする。
- ・ヒアリング：新しい事柄に対する不安があった。子ども自身、初めての人（ボランティア）に対して試すことがあり、ボランティアとの関係が短期の人もいたので不安だった。また、双方への情報不足だったと思う。
- ② ・アンケート：足りなかった / ボランティアの方と利用者側の顔合わせ回数、交流会などの回数をもっと欲しかった。
- ・ヒアリング：交流会など早い時期に行うべきだったと思う。今回の事業では保護者から小学校の校長や担任に報告していた。担任の協力もあり、子どももスムーズにできていたと思う。研修などで対象児の教室のようすや担任から話を聞くことも必要だと思った。

### 2) 登下校見守り党支援中に感じたこと

- ① ・アンケート：すこし心配だった / 初日に遅刻があり、その時誰に連絡していか分からずとても困った。遅刻に困ったのではなく、それについて対処の方法が確立していなかったことに慌てた。
- ・ヒアリング：ボランティアの情報、対象児の情報が少なく、連絡体制が整ってなかったのが初めは不安だった。支援が始まってから回数も増えると思っていたため、週2日だったので少し不安があった。
- ② ・ヒアリング：自立登校ができた。初めは担任の先生が途中から見守ってくれ、少しずつ距離を離して1週間で自立登校できるようになった。今回の事業に参加したことで、子どもも親も安心して1人で学校へ出せるようになり、いいきっかけとなった。

### 3) 登下校見守り等支援事業関係者間の関係性

- ① ・アンケート：まあまあ良好であった / ボランティアと子どもとの交流がなかったため、本人への理解不足に不安を感じた。
- ・ヒアリング：交流がなかったのが不安だった。遅刻より連絡体制の悪さに不安を感じた。
- ② ・アンケート：まあまあ良好であった / この事業を始める前の準備不足、知識不足に驚いた。全国的に初ということで失敗を恐れていることを強く感じたので、もっと大胆に実行力を発揮して欲しかった。初めから守りに入っていたようだった。
- ・ヒアリング：当初はコーディネーターが事業でどのような役割なのか、何をする人なのかなどの説明不足を感じた。

#### 4) 登下校見守り等支援事業中に感じたこと

- ① ・アンケート：足りなかった / 最初から毎日とは思ってなかったが、少しずつ日数を増やしていくものだと思っていた。
- ・ヒアリング：少しずつ回数は後から増やすものだと思っていた。
- ② ・アンケート：(対象児) どちらとも言えない / 回数が増すことに本人の理解が増し楽しみにしているようすが学校で見られた。担任がこの事業に関して理解と協力があったので送迎ボランティアの声かけをたくさんしてくれ、子どもにとって成功へ近づいたと思う。(保護者)
- ・アンケート：(保護者) これをきっかけに自立できたので嬉しかった。
  - ・ヒアリング：今回の事業参加で、子ども本人にも一人で学校へ行くことの認識や意識づけになったと思う。また、保護者や家族以外の第三者の介入によって、成長のきっかけにもなった。子どものできることの可能性が広がったと思う。

#### 5) 登下校見守り等支援の継続について

- ① ・アンケート：継続したい / 継続して欲しい。他校や市内全体へ広げて欲しい。
- ・ヒアリング：継続希望。障害児は孤立しやすく、人と繋がる場を多くあげたい。
- ② ・アンケート：常に必要 / 利用者の都合（体調不良や家・学校の行事の変更など）やボランティアのその時々都合（体調不良や事故など）の変化もあるため、絶対必要。
- ・ヒアリング：ボランティアと保護者で一つの団体として活動するとしても、組織には責任者が必要。そのためにコーディネーターは必要。
- ③ ・アンケート：利用したい / あまり高額にならないようにしてほしい。
- ・ヒアリング：保険加入代も、子どもだけでなくボランティアが子どもをかばって事故が起こることもあるから料金は必要。保護者としても料金を払ってボランティアに支援に入ってもらう方が少しは遠慮しなくてよい。ある程度の線引きの意味でも料金を払う方がいいと思う。

#### 6) 登下校見守り等支援事業後の感想

本市は高齢者サービスの提供はあるが、障害児者の福祉サービスが少なく、なかなか利用したくてもできなかった。今回の事業の対象が障害児であり、障害児者へ目を向けてくれたことがとても嬉しかった。子どもも自立登校ができるようになり、この支援を必要としている他の保護者にも勧めたいが、今の継続状況では難しいため、少しでも活動しやすいような環境作りを求めている。

#### 7) 今回の事業全体について

この事業をやってみようというチャレンジ精神は嬉しかったしありがたいと思ったが、こと実践となると、なかなか進まず積極性や実行力不足にがっかりした。ボランティア募集と、ボランティア養成についての努力不足、認識不足をすごく感じた。でも、この老人の街、大牟田に障害児者に市役所が関心を寄せてくれたことを高く評価したい。孤独になりやすい障害児者本人と保護者に“勇気と元気、育てていこう”という意欲を与えてくれる事業だと思う。絶対継続して欲しい。協力は惜しみません。

## 【対象児 E・男児：自閉症（中学2年）】

### 1) 登下校見守り等支援事業前に不安に感じたこと

① ・アンケート：少し不安だった

・ヒアリング：ボランティアとの相性や声かけの仕方などの不安はあった。

② ・アンケート：少し足りなかった

・ヒアリング：知人からの紹介だったのでスムーズに参加できた。今回子どもの意志での参加もあり、交流会や説明会では長時間初めての人、場所に居ることができた。

### 2) 登下校見守り支援中に感じたこと

① ・アンケート：心配なかった

・ヒアリング：支援開始から保護者も同行し、状況を見ていたので心配はなかった。子どもにも支援前日に事前説明をしていたので、スムーズにできていたと思う。

② ・ヒアリング：支援当初は保護者同行だったので、子どもの可能性が広がっていくのが見えた。学生ボランティアの最終日、保護者を確認することなく自宅まで2人だけで下校していた。だが、今日で学生ボランティアと“お別れ”という言葉の理解ができていなかった。しかし、子どもにとってボランティアの存在が新鮮なものとして感じ、別れがどのような物なのかを知ることができ、いい経験だったと思う。

### 3) 登下校見守り等支援事業関係者間の関係性

① ・アンケート：良好であった

・ヒアリング：学生ボランティアと子どもはとても仲良くしていたので良好だった。また、一般ボランティアとは面識があったため、子どもも安心していただと思う。

② ・アンケート：良好であった / 必ず連絡が取れていたので安心だった。

・ヒアリング：緊急時や途中での変更など、必ず連絡ができていたので安心だった。

### 4) 登下校見守り等支援事業中に感じたこと

① ・アンケート：少し足りなかった

・ヒアリング：週1回だったため、次回までの間隔が長かった。支援だけではなく、時々会うだけでも子どもにとっては安心すると思う。

② ・アンケート：(対象児) とても楽しかった

・アンケート：(保護者) 初めは、保護者自身も一緒に下校していたが、最後では子どもから「一緒に来なくていいよ。」と言いボランティアと帰って来た時は本当に嬉しかった。

・ヒアリング：今まで送迎していたが、保護者ではなく子どもの知らない人と一緒に下校することができるようになり保護者自身も安心して子どもから離れることができた。また、いろいろできるようになり、子どもの世界も少しずつ広がっているように思う。

5) 登下校見守り等支援の継続について

① ・アンケート：継続したい

・ヒアリング：週1、月1回でもいいので継続したい。少しずつ保護者から離れ、他者と一緒に下校できているので継続したい。

② ・アンケート：常に必要

・ヒアリング：緊急時の対応や、全体のまとめ役として必要。

③ ・アンケート：利用したい

・ヒアリング：多少の実費は、必要なものだと思う。

6) 登下校見守り等支援事業後の感想

今回の支援参加は子どもの意志によって参加し、子ども自身もお兄さんと一緒に帰るといふ楽しみができた。支援申し込み時、この支援で他者と関係でつまづくことが心配だった。しかし支援が始まり子どもも達成感が得られ、保護者以外の人と一緒に下校（歩く）することができ、これによって他の支援に参加してみようという意気込みが出た。参加してとてもいい経験だった。

7) 今回の事業全体について

送迎ボランティアを必要とされる方は、たくさんいると思う。保護者自身も登下校見守り等支援事業に参加できて良かった。この事業がこれからも継続できたらいいなと思う。

# 平成20年度 登下校見守り等支援事業 最終ヒアリング

## 【ボランティア（10名）】

### <ヒアリング設問>

#### 1) 登下校見守り等支援事業活動前

- ① 登下校見守り等支援事業活動について不安があったか??
- ② ボランティア説明会及び事前研修について（改善・要望等）

#### 2) 登下校見守り等支援事業ボランティア活動中の感想

- ③ 登下校見守り等支援事業内容について
- ④ 登下校見守り等支援事業対象児の支援過程の変化について

#### 3) 登下校見守り等支援事業関係者間の関係性

- ⑤ 登下校見守り等支援利用対象児
- ⑥ 登下校見守り等支援事業対象児保護者
- ⑦ 登下校見守り等支援コーディネーター

#### 4) 登下校見守り等支援事業ボランティア活動中の感想

- ⑧ 活動曜日・時間帯について
- ⑨ 支援先までの交通方法について
- ⑩ 交通費について
- ⑪ コーディネーター（大障協・市役所）についての感想及び要望

#### 5) 登下校見守り等支援事業活動後の活動

#### 6) 登下校見守り等支援の今後について

- ⑫ ボランティア活動の継続について
- ⑬ 登下校見守り等支援コーディネーター（調整役）の必要性について

#### 7) 備 考

（以下設問省略）



## 【1. ボランティア A / 学生ボランティア】

### 1) 登下校見守り等支援事業活動前

#### ① ・アンケート：少し不安だった

・ヒアリング：支援内容の把握ができていなかったのも、どのようなことをするのか不安だった。顔合わせの時に子ども達の顔は見て分かったが、その子どもの性格・行動の特徴などの実態が分からず、支援が始まったらどのように対応すればいいのか分からず不安だった。

#### ② ・アンケート：少し足りなかった

・ヒアリング：支援事業自体が、全国で初めてのことだったので、前例がなくどのようにしていくのか分からなかった。対応の仕方も支援内容も始まってから分かった。例えば、支援の道順でもどこを通り、どこが危険個所なのかも支援しながら把握していった状態だった。事前にどのようなことをするのか具体的な説明が欲しかった。

### 2) 登下校見守り等支援事業ボランティア活動中の感想

#### ① ・アンケート：問題なかった

・ヒアリング：対象児 A は、母親から離れずこちら側から話しかけても後ずさりしていた。話しかけても、返事がなかったり、問いかけても問いかけとは違う答えが返ってくるため、相性が合わないのではないかと思った。数回支援している内に対象児の横に並んで下校支援ができた。

② ・ヒアリング：支援期間中に1度だけ対象児 A から話しかけてくれた。その時、対象児の周りに同学年の友達がいて話をしていた。その流れで対象児から“スポンジ・ボブ”の話をしてくれた。支援期間中に1度、通常とは行動が違ふと思った日があった。下校の通学路でガードレール横の水路土手にあるススキを取ろうとして危険だということを伝えるとススキを取るのを止めたが、また同じ行動を繰り返した。

### 3) 登下校見守り等支援事業関係者間の関係性

① ・アンケート：(対象児との関係性) まあまあ良好であった / 利用児からの問いかけがないので、どのように思われているか分からなかった。しかし、こちら側の話かけには応じてくれるので、ある程度受け入れてくれているものと思えた。

・ヒアリング：対象児から話しかけてくるような自発的な行動はなかったが、関係は悪くはなかったと思う。ただ、話し過ぎると嫌がるのではないかとさえ、ほどよい会話の量が分からなかった。

② ・アンケート：(保護者との関係性) まあまあ良好であった

・ヒアリング：対象児 A の保護者とは支援前後のあいさつのみであった。自分から「今日はどうですか？」など直接、支援後に話や状況報告をすればよかった。

③ ・アンケート：(コーディネーターとの関係性) まあまあ良好であった

・ヒアリング：問題なくできたと思う。支援する子どものマッチングが良かった。

#### 4) 登下校見守り等支援事業ボランティア活動中の感想

① ・アンケート：やりくりすれば問題はなかった

・ヒアリング：学校の講義があるため、講義と講義の間で支援できるかやってみたが、スクールバスには間に合わなかった。路線バスには間に合い、講義にも間に合った。講義の間で支援するのは難しい。支援対象児が自宅付近であれば、どしゃぶりなどの雨天時の支援は可能。

② ・アンケート：問題はなかった / 自転車を利用しているので、雨などの天候が悪い日は対策が必要だと思う。

・ヒアリング：支援先までは自転車で10分。駐輪場は問題なく止めることができた。

③ ・アンケート：不要

・ヒアリング：ボランティアだったので交通費は不要。バイクを使う人もいたのでガソリン代などもかかるので自転車も一緒に配慮して頂いていたのかと思った。自分が自転車ではなくバイクであっても交通費は不要だった。

④ ・アンケート：未記入

・ヒアリング：特にない。

#### 5) 登下校見守り等支援事業活動後の感想

・アンケート：まあまあやりがいがあった

・ヒアリング：他のごみ拾いボランティア活動などには参加していたが、今回のようなボランティア活動は初めてで、支援始めはどのように障害児に接すればいいのか分からなかった。支援をしてみて、やりがいはあった。

#### 6) 登下校見守り等支援事業の今後について

① ・アンケート：どちらとも言えない

・ヒアリング：登下校見守り等支援事業ボランティアは時間があれば参加したい今は学校があり、今後長期実習が始まるので難しい。  
・ボランティア活動は、時間があればいろいろ参加してみたい。

② ・アンケート：未記入

・ヒアリング：対象児と保護者とボランティアとの関係が良好であればコーディネーターは不要だが、万が一、事故が起きた時の対応や、支援対象児の個人情報の管理などがあるので、コーディネーターが必要だと思う。

#### 7) 備 考

・今後してみたい支援やボランティア活動について

今後、病院や施設で年末大掃除があり、それに参加して病院内での交流を通して、いろんなことを見てみたい。また、子どもにも関わるボランティア活動にも参加してみたいと思う。今回の登下校見守り等支援ボランティアがいきっかけとなった。

## 【2. ボランティア B / 学生ボランティア】

### 1) 登下校見守り等支援事業活動前

- ① ・アンケート：少し不安だった / 障害がどの程度なのか、障害を持った子どもとどのように接して、コミュニケーションを取ればいいのか分からず不安だった。
- ・ヒアリング：コミュニケーションの取り方をどのようにすればいいのか不安だった。
- ② ・アンケート：充分だった / 子ども達一人ひとりの情報を書いたレジメがあったので、好きな物、注意すべきことなどのその子に応じた対応がしやすかった。
- ・ヒアリング：対象児のレジメがあったので大丈夫だった。11月15日の初めての顔合わせに参加できなかったのも、そのような機会があった方がいいと思う。また、対象児の授業風景なども見学できるのなら見学したい。

### 2) 登下校見守り等支援事業ボランティア活動中の感想

- ① ・アンケート：すこし問題なかった / 初めての時、どのように支援していいのか分からず、見守るだけで良いのか、必要最小の声かけだけでいいのか分からなかったが、今は大丈夫。
- ・ヒアリング：支援中の通学路が分からず、学校到着が通常より遅れてぎりぎりだった。全体的な情報の把握ができていればよかった。対象児全てに対して声かけの反応はあり、伝えていることの理解はしてくれていたのも大丈夫だった。また、支援当初どのようにしたらいいのか分からない時などには、ボランティア2名での支援の方が良かった。
- ② ・ヒアリング：・対象児 A は、支援当初1週間は保護者が同行してくれ、次回より対象児とボランティアとの登校に対して保護者から前日に説明してもらっていたが、当日家を出てから10分程ぐずった。しばらくしてから一緒に学校へ2人で行くことができた。全体的に対象児から話かけてくれることはなかった。どちらかというと話さず、真っ直ぐ学校へ行くという感じだった。声かけに対しての反応はあった。
- ・対象児 C は通学路中に“鬼ごっこ”をしたかったのか、数回「しよう！」と誘われた。しかし危ない場所があったので、「危ないからできないよ。」と注意をした後は誘わなくなった。

### 3) 登下校見守り等支援事業関係者間の関係性

- ① ・アンケート：(対象児との関係性) 良好であった
- ・ヒアリング：・対象児 D の初支援の日、突然走り出すなどのボランティアへの試しがあつて心配だったが、2 回目はちゃんと一緒に並んで帰ることができた。
  - ・対象児 C は、“しりとり遊び”などをしながら支援をしていたが、“鬼ごっこ”は危なかつたので“じゃんけん”をしながら支援をした。初回、通学路の道順が分からず迷ってしまい、学校到着がぎりぎりだった。
- ② ・アンケート：(保護者との関係性) 良好であった
- ・ヒアリング：特に情報交換などはしていなかつたが、支援前後での状況報告はできていたと思う。
- ③ ・アンケート：(コーディネーターとの関係性) 良好であった
- ・ヒアリング：特になし。

### 4) 登下校見守り等支援事業ボランティア活動中の感想

- ① ・アンケート：問題はなかつた / 登校時間が大学の授業と重なることがなかつたので、特に問題はなかつた。ただ、下校時間に都合がつかず、そちらに関しては少し厳しかった。
- ・ヒアリング：学校の講義時間と重ならなかつたので、大丈夫だった。問題なかつた。雨天時やどしゃ降りの時など、歩いて行ける距離であれば支援は可能。
- ② ・アンケート：問題はなかつた
- ・ヒアリング：バイクだったので雨天時が不安だった。駐輪場は問題はなかつた。
- ③ ・アンケート：不 要 / 本来ボランティアなのでお金は必要ないと思う。ボランティアを通じて、私も多くのことを経験できて、すごく勉強になっているので、それで本当に充分だと思う。
- ・ヒアリング：活動自体が今後のいい経験だったので、貰えるとは思わなかつた。
- ④ ・アンケート：障害を持った子どもさんが就学することの難しさを知り、ボランティアに関わった保護者に実際に接することで、他人事ではないと思えた。もしかすると、将来自分の子どもが障害を持って生まれてくることも考えられる。そのような時、このようなボランティア活動があると障害を持った子どもや親の方も、私達ボランティアも社会での共存の場が実感できていいと思った。もっと多くの活動の場があつてもいいと思う。コーディネーターはこれからも必要な存在だ。
- ・ヒアリング：特になし。

## 5) 登下校見守り等支援事業活動後の感想

- ・アンケート：やりがいがあった / 得るものが多い。
- ・ヒアリング：ボランティアとして支援することで、障害児の支援も初めてだったし、支援した子どものことや講義の内容なども照らし合わせながら考えることができた。地域密着的なことも現在なかなかないので参加できてよかった。

## 6) 登下校見守り等支援事業の今後について

- ① ・アンケート：継続可能 / 大学の方もこれから忙しくなるが、時間の都合がつかならこのまま活動を継続したいと思う。
  - ・ヒアリング：・登下校見守り等支援事業ボランティアは時間があれば参加したい。
  - ・ボランティア活動は、できるならいろいろ参加してみたい。
- ② ・アンケート：常に必要 / 何か起こった時などの対応が自分一人では難しいので、コーディネーターの方といつでも連絡を取れる体制が整っていると助かる。
  - ・ヒアリング：全体的な連絡体制や支援日程調整に、コーディネーターが必要。

## 7) 備 考

### ・今後してみたい支援やボランティア活動について

登下校見守り等支援というボランティアが初めての試みということもあり、ボランティア側も事業主催者も不安がある中での活動だったと思う。しかし実際活動を始めて、1か月半が経ちますが特に問題もなく、すごくいい活動ができていると思う。

### 【3. ボランティア C / 学生ボランティア】

#### 1) 登下校見守り等支援事業活動前

① ・アンケート：少し不安だった

・ヒアリング：説明だけではどのような登下校見守り等支援（ボランティア活動）なのか、内容が分からず仮実施期間でやっと内容が実感できた。

② ・アンケート：少し足りなかった

・ヒアリング：支援内容が分からなかったなので、具体例があればよかった。（支援のデモンストレーションや映像説明など）また、道順なども事前に把握できていればよかった。

#### 2) 登下校見守り支援事業ボランティア中の感想

① ・アンケート：問題なかった

・ヒアリング：登下校見守り等支援（ボランティア）というよりも楽しく一緒に登下校するという感じだった。対象児2名への支援をしていたが2名とも明るく楽しかったのでとても癒された。

② ・ヒアリング：・対象児 A は、支援始めは母親から離れなかったが、数回支援に行くようになると自宅前で母親に「行って来ます。」と言い、校門到着時はボランティアからの声かけに対して「バイバイ。」とボランティアとスムーズに離れることができた。

・対象児 B は、積極的にボランティアに話しかけたり手を繋いだり、とてもフレンドリーで関わりやすかった。なぜなら、ボランティアCが入る前に他のボランティアが支援に入っていたからではないかと思う。支援中に後ろから来る車・自転車から対象児を避けさせようとしたら、逆に「来てるよ。」とボランティアの心配をしてくれた。寒い時期だったので「体力が落ちているから、手を繋いであげてください。」と保護者から要請を受け、手を繋ごうとすると対象児から手を繋いでくれた。

#### 3) 登下校見守り等支援事業関係者間の関係性

① ・アンケート：(対象児との関係性) 良好であった

・ヒアリング：・対象児 A からの話かけは少なかったが、話せば応答してくれるので支援をする時、対象児に会うことが楽しみであった。

・対象児 B と他の対象児の支援中に会ったので、「おはよう。」と声かけしたら「おはよう。」と応答があった。顔を覚えていてくれたのが嬉しかった。

② ・アンケート：(保護者との関係性) 良好であった

・ヒアリング：・(対象児 A の保護者) 仮期間中しか会うことができなかった。なかなか時間がなく話ができなかった。

・(対象児 B の保護者) 登校支援前に対象児の体調報告などの会話があったので、関係は良好だったと思う。ボランティア側としても状態把握ができたので良かった。

- ③ ・アンケート：(コーディネーターとの関係性) まあまあ良好であった  
・ヒアリング：支援する対象児との組み合わせが良かった。また、固定での支援がとてもしやすかったので安心して支援できた。

#### 4) 登下校見守り等支援事業ボランティア活動中の感想

- ① ・アンケート：やりくりすれば問題はなかった  
・ヒアリング：支援場所へは自転車だったので、対象児と保護者に申し訳なかった。支援対象児が自宅付近であれば、どしゃぶりの雨以外の雨天時の支援は可能。
- ② ・アンケート：問題はなかった  
・ヒアリング：支援先までは自転車で15分。駐輪場は問題なく止めることができた。
- ③ ・アンケート：充分だった  
・ヒアリング：ボランティアだったので、交通費はないという前提でいた。アンケートには“充分であった”にチェックしたが、交通費は不要。
- ④ ・アンケート：最初だけ必要  
・ヒアリング：メールでの連絡や、連絡後の返信がしやすかった。

#### 5) 登下校見守り等支援事業活動後の感想

- ・アンケート：やりがいがあった  
・ヒアリング：初めての(障害児の支援・ボランティア活動)経験だったので、参加して良かったと思う。

#### 6) 登下校見守り等支援事業の今後について

- ① ・アンケート：どちらとも言えない / 時間に余裕があれば、継続したい。現在は学校が試験・実習前で大変なので時間的に厳しい。  
・ヒアリング：  
・登下校見守り等支援事業ボランティアは時間が合えば参加したいが、今は学生なので厳しい。  
・現在、公民館や地域ボランティア活動に参加している。事前に声かけがあれば参加可能。一人暮らしなので、自分の住んでいる地域での関わりができて、とても楽しい。
- ② ・アンケート：最初だけ必要  
・ヒアリング：最初の段階は、コーディネーターにいてもらおうと助かるが、常に支援中にいるのはよくないと思う。また30~40%の降水確率の雨天時の連絡方法で、どしゃぶりなどの場合は当日・前日にでもキャンセルの連絡が必要。コーディネーターの介入は、利用者・保護者とボランティアが密に連絡が取れる状態であれば不要である。しかし、ヒアリングやアセスメント・利用者の自宅地図・レジメなどのことを考えるとコーディネーターが必要だと思う。

#### 7) 備 考

- ・今後してみたい支援やボランティア活動について  
やってみないと分からないがボランティア活動などをいろいろと経験したい。

## 【4. ボランティア D / 学生ボランティア】

### 1) 登下校見守り等支援事業活動前

- ① ・アンケート：少し不安だった / バスなどの交通手段を使って支援する場合になった際、しっかり支援できるか不安だった。また、子ども達と仲良くなれるか、コミュニケーションの取り方なども不安だった。
- ・ヒアリング：施設訪問（肢体不自由・知的などの施設）に行ったことはあった。子どもは好きだが、障害児への支援方法や関わり方などはどうすればいいのか分からなくて不安だった。また、バスを利用したことが少なかったのも、もしバス支援があった場合や学校の授業時間と重ならないか不安だった。（曜日指定の支援でよかった。）
- ② ・アンケート：少し足りなかった
- ・ヒアリング：支援前の『りんどう学園』への研修がキャンセルになったのが残念だった。『あけぼの学園』への研修は、行く前は不安だったが、行って見たら楽しかったのも、いろいろな施設へ行って見たかった。支援する子どもと直接の交流がある方がいいと思った。

### 2) 登下校見守り等支援事業ボランティア活動中の感想

- ① ・アンケート：問題なかった
- ・ヒアリング：対象児 A は、母親から離れなかったのも、初めは困ったがボランティア 2 名で支援に入ったので何とか支援ができた。支援初めはボランティア 2 名で支援する方がよかった。また、支援当初に母親に同行してもらったのもとても安心した。
- ② ・ヒアリング：支援期間中に 1 度、対象児 A と会い「おはよう。」と声かけすると、あいさつをしてくれた。また同日の下校支援中に対象児 B と会ったので「こんにちは。」と声かけをしたらあいさつの応答があった。

### 3) 登下校見守り等支援事業関係者間の関係性

- ① ・アンケート：(対象児との関係性) まあまあ良好であった
- ・ヒアリング：初めはどのように支援したらいいのかわからなかったが、少しずつ回数が増えて顔を覚えてくれたのか、支援中に会ったので声かけをすると、あいさつの応答があった。
- ② ・アンケート：(保護者との関係性) 良好であった
- ・ヒアリング：支援初回では、ボランティアは対象児の横に並び、保護者とコーディネーターが後方から同行していた。支援後、保護者から対象児への対応の仕方などの説明を受けた。自分は赤ちゃんと接しているつもりではなかったが、子どもがメインなので子どもの自立支援とはどういったことか？と考えさせられた。支援中はあいさつ・信号機・危機管理の判断などの支援をした。利用者日誌（利用者証）の受け渡しについて統一した方がいいと思う。
- ③ ・アンケート：(コーディネーターとの関係性) 良好であった
- ・ヒアリング：特になし。



#### 4) 登下校見守り等支援事業ボランティア活動中の感想

① ・アンケート：やりくりすれば問題はなかった

・ヒアリング：朝が少し苦手だったため、登校時の支援は少し大変だった。雨天やどしゃ降り時で歩いて行ける距離（自宅近辺）であれば支援は可能。

② ・アンケート：問題はなかった

・ヒアリング：支援先まではバイクだったので雨天時が不安だった。駐輪場は問題なく止めることができた。

③ ・アンケート：充分だった

・ヒアリング：ボランティアとして参加していたので、交通費は不要。

④ ・アンケート：未記入

・ヒアリング：支援当初、一緒に入ってくれたコーディネーターよりお茶を頂き、嬉しかった。雨天時（12月22日・学生ボランティア支援最終日）の対応が少し悪かった。

#### 5) 登下校見守り等支援事業活動後の感想

・アンケート：やりがいがあった / 障害を持つ子どもさんと接するいい機会にな

った。どの子も一人ひとりの良さがあるって、いつも子ども達から元気を貰っていたような気がする。また保護者の方の登下校見守り等支援事業ボランティアに対する考え方などを聞くことができたのも自分を高める上で、すごくいい経験になったと思う。ボランティア最終日に天候が悪くてボランティアに行けなかったことが心残りだ。

・ヒアリング：障害児のボランティア活動をしたことがなかったので、今回支援できて楽しかった。朝早いのに元気で歌を歌いながら登校するので逆に元気を貰った。また、保護者の生の声が聞けて、とても良かった。

#### 6) 登下校見守り等支援事業の今後について

① ・アンケート：どちらとも言えない / 1月は後期試験があるのでボランティアの参加は難しいと思われる。2月は実習が入り、3月も里帰りなどで予定がはっきりしていない。できるならボランティアは続けたいがまだ予定がはっきりしていないので今はどちらとも言えない。

・ヒアリング：  
・登下校見守り等支援事業ボランティアは時間があれば参加したい。  
・ボランティア活動は子ども関係のボランティアに参加してみたい。

② ・アンケート：常に必要

・ヒアリング：必要と思う。支援する対象児が固定であれば、コーディネーターを通す必要はないと思うが、ローテーションの場合や支援コーディネーターする時などは、コーディネーターが必要と思う。

#### 7) 備 考

・今後してみたい支援やボランティア活動について

1回しか支援に行ったことのない子どもさんもいたので、もっと支援に行きたかった。今回、このボランティアに参加して本当によかった。今までは机上でしか学ばなかったことも、このボランティアでたくさん学ばせて貰った。本当にありがとうございました。

## 【5. ボランティア E / 学生ボランティア】

### 1) 登下校見守り等支援事業活動前

- ① ・アンケート：少し不安だった / 事前にボランティアとして対象児の顔合わせがあつて良かったと感じた。
- ・ヒアリング：支援当初から不安はなかった。幼い頃から障害児と関わるがあつたため。ボランティアとしての支援経験はなかったが楽しみであつた。
- ② ・アンケート：充分だった
- ・ヒアリング：事前の顔合わせがあり、全体的な流れがあつた方がよかった。例えば前日に「明日来るからね。」というような事前での顔合わせがあつた方がいい。また、授業風景なども見学できるのなら見学したい。

### 2) 登下校見守り等支援事業ボランティア活動中の感想

- ① ・アンケート：すこし難しかった / 会話のスムーズさに欠ける自分のコミュニケーション能力のなさが心配であつた。
- ・ヒアリング：対象児 A は学校ではとても元気で、校舎の窓から他の児童に「名前は？」と積極的に働きかけているように見られたが、支援中は話かけると答えてくれるが、あまり喋らないように見られた。研修などで学校と家での自己表現が違ってくるので授業風景も見学できるのであれば見学し、子どもの行動・性格を見たかった。
- ② ・ヒアリング：ボランティア自身（ボラ E）が、当初よりも子どもに質問する様になり、会話も増えスムーズになった。
- ・対象児 A との会話の間が支援当初より短くなったと思う。横に並んで帰れるようになった。
  - ・対象児 C は 3 回支援し、朝の支援後「下校は来てくれる？」と積極的に関わってくれ、対象児から手を繋いでくれた。通学路の道順もスムーズで、学校到着時にボランティアが「バイバイ。」と言うとスムーズに離れて行けた。

### 3) 登下校見守り等支援事業関係者間の関係性

- ① ・アンケート：(対象児との関係性) まあまあ良好であつた / 明確な拒絶が対象児 F との間にあつた。恐らくパーソナルスペースの関係と思う。
- ・ヒアリング：・対象児 F の初支援日で、対象児のパーソナルスペースの認識不足がとても気になった。
  - ・対象児 A と C の 2 名との関係は良好だった。
- ② ・アンケート：(保護者との関係性) まあまあ良好であつた
- ・ヒアリング：支援状況報告も兼ねて会話ができたとする。
- ③ ・アンケート：(コーディネーターとの関係性) 良好であつた
- ・ヒアリング：キャンセル時の対応が早くてよかった。

#### 4) 登下校見守り等支援事業ボランティア活動中の感想

- ① ・アンケート：問題はなかった / キャンセルも上手くコーディネーターが対応してくれたので、特に問題はなかった。
- ・ヒアリング：子どもの時間に合わせる方が優先だった。今回の登下校見守り等支援事業の時間帯は大丈夫だった。
- ② ・アンケート：問題はなかった / あまり問題はないが、何件か道に迷った。
- ・ヒアリング：バイクでの移動距離は大丈夫だった。事前に貰った対象児宅周辺の地図があつてよかった。駐輪場は問題なかった。雨天やどしゃ降りの時など、歩いて行ける距離であれば支援は可能。
- ③ ・アンケート：充分だった
- ・ヒアリング：交通費は充分だった。
- ④ ・アンケート：未記入
- ・ヒアリング：特にないが、ヒアリングなどがあつたので、その時に聞いてもらい変更などもあつたので良かった。支援のなどにプラスαの“何か”があればよかったと思う。例えば、授業風景の見学や、一緒に遊ぶ時間を作ったりなど。

#### 5) 登下校見守り等支援事業活動後の感想

- ・アンケート：やりがいがあつた / 自分の知らないことなどが多く、学ぶことが多かった。特に自分は会話が未熟だと感じたので、改善が必要と思つた。
- ・ヒアリング：いろいろな子どもの対応について臨機応変にできればよかった。小学生と接することが少なかったなので、改めて学べた。また会話の内容で話が広がるように、子ども一人ひとり考え、改善しながら支援ができるようになった。

#### 6) 登下校見守り等支援事業の今後について

- ① ・アンケート：どちらとも言えない
- ・ヒアリング：・登下校見守り等支援事業ボランティアは、自身のためになつたし、日程次第では続けたい。大学3年次は人によって忙しさはバラバラだと思う。
- ・ボランティア活動は、時間や機会があれば参加したい。現在、登下校見守り等支援学生メンバーで病院へのボランティア活動を試みようというきっかけにもなつた。
- ② ・アンケート：常に必要
- ・ヒアリング：雨天時のキャンセルは、ボランティアの判断よりコーディネーターなどの判断があると安心する。今回の連絡体制は連絡がしやすかつた。初回でのコーディネーターは必要と思う。しかし、コーディネーター介入は、利用者とボランティアの関係次第だと思う。

## 7) 備 考

### ・今後してみたい支援やボランティア活動について

今後ボランティア活動はしたい。今回の登下校見守り等支援ボランティアは楽しかったし、負担ではなかった。ただ、支援後に利用者日誌（利用者証）の書き込む時間がかかってしまい、保護者に申し訳なかった。時間をかけて書いた方が、書く内容も濃く書けると思う。支援期間中に数回、保護者と話をしながら記入することができた。その時は自分の判断・考えだけではなく、保護者から話を聞きながら、内容を理解して書くことができた。また、支援後に支援方法の改善点を考え、次回チャレンジしてみるなどのフィードバックもできたと思う。

## 【6. ボランティア F / 学生ボランティア】

### 1) 登下校見守り等支援事業活動前

- ① ・アンケート：少し不安だった / 最初は不安だったが少しずつ慣れていき楽しくなった。
- ・ヒアリング：健常児とは違い、支援する障害児のことや関わり方を知らないし、支援できるのか不安だった。
- ② ・アンケート：充分だった
- ・ヒアリング：保護者ともっと早めに話ができればよかった。顔合わせがなかったら、支援する子どもの顔や性格も分からなかった。もっと顔合わせや会話が必要と思った。

### 2) 登下校見守り等支援事業ボランティア活動中の感想

- ① ・アンケート：問題なかった
- ・ヒアリング：・対象児 F は中学生で、考え方も自立していたので支援をするというよりも友達という感覚で一緒に帰る感じだった。  
・対象児 C は道順が分からず違う方向に行ってしまった。
- ② ・ヒアリング：対象児 F は自閉症で、パーソナルスペースの認識不足で初回は対象児から拒否されてしまった。次回パーソナルスペースの改善をしたところ、一緒に帰ることができた。支援中に対象児が好きな電車の話をしよと思ったが、続かないと思い、自分も好きな食べ物の話をしたところ、話が広がった。最終的に一緒に写真を撮ろうと言ってくれた。また、対象児 F は、雨天時に傘をさして帰ったことがなかったが、今回の支援で初めて傘をさしてボランティアと一緒に帰った。その時はなかなか話ができなかったが、保護者も初めてのことでとても驚いていた。

### 3) 登下校見守り等支援事業関係者間の関係性

- ① ・アンケート：(対象児との関係性) 良好であった
- ・ヒアリング：初めての支援の時は構えて行ったが、2回目以降は対象児から話してくれる時など良好な関係であったと思えた。
- ② ・アンケート：(保護者との関係性) まあまあ良好であった
- ・ヒアリング：・対象児 F の保護者とは良好だったと思う。支援前に体調報告などしていた。  
・対象児 C の保護者とは1回しか会えず、あまり会話ができなかった。
- ③ ・アンケート：(コーディネーターとの関係性) 良好であった
- ・ヒアリング：コーディネートしてもらった対象児 F と、とても合っていた。

#### 4) 登下校見守り等支援事業ボランティア活動中の感想

- ① ・アンケート：問題はなかった / 対象児 F ともう少したくさん話したかった。  
・ヒアリング：対象児 F は自閉症のため、支援の期間が空くとよそよそしかったので、週 2 回程度入れてもらっていただければよかったと思う。
- ② ・アンケート：問題はなかった  
・ヒアリング：支援先までバイク 15～20 分。駐輪場は対象児の学校と相談していたので問題なかった。雨天時やどしゃ降りの時など、歩いて行ける距離であれば支援は可能。
- ③ ・アンケート：不 要 / ボランティアでやっているのに、交通費を貰うのは少し申し訳なかった。  
・ヒアリング：ボランティアとして参加していたので貰って申し訳なかった。
- ④ ・アンケート：本当にいい経験ができと思う。今後、この活動が広まっていくことを期待したい。また、コーディネーターのおかげで楽しく行うことができた。ありがとうございました。  
・ヒアリング：今回のコーディネーターの配慮はよかったと思った。

#### 5) 登下校見守り等支援事業活動後の感想

- ・アンケート：やりがいがあった  
・ヒアリング：このボランティア活動に参加して、対象児 F の心を少しは開けたかなあと思い、達成感があり、やりがいがあった。

#### 6) 登下校見守り等支援事業の今後について

- ① ・アンケート：継続可能  
・ヒアリング：・移動支援事業ボランティアは時間の関係がなければ参加したい。しかし、今後 3 年次に上がると実習があり難しくなる。  
・ボランティア活動は、公民館のボランティアとして呼ばれることが多い。
- ② ・アンケート：常に必要  
・ヒアリング：支援を 1 週間、1 カ月してみてもヒアリング（相性）をし、コーディネートしたりする時は必要と思う。対象児（利用者）のストレスにならないようにコーディネーターは必要だと思う。自分は対象児 F と合っていたので良かったが、別の場合もあるので必要と思う。今回、対象児及び保護者とはコミュニケーションは取れていたが、数回しか支援がない所などは何かあった場合、連絡をしづらいのではないかと思う。十分な顔合わせがあれば連絡など取りやすくなればコーディネーターは不要。今回事前に支援する対象児のレジメ（情報など）はとてもよかった。

#### 7) 備 考

##### ・今後してみたい支援やボランティア活動について

今回支援していた対象児の中学校の教室に、大学の先輩がボランティアとして行っているの、一緒に行って勉強したい。

## 【 7. ボランティア G / 一般ボランティア 】

### 1) 登下校見守り等支援事業活動前

① ・アンケート：不安はなかった

・ヒアリング：今回に支援対象児・保護者とは以前面識があったため、支援に入りやすかった。だが、初対面であった場合は不安であったと思う。

② ・アンケート：足りなかった / ボランティアにも経験などの個人差があると思う。個々に応じた研修を考えた方がいい。

・ヒアリング：学校への現場研修や見学など、学校と連携が取れていればいいと思う。交流会や顔合わせなど少なかったと思う。ボランティア同士の交流もなかったので情報などの交流ができれば良いが、最近では個人情報について厳しくなっているため、自発的にやりにくい。

### 2) 登下校見守り等支援事業ボランティア活動中の感想

① ・アンケート：問題はなかった

・ヒアリング：ニーズがあり、実際支援を受けて自立登下校できるなどのいいきっかけになったと思う。また、障害を持つ保護者として、第三者（ボランティア）の介入で子どもから自立するきっかけになったのではないかと思う。子どもの世界観が広がったのではないかと思う。

② ・ヒアリング：・対象児 D は、最近では下校中に楽しく遊びながら帰り、たまにボランティアを干渉しながら試したりする。

・対象児 F は、初回では音に敏感で、耳をふさぐなどがあったが、最近は見られず、鼻歌を聞くことがあった。

### 3) 登下校見守り等支援事業関係者間の関係性

③ ・アンケート：(対象児との関係性) 良好であった / 対象児とは面識があった。

・ヒアリング：対象児と面識があり、支援の回数が増えるにつれて繋がりやすかった。

④ ・アンケート：(保護者との関係性) 良好であった / 保護者とは面識があった。

・ヒアリング：子どもと他の人に預けることはとても不安があったと思う。その中で支援の回数が増えるにつれ、学生ボランティアなど保護者から認められるようになり、保護者も少しずつ安心していったのではないかと思った。

⑤ ・アンケート：(コーディネーターとの関係性) 良好であった

・ヒアリング：特になし。

#### 4) 登下校見守り等支援事業ボランティア活動中の感想

- ① ・アンケート：問題はなかった
  - ・ヒアリング：他の予定と重ならなかったので問題はなかった。
- ② ・アンケート：問題はなかった
  - ・ヒアリング：支援は2か所行っていたが、遠方は車で行き、健康のためにも自宅近くの支援先には徒歩で行っている。
- ③ ・アンケート：未記入
  - ・ヒアリング：ボランティアだったので、少し多かったと思う。
- ④ ・アンケート：未記入
  - ・ヒアリング：コーディネーターにいろいろとしてもらっていたので、特にな  
い。

#### 5) 登下校見守り等支援事業活動後の感想

- ・アンケート：やりがいがあった
- ・ヒアリング：今回の事業で、対象児が良い方向へ向かったことが嬉しかった。例  
えば自立登下校ができるようになったことなど。

#### 6) 登下校見守り等支援事業の今後について

- ① ・アンケート：継続可能
  - ・ヒアリング：学生ボランティアはどうしても一時的なものであって、今後継  
続ということでは、地域の年配の人や、社会福祉協議会のボラ  
ンティア登録している人などがいいと思う。しかし、時間的な  
こともあるとは思う。また知的障害へのボランティアは極端に  
少ないこともある。研修なども概論はできるが研修は難しいと  
思う。
- ② ・アンケート：最初だけ必要
  - ・ヒアリング：ボランティアや保護者との間に入ってもらったり、支援当初な  
どにいてもらう方がいい。日程やコーディネートはしてもらい  
たい。一対一での支援であれば、難しいことではないと思う。

#### 7) 備 考

##### ・今回の事業全体についての意見

対象の方に、この事業の周知されているのか？という疑問もある。また、実施期間が  
遅かったのではないか。年度初めの4月からであれば利用しやすかったと思う。そのよ  
うな保護者の意見を聞いたので、実施期間を考慮すべきだと思った。



## 【 8. ボランティア H / 一般ボランティア 】

### 1) 登下校見守り等支援事業活動前

① ・アンケート：少し不安だった

・ヒアリング：事前の顔合わせの時に保護者から『他の人に預けるのは不安』という意見を聴き、きちんと子どもとコミュニケーションが取れるか、対応できるか不安だった。

② ・アンケート：充分だった

・ヒアリング：事前研修や講習会などがあればいいと思うが、子どもの対応や研修に入る前の心がまえなどのオリエンテーションがあればいいと思った。また、事前に対象児の学校・授業風景の見学ができるといいと思う。

### 2) 登下校見守り等支援事業ボランティア活動中の感想

① ・アンケート：すこし難しかった

・ヒアリング：対象児 B は支援当初から、明るく元気で会話も良くしてくれた。会話の内容が聞き取れず、どのように会話を進めたらいいのか不安だった。

② ・ヒアリング：対象児 B は、始めから会話が上手でとても元気だった。逆に会話ができなくて不安だったが支援していて元気を貰った。初回に対象児に荷物を持ってしまったが、次回より自分で持つようになった。

### 3) 登下校見守り等支援事業関係者間の関係性

① ・アンケート：(対象児との関係性) 良好であった

・ヒアリング：対象児 B からの会話が多くあり、常に話しながらの支援であった。教室まで迎えに行き、対象児がボランティアに気づくと笑顔で手を振ってくれた。

・アンケート：(保護者との関係性) 良好であった

・ヒアリング：下校支援終了後に状況報告など、気づかいなどをして頂いた。

② ・アンケート：(コーディネーターとの関係性) 良好であった

・ヒアリング：良くして頂いたので特にない。

### 4) 登下校見守り等支援事業ボランティア活動中の感想

① ・アンケート：問題はなかった

・ヒアリング：午前から午後の支援に変更してもらってからは、曜日も支援時間も問題はなかった。

② ・アンケート：問題はなかった

・ヒアリング：徒歩で支援する距離が長いと難しいが、今回の支援した距離(徒歩 10 分程度)であれば問題はなかった。支援対象児が自宅付近であれば、どしゃ降りの雨以外の雨天時の支援は可能。

- ③ ・アンケート：不 要
  - ・ヒアリング：ボランティアなので不要。
- ④ ・アンケート：未記入
  - ・ヒアリング：良く対応して頂いたので特になし。

## 5) 登下校見守り等支援事業活動後の感想

- ・アンケート：やりがいがあった
- ・ヒアリング：支援当初に比べて不安はなくなった。しかし、会話はやはり不安。対象児がとても明るく元気なので、支援していて毎回逆に元気を貰っていた。

## 6) 登下校見守り等支援事業の今後について

- ① ・アンケート：継続可能
  - ・ヒアリング：
    - ・登下校見守り等見守り支援は、曜日・時間が決まっていて、時間があれば週に数回の支援もできる。
    - ・ボランティア活動は、できるなら参加してみたい。
- ② ・アンケート：常に必要
  - ・ヒアリング：最初のコーディネートや支援時間、曜日などを決めてもう方がいい。固定での支援であれば、コーディネーターを介さなくても支援できると思う。

## 7) 備 考

- ・今回の見守り等支援事業でボランティア活動してみて
  - 参加できて嬉しかった。支援していて逆に元気を貰って帰って来ていた。また、交流会などで保護者の話を聞くことができた。一対一での会話は難しいが複数で多くの情報が聞けてとてもよかった。
  - 今後コーディネーターがいなくなっからこの事業を継続する時に、ボランティアの中で中心となる人がいればとても助かる。

## 【9. ボランティア I / 一般ボランティア】

### 1) 登下校見守り等支援事業活動前

① ・アンケート：少し不安だった

・ヒアリング：初めは登下校の送迎をするという感じだと思っていたが、実際してみると支援する子ども一人ひとりに合わせた接し方や家族からの情報もあり、幼い子どもと接することがなかったので、いろいろと接し方が分からず不安だった。また、事前の説明が欲しかった。

② ・アンケート：すこし足りなかった

・ヒアリング：保護者と事業をする側とのニーズの把握、噛み合いがズレていたように思った。また、事前での研修は密に多くあった方がよかったと思った。研修も学校見学で子どもを取り巻く環境や友達等のようにすも知りたかったし、支援ルートも事前に行って把握したかった。

### 2) 登下校見守り等支援事業ボランティア活動中の感想

① ・アンケート：問題なかった

・ヒアリング：支援のことがよく分からず、またボランティア経験がなく、障害児のこともよく分かっていなかったが、支援をしてから少しずつ分かってきた。

② ・ヒアリング：対象児 A が興味を持ったことにボランティア側から引き出すような、声かけをした方がよかったのか分からなかった。しかし興味のあることについて多く話すことがあった。

### 3) 登下校見守り等支援事業関係者間の関係性

① ・アンケート：(対象児との関係性) 良好であった

・ヒアリング：下校中に突然、「暑い。」と言って洋服や靴を脱いだりすることがあったが、声かけをすると納得してくれたり、興味があることには対象児から話をしてくれ話が弾むことがあった。例えば下校中にある小川にゴミがあることについて、必ず話をする。「僕（対象児）は、きれい好きなんだよ。」など。少しずつボランティアに甘えてくれているようで、対象児の持ち物を持ってなどのお願いもされるようになった。

② ・アンケート：(保護者との関係性) 良好であった

・ヒアリング：対象児 A の保護者とは、支援後の状況報告等、会話はできていたと思う。

③ ・アンケート：(コーディネーターとの関係性) 良好であった

・ヒアリング：いろいろしてもらったので、今はない。

#### 4) 登下校見守り等支援事業ボランティア活動中の感想

- ① ・アンケート：少し難しかった / 時間的にあと1時間遅い位の時間帯が良かった。  
・ヒアリング：今回支援対象が小学校低学年だったので16時以降ではなかったが、16時以降の方が時間的によかったと思った。固定での支援曜日だったのはよかった。
- ② ・アンケート：問題はなかった  
・ヒアリング：駐車場に車で支援場所に行くことは問題なかった。利用者が自宅付近での支援は可能だが、自宅より遠い場所への支援でもまったく問題はない。
- ③ ・アンケート：充分だった  
・ヒアリング：ボランティアだったので不要。今後も不要。
- ④ ・アンケート：未記入  
・ヒアリング：今のところ特になし。

#### 4) 登下校見守り等支援事業活動後の感想

- ① ・アンケート：まあまあやりがいがあった / なかなか自身の子どもも大きくなり、幼い子ども達と接する機会がなく、触れ合うことができよかった。少しでも福祉に興味があってもどうしたらいいのか分からなかったが、この機会に事業に参加できてよかった。
- ② ・ヒアリング：先日参加したプロジェクト会議で、支援利用保護者と事業側の事業の噛み合わせが合っていないように思った。誰でも人の役に立ちたいと思うことはあるが、どのようにしたらいいのか分からない人が多いと思う。そのような人達が居るので福祉のボランティア活動の方法や機会などを増やしたらいいのではないかと。  
・今回の広報の内容では難し過ぎて、よく内容が分からなかった。また、オリエンテーションをするのもいいと思った。

#### 5) 登下校見守り等支援事業の今後について

- ① ・アンケート：継続可能 / 長期継続は難しいが、今回の事業参加で勉強したことが役に立つことがあれば参加したい。  
・ヒアリング：登下校見守り等支援事業ボランティアは時間があれば参加したい。  
・ボランティア活動は、できるなら参加してみたい。
- ② ・アンケート：常に必要 / 自分だけではどの様にしたらいいのか分からないこともあるので、指導という立場でサポートして欲しい。  
・ヒアリング：ボランティアや保護者の双方の状況を把握し、間に入ってくれるような第三者での介入役は必要。

## 7) 備 考

### ・今回の事業について

今回の事業で大牟田市内の福祉について知ることができた。自身が障害や知的障害ということに対して偏見を持っていたところもあり、事業に参加して見方が変わった。また自宅近くに障害を持った人が居て、その人の役にも立ちたいと思った。当初は大変なのではないかと思っていたが、子ども一人ひとり素晴らしい物も持っていてとても勉強になった。子ども達と関わってよかった。また、障害を持った保護者に会って話を聞く機会があり、困っている人も多くいるので、もっと窓口を作ったらいいと思う。

## 【10. ボランティア J/ 一般ボランティア】

### 1) 登下校見守り等支援事業活動前

- ① ・アンケート：少し不安だった / やはりどうなるか、ちゃんと道を連れて帰れるか不安だった。
- ・ヒアリング：道順以外では、以前障害児者の訓練会（動作法）に参加していた頃の経験で、一人ひとり行動パターンが違い、子どもに適した対応が一人でできるのか心配だった。事前に支援対象児の自宅付近と通学路の下見をしたが、実際支援中での道が変更になったりしたので不安だった。
- ② ・アンケート：充分だった
- ・ヒアリング：対象児に事前に顔合わせができたので良かった。顔合わせは充分必要だと思う。研修よりも現場や、対象児の学校風景などの見学ができたらいと思う。

### 2) 登下校見守り等支援事業ボランティア活動中の感想

- ① ・アンケート：すこし難しかった / 支援対象児 C は遊びながらテンションが上がると、手を繋いでいても急に離れていくので少し危険性を感じた。
- ・ヒアリング：支援曜日によって個別でのローテーション（月曜 A クン、火曜 B ちゃん、水曜 C クン・・・各週支援者の曜日は固定）での支援は可能だと思う。対象児 C は、物に石を当てて音を楽しむことをしていた時、石が車道に落ちていたのを見つけ、突然走りだした。危険だったので注意したところ、驚いて戻って来た。支援中におしっこに行きたいと言い、家まで我慢できるか対象児に確認し、家まで帰ったこともあった。
- ② ・ヒアリング：対象児 C に回数が増える度に、愛着が生まれ対象児も支援がある時は「ボランティアのお姉ちゃん」というように認識・愛着が出てきていたのではないかと思った。しかし、慣れてくると支援中に遊び時間が増えてしまい、下校時間が長くなることがあった。

### 3) 登下校見守り等支援事業関係者間の関係性

- ① ・アンケート：(対象児との関係性) 良好であった
- ・ヒアリング：対象児 C もボランティアの認識・愛着が見受けられた。
- ② ・アンケート：(保護者との関係性) まあまあ良好であった
- ・ヒアリング：支援 3 回中保護者とは 2 回会い、保護者にもよくして頂いた。また、対象児 C が帰って来ると優しく迎えていたのが印象的だった。1 回は祖母と会い、その時の状況報告を行った。
- ③ ・アンケート：(コーディネーターとの関係性) 良好であった
- ・ヒアリング：初回にどの子どもに支援するのか決まっていなかったのが不安だった。

#### 4) 登下校見守り等支援事業ボランティア活動中の感想

- ① ・アンケート：問題はなかった
  - ・ヒアリング：特に問題はなかった。雨天時やどしゃ降りの時など、歩いて行ける距離・自宅近辺であれば支援は可能。
- ② ・アンケート：問題はなかった
  - ・ヒアリング：交通、駐車場も問題はなかった。
- ③ ・アンケート：充分だった / 少し道を覚えるのが大変だった。
  - ・ヒアリング：支援活動の場所、距離にもよる。
- ④ ・アンケート：丁寧にやって下さったと感謝している。コーディネーター（女性）とは年齢も近く、障害児への関わり方などの学ぶところも多く、やりやすかった。こちらの疑問にも良く答えて頂いたと思う。また、緊急時の対処・連絡も迅速に密にして頂いた。
  - ・ヒアリング：コーディネーターに付いてもらいボランティアをするのは初めてだったので、話をしたこと全てが感想と要望。

#### 5) 登下校見守り等支援事業活動後の感想

- ・アンケート：やりがいがあった / 対象児 C のキャラクターも有り、楽しい時間だった。障害児・者でも地域やその周辺で支えて生活すれば、その子の持っている力も発揮出来る可能性はあるし、輝いて生きることのできるのではないかと感じた。
- ・ヒアリング：登下校支援という今回の事業によって、支援をした対象児の自宅近辺の方に知ってもらえる機会となったと思う。下校支援中に自宅近くの方から声をかけてもらったりした。

#### 6) 登下校見守り等支援事業の今後について

- ① ・アンケート：継続可能
  - ・ヒアリング：・登下校見守り等支援事業ボランティアは時間があれば参加したいが、1・2・3月は難しいと思う。
    - ・ボランティア活動は、できるなら参加してみたい。
- ② ・アンケート：常に必要 / やはり緊急で支援に行けなくなった場合など、いて頂くと安心できる。
  - ・ヒアリング：ボランティアとボランティアとを繋ぐ役としても、またボランティア間でのトラブル時など、間に入って問題解決してもらおう時など必要と思う。

#### 7) 備 考

##### ・今後してみたい支援やボランティア活動について

初めて参加させて頂きましたが、新しい取り組みで素晴らしいと思った。長く続けて頂けるといいなあと思った。今後参加してみたい活動としては、高齢者のボランティアにも参加したい。

参考資料 31

登下校見守り等支援事業 利用者（保護者）

平成20年度 見守り支援事業 最終ヒアリング ①

平成20年度 見守り支援事業 最終ヒアリング ③

ヒアリング日: [ ] 利用見氏名: [ ] (履歴名: [ ]) ヒアリング記入日: [ ]

①見守り支援活動について不安があったか?? 不安だった 少し不安だった 不安はなかった

②利用説明金及び事前顔合わせ・交流会について 充分だった 少し足りなかった 足りなかった

③見守り支援内容について 心配なかった 少し心配だった 心配だった

見守り支援事業対象児の支援後の変化について

④ボランティアとの関係 良好 まあまあ良好 あまり良好でなかった 問題があった

⑤コーディネーターとの関係 ※コーディネーター(大障協・市役所)への感想及び要望  
良好であった まあまあ良好 あまり良好ではなかった 問題があった

登下校見守り支援事業ポランティア活動中の感想

⑨コーディネーター(調整役)は必要か? 前が必要 最初が必要 必要ではない

⑩利用者夫妻が発生する場合の利用について 利用した 利用できない どちらとも言えない

移動支援の今後について

今回の事業全体についての意見

平成20年度 見守り支援事業 最終ヒアリング ②

ヒアリング記入日: [ ]

⑥見守り支援回数について 充分だった 少し足りなかった 足りなかった

⑦登下校見守り支援を受けての感想 ※利用対象児(子ども) とても楽しかった 楽しかった  
どちらとも言えない 少し嫌だった 嫌だった

⑦登下校見守り支援を受けての感想 ※保護者自由回答

⑧見守り支援の継続について 継続したい 継続できない どちらとも言えない

備 考



# 保護者アンケート用紙

## 平成 20年度 ★登下校見守り支援等事業アンケート（利用者用）★

利用者氏名（ ）  
利用保護者氏名（ ）

### ★個別状況

#### 1 性別

男性 女性

#### 2 障害名

( )

#### 3 利用対象児の年齢階層

小学1年 小学2年 小学3年 小学4年 小学5年 小学6年  
中学 就学前

★該当項目にチェックしてください。自由意見欄にはチェック項目に該当しにくいお答え等、ご自由にご記入してください。

### ★登下校見守り支援の前に感じたこと

#### 1 活動について不安がありましたか？

不安だった  
すこし不安だった  
不安はなかった

★自由意見

( )

#### 2 利用説明会及び事前顔合わせ・交流会について

充分だった  
すこし足りなかった  
足りなかった

★自由意見 ※説明会等でご要望がありましたらご記入ください

( )

### ★登下校見守り支援中に感じたこと

#### 3 支援について

心配なかった  
すこし心配だった  
心配だった

★自由意見 ※心配と感じた場合、どのような事に心配だったのかご記入ください

( )

#### 4 ボランティアとの関係

良好であった  
まあまあ良好であった  
あまり良好でなかった  
問題があった

★自由意見 ※良好でないと感じた場合、お気付の事をご記入ください

( )

#### 5 コーディネーターとの関係

良好であった  
まあまあ良好であった  
あまり良好でなかった  
問題があった

★自由意見 ※コーディネーター（大障協、市役所）についての感想及び要望など

( )

### 6 登下校見守り支援回数について

充分だった  
少し足りなかった  
足りなかった  
★自由意見

( )

### 7 登下校見守り支援を受けての感想

★自由意見利用者 ※子ども（利用児）の感想

とても楽しかった ※どのような事が楽しかったですか？

楽しかった

どちらとも言えない

少し嫌だった ※どのような事が嫌でしたか？

嫌だった

★自由意見 ※保護者の感想

( )

### ★今後のことについて

#### 8 見守り支援の継続について

継続したい  
継続できない  
どちらとも言えない

★自由意見

( )

### 9 コーディネーター（調整役）は必要ですか？

常に必要  
最初だけ必要  
必要ではない

★自由意見（※詳しい理由などありましたら、ご記入ください。）

( )

### 10 利用者実費が発生する場合の利用について（ボランティア保険、運営費など）

利用したい  
利用できない  
どちらとも言えない

★自由意見

( )

### 11 今回の事業全体についての意見をお聞かせください。

( )

★アンケートのご協力ありがとうございました★

参考資料 32

登下校見守り等支援事業 ボランティア

平成20年度 移動支援事業 最終ヒアリング ①

平成20年度 移動支援事業 最終ヒアリング ③

登下校見守り支援事業ボランティア活動中の感想	ヒアリング日:	ヒアリング対象ボランティア名:
	移動支援活動について不安があったか??	
	ボランティア説明会及び事前研修について(改善・要望等)	
	移動支援事業内容について	
	移動支援事業対象児の支援過程の変化について	
移動支援事業関係者間の関係性	移動支援利用対象児	
	移動支援対象児保護者	
	移動支援コーディネーター	

移動支援の今後について	ボランティア活動の継続について	ヒアリング記入日:
	移動支援コーディネーター(調整役)の必要性について	
備考		

平成20年度 移動支援事業 最終ヒアリング ②

登下校見守り支援事業ボランティア活動中の感想	活動曜日・時間帯について	ヒアリング記入日:
	支援先までの交通方法について	
	交通費について	
	コーディネーター(大塚協・市役所)についての感想及び要望	
	移動支援事業活動後の活動	



## 6. 移動支援調査研究委員会での検討

第三者による検討機関として、自立支援協議会とは別に医療機関、学識経験者、福祉関係、経済団体等で構成した「移動支援調査研究委員会」を設置し、事業についての検証及び助言をいただいている。

- ・第1回委員会平成21年1月20日（火）  
平成20年11月～平成21年1月までの実施した事業の報告
- ・第2回委員会平成21年2月27日（金）  
事業実施後のボランティア、利用者からの最終ヒアリングの結果の報告及び今後の事業継続の方法等について報告している。

委員から、本事業を利用した保護者から、子どもの自立心が生まれるなどの成果が上がっているという話を受けているが、調査研究事業が終了すれば、コーディネーターがいなくなり、事業の継続が可能かという質問があった。

コーディネーターが担った役割については大きいものがあり、その役割については市、社会福祉協議会、相談支援事業所、学校等で分担し、今後も自立支援協議会を母体としたプロジェクト会議で検討を重ね、事業継続に向けていきたい旨説明する。

また、現在の事業を継続させるためには、ボランティア数が不足しているために、コーディネーターがいる平成21年3月までに、新規ボランティアの募集など一定の方向性を示したい旨説明する。

## 7. 考 察 ・ 結 論

本事業では主に大牟田市内の障害児の登下校見守り等支援事業でのインフォーマルサービスの開拓を図るものとした。

障害者自立支援法施行後、移動支援事業は市町村の裁量により提供されるサービスだが、事業対象となる就学期の児童・生徒の移動支援は登下校の時間が決まった支援になるため、フォーマルサービスでの対応が全国的に難しいのが現状である。

本市の自立支援協議会で協議し、ボランティアの募集・育成・ニーズの把握等を協議し移動支援のモデル事業となった。事業が進む中、支援を実施した地域では少しずつボランティアが認識され、声をかけてもらう場面もあった。また、ボランティア支援を受けて対象児も自立登下校ができるなどの自立促進への手助けができ、保護者も子どもと距離をもって接する勇気やきっかけとなった。

この事業の開拓により本市でのボランティア活動の認識が高まっていけば、地域性の強いインフォーマルサービス提供が、今後可能なものになると考えられる。

### 1) 登下校見守り等支援事業の準備

事前に登下校時のニーズ調査を行い、ボランティアへの見守り・声かけ等のニーズは高い結果が見られた。また、インフォーマルサービスでの移動支援ニーズ調査からは、ボランティアの活動は少ない、または不要という結果であった。実際、地域の中でボランティアが根付いていないため、活用できない・知らなかったなどにより要望が少なく、そのため手助けはほしいが何とかなっているという現状であると思われる。しかし、ボランティアがいれば野外活動への同行や通学の介助や見守りなどの手助けを希望したいという回答は多く得られた。

この結果から、サービスを利用したいが今のままでも大丈夫、第三者に預けることが不安または申し訳ないなど、保護者を取り巻く福祉環境が大きく影響していると思われる。ボランティア支援利用によって障害児や保護者の地域社会参加のきっかけとなり、地域密着のインフォーマルサービスの支援提供ができるようになるのではないかと考えられる。

その為にはボランティアの募集と育成が重要となる。事前のニーズ調査によって移動支援ニーズの現状が浮き彫りとなり、本事業支援利用児及び保護者のアセスメントでは、コーディネーターが個別に対象児の性格や特徴、ボランティアへの支援希望などの聴き取りを十分に行った。コーディネーターが直接支援対象児に会うことで、第三者と初対面でどのような反応が見られるのか観察をした。また、支援場所の確認として保護者に同行してもらいながら下見を行い、事前に危険個所の確認も行った。ボランティアも同様に個別でのアセスメントを行い、今までのボランティア活動・経験等や支援に対する不安などを聞き取り、支援利用児とのマッチングの情報とした。

また、対象となる子どもの障害の特性を知るために重度知的障害者施設での研修を行った。研修のフォローアップとして仮実施期間を設け、直接支援対象児と触れ合っただけの関係づくりの場とした。

## 2) 登下校見守り等支援調査事業実施

仮実施期間後より11月から2カ月の本実施期間をスタートさせた。ボランティアと支援対象児のアセスメントで得た情報とボランティアの交通手段を考慮してマッチングを行った。またボランティアには、事前に対象児の特徴などをまとめたレジメと支援場所の地図を配布し、対象児別の支援説明を行った。

本実施開始初日はコーディネーターも同行し、対象児とのコミュニケーションの取り方などの支援サポートや、お互いの関係性など支援状況の確認を行った。また個別でのサポートなど状況に応じてボランティアと利用児及び保護者への対応を行った。

支援キャンセルなどの連絡体制はコーディネーターへ連絡、または緊急を要する場合はボランティアと保護者が直接連絡をすることで対応をした。その中で、コーディネーターの役割として事業の間接的な支援者として支援状況の管理または支援サポートを行っていたが、直接的に支援に入ることもあった。

### ①対象児A（自閉症・小学1年生）

対象児を今まで取り巻く環境では、女性と関わる事が多く支援ボランティアには女性を希望していたが、今回の事業参加で男性との関係づくりのきっかけになればと考え、女性ボランティアと一緒に男性ボランティアも支援に入ってもらった。支援当初はなかなか母親から離れることが出来ずボランティアとの距離が見られた。支援経過の中、対象児がボランティアを認識しお互いの関係ができた。その後はスムーズにボランティアと支援が進み、母親と一緒に登校する時には、学校近くの交差点より対象児一人で行くことができるようになった。

### ②対象児B（ダウン症候群・小学3年生）

性格がとても明るく、自発的に他者に関わる事が出来るため初対面のボランティアともスムーズに関係ができた。支援経過中もお互いに良好な関係づくりができ支援日の朝は準備を急ぎ、楽しみにしている様子だった。今回の事業参加で保護者以外の第三者（ボランティア）との関係づくりなど対象児にとって社会参加への良い経験だったのではないかとされる。

### ③対象児C（ダウン症候群・小学1年生）

性格的に少し頑固なところもあるが、自発的に行動し興味がある事に積極的に関わる。また身体を動かす事が好きで体力を付けるために徒歩での登下校をしている。学校までは距離があるため、対象児の好きな遊びを取り入れながら支援を行った。

初めてのボランティアとも良好な関係ができ、支援もスムーズに進んだ。また、危険個所の確認ができていなかったが、遊びを取り入れた支援で危険個所の認識ができるようになり、事前の声かけで自発的に確認するようになった。

### ④対象児D（ダウン症候群・小学3年生）

対象児は初めての人に対して、その人がどのような人か見極めるために相手を試すことがある。行動として、隠れる・逃げる・突然走り出す等、さまざまな行動で相手の反応を見極めている。初めてのボランティアにはそのような試す行動が多く目立った。

しかし、良好な関係が出来ると、対象児の人なつっこい性格で自発的に関わる様になりスムーズに支援が進み、支援を楽しみにしている様子も見られた。今回の事業参加によっ

て『一人で登校する』という意識の芽生えとなり、保護者も子どもを一人で登校させるきっかけとなった。また、学校側（担任の先生）の協力もあり、完全自立登校が出来るようになった。

#### ⑤対象児E（自閉症・中学2年生）

他者が自己のパーソナルスペース近づきすぎると拒否反応を示すため、パーソナルスペースへの配慮が必要だった。また、音に対して特に敏感なため大きな声での声かけや雑音がある所などの対応が求められた。性格的に穏やかで物事をゆっくりと進めるため支援も対象児のペースで行った。

支援初日はボランティアがパーソナルスペースに入り過ぎてしまい拒否されてしまった。しかし初日の支援が終わり自宅に帰った対象児には、とても達成感が見られた。支援が進む中で、保護者同伴が無くなりボランティアと2人だけで下校ができるようになった。本人の意志で事業に参加したこともあり、大きな達成感と大きな影響を与えたと思われた。

今回の支援は対象児にとって、いろいろな体験をすることで社会参加への可能性が広がったと思われる。

#### ⑥対象児F（広汎性発達障害・軽度精神発達遅滞・小学4年生）

本実施前に、コーディネーターが対象児と一緒に帰ることを伝えると、緊張した様子ではあったが拒否は見られなかった。後日対象児と一緒に下校をし、支援方法について保護者と話し合った。通学路のコースにこだわりがあり、徒歩の速度が少し速く危険個所での注意が疎かになっていた。声かけには反応はあるが、他者から触れられることを嫌がるため危険時の対応を考慮しなくてはならなかった。

ボランティアの支援初日は対象児との待ち合わせ場所から、保護者が待つ場所までの支援だった。通常使用している通学路は車と近距離のため、反対側の歩道を勧めた。やはり対象児は嫌がり、今までと同じ通学路を帰った。その後、対象児にパニックが見られたため支援は終了となった。

対象児にとってストレスとなってしまったが、逆に自立心を芽生えさせ、自立下校のきっかけにもなったが、今後の支援方法や関わり方などいくつか課題が残った。

実施期間中に中間ヒアリングをボランティアと利用児及び保護者に個別で行い、支援に対しての不安や改善等の聴き取りをした。支援開始当初は登下校時の見守り・声かけ等の援助支援だったが、子どもの自立登下校を促進させたいという希望があり、支援経過中に自立登下校を目指す訓練的な支援方法へと変容した。

### 3) 登下校見守り等支援事業終了後

ボランティアと利用児及び保護者に個別のヒアリングで、事業全体の感想と今後の活動継続について聴き取りを行った。対象児にとって第三者との関わりは、新しい体験であり保護者を含め最初は不安や戸惑いも見られた。しかし、支援の経過と共に、対象児も社会参加や自立登下校のきっかけなどさまざまな影響を与え、子どもの自信へと繋がったのではないかと思われる。

保護者も子どもと距離を置くことで新たな発見や子どもの可能性の広がりを見る事ができたのではないかと思われる。

今回の事業の目的とするインフォーマルサービスの開拓において、モデル事業を円滑に進めるためにコーディネーターを配置した。地域密着でのサービス提供において柔軟に対応するためには、個々の繋がりが強く求められ、その懸け橋としてコーディネーターが間に入ることで支援が進むのではないかと思われる。

よって、今回の事業について移動支援ボランティア育成とコーディネーターの役割が重要になると考えられる。



## 8. 今後の課題

本事業に関して、支援対象児及び保護者のニーズ対応また、継続的な支援を行うために今後の展開における課題として以下のことが挙げられる。

- ① ボランティアの人員確保及び研修体制
- ② 支援説明及び対象学校との連携
- ③ 連絡・支援体制の確立
- ④ インフォーマルサービス（ボランティア）の普及と啓発

### ①ボランティアの人員確保及び研修体制

本事業実施においてボランティアは11名の申し込み中、10名で支援を行った。支援対象児6名に対してボランティアの人員対応が少数であったため、利用対象児及び保護者への利用ニーズに対応することが難しかった。

これにより、コーディネーターが支援に参加することで人員のフォローを行う状況だった。支援を行うボランティアの確保が重要であり、長期的な支援継続においては、市内の大学内で学生ボランティアのサークル活動として期間的な支援参加、また今後増える団塊の世代のボランティア募集・育成などの対応が求められる。

また、事前のニーズ調査結果や支援実施経過の中ではボランティアへの需要が高く求められ、留守番での見守りや一時預かりなど登下校以外でのボランティアの支援の要望もあった。

しかし、登下校時以外でのボランティア支援ではより質の高いボランティア育成が必要となるため、今後の活動の課題としても、現在の見守り支援を継続するための研修方法も対象となる児童の学校現場での様子を直に見ることで性格特徴や個性を知り、担任の先生からも話を聴くことで学校の状況も分かり、支援に入りやすくなる。

また、社会福祉協議会や障害福祉施設などで講習や研修のフォローアップを含め登下校見守り支援でのボランティア研修体制の強化を今後行うことが必要となる。上記の課題に取り組むことで支援の長期継続、インフォーマルサービスでの支援を行うことができると思われる。

### ②対象学校との連携及び支援説明の方法

インフォーマルサービスで移動支援を行うため、地域力が強く求められる。地域内の繋がりやボランティアと学校、対象児及び保護者とボランティアとの繋がりなど支援対象児を取り巻く環境の連携体制の整備を行う必要がある。情報を共有する事で、対象児個々への支援変更や状況に応じて迅速な対応ができる。

また、支援対象児が在籍する各学校及び学級の協力・連携を強めることが大きなサポートとなる。今回の事業説明では内容が伝わりにくく、支援が始まるまで保護者やボランティアに大きな不安を与えていた。そのため事前説明やオリエンテーションでは、デモンストレーションや実際の支援現場に同行するなど上記に挙げた連携体制の整備を行った上で、新規支援対象児及び保護者やボランティアに支援内容の説明を十分に行う必要がある。この課題に関しては行政のバックアップや保護者の協力により、今後の継続において円滑な移動支援が行えると思われる。

### ③連絡・支援体制の確立

本事業ではボランティアによる障害児の登下校時の見守り支援であり、一時的あるいは突発的な状況や雨天時、支援キャンセル等での支援対応が円滑に行えなかったため、支援直前まで事業参加者へ不安を与えてしまった。

そのため、連絡・支援体制やニーズ状況に応じてサポートができるよう支援内容を事前に明確化しなくてはならないと思われた。また、保護者とボランティアとの連絡体制や、学校側とボランティアの連絡体制も強化することで、突発的な状況において迅速な対応ができ、利用ニーズへの対応・サポートができるようになるのではないかとと思われる。

しかし、互いの関係性が築かれると、ボランティアへの需要も高くなると考えられた。実際に、ニーズ調査結果で登下校以外での支援要望があった。登下校時の見守り支援の延長として登下校時以外の支援は、支援対象児との関係を築くために行うことはできるが、登下校時以外の支援はインフォーマルサービスとしては難しく、ボランティアへの自己責任や支援能力が必要となる。

そのためにもインフォーマルサービスの支援内容を明確化し、支援体制の確立が必要となる。

### ⑤インフォーマルサービス（ボランティア）の普及と啓発

インフォーマルサービスでのサービス提供は支援を行うボランティア及び保護者、対象児を取り巻く地域社会や学校側の協力が必要となる。現状として本市では“見守り隊”が大きな役割を果たしている。

しかし、定期的あるいは一時的に個々での支援を希望する保護者には、一対一での支援ができるサービス提供が必要とされる。そのためには地域社会でインフォーマルサービス及びボランティアの普及と啓発が求められる。これにより支援を希望する対象児の校区内でボランティア活動が少しずつ広がることで人との繋がりが強まり、また長期的に支援を行うことができるのではないかとと思われる。

また、現在での事業継続では組織的な繋がりと、大牟田市内で登下校見守り等移動支援がボランティア活動として位置づけをする必要がある。そのためには、地域自立支援協議会において関係機関を巻き込みながら地域に根ざし、行政のバックアップや学校側の協力によって参加するボランティアや利用児及び保護者の環境がより向上し、インフォーマルサービスとして今後大きく展開するものと思われる。

## 9. 総 括

今回大牟田市内における障害児の登下校見守り等調査研究事業として、地域社会でボランティアの募集及び育成、インフォーマルサービスの開拓を図るものとして平成20年度実施した。

移動支援ボランティア10名（実質的活動人数）と支援利用対象児6名に、事前の個別アセスメントで利用ニーズや双方の不安などコーディネーターが聴き取りをし、研究調査事業を実施した。インフォーマルサービスとして地域密着の移動支援を目的としたが、対象児の校区内でボランティアが少なく校区外からの支援活動となった。

支援開始ではボランティアと利用対象児及び保護者との関係性を主に重要な課題とし、コーディネーターは常に状況を把握しながらサポートに入った。支援実施中にはボランティアと保護者から支援方法の改善や実施中の不安などヒアリングを行い、状況に応じて対応ができるように連絡を取りながら支援を進めた。また、支援が経過する中で双方に良好な関係が築かれ、支援に対しても不安や戸惑いも見られなくなった。その中、支援内容が援助的な見守りから自立登下校を目指す訓練的な支援へと変化した。このことからニーズ調査と利用ニーズで要望があった自立を促進する支援が、インフォーマルサービスの移動支援で可能という結果が得られた。

年々少子高齢化が進み、本市は高齢化率が全国的に高く核家族化も伴い、人とのつながりが希薄化している中で、障害児及び保護者が孤立してしまう現状にある。しかし、少子高齢化を逆の視野から考えると、子どもを多くの大人が取り巻く地域環境であり、一人ひとりを見守ることができる。そのためボランティアを募集・育成し活動を広げることで、障害児や保護者が多く地域社会に参加できると思われる。実際に事業に参加した対象児が今まで他者と一緒に下校することができなかつたのが、支援に参加しボランティアと一緒に保護者同行なしで自宅まで話をしながら下校できるようになった。このことから少しずつ子どもの可能性や環境の広がりが見られたと思われる。

今回の調査研究事業では、対象となった障害児が第三者と関わることで、子どものコミュニケーション能力や自立心の成長を促し、また、学校内の他の児童・生徒においてもボランティアやコーディネーターが支援する姿を見ることで、「自分たちも支援しなければ」という雰囲気が出てくるなど、短期間ではあったが大きな影響を与えた。また、保護者も安心して離れられたことで、子どもの新たな可能性の広がりを発見することができた。また、実施地域へのボランティア活動が認識されたのではないかと思われる。

しかし、事業実施前に行ったニーズ調査結果と登下校見守り等支援事業内容の結果で、ボランティア数が少なかった。ニーズがあっても対応できなければ、サービスやボランティア活動の意味がない。いかにこのニーズに答えていくのかが今後の課題であり、今後のインフォーマルサービスの開拓、登下校見守り等支援でボランティアの募集・育成を図り、地域内でもボランティアの意識づけまた啓発することによって、より地域力が高まり地域づくりや街の活性化へと展開していくと思われる。

# 資 料

## 大牟田市障害者自立支援協議会設置要綱

### (設置)

第1条 障害者相談支援事業の円滑かつ効果的な実施を推進するとともに、地域の関係機関が連携し、協働して障害者福祉に係る課題の解決等を図るため、大牟田市障害者自立支援協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

### (所掌事務)

第2条 協議会は、次の各号に掲げる事務を所掌する。

- (1) 関係機関による連携体制の構築に関すること。
- (2) 障害者福祉に係る困難事例への対応に関すること。
- (3) 障害福祉サービスをはじめとする地域の社会資源の開発及び改善に関すること。
- (4) その他障害者福祉の推進に関し、必要と認められる事務。

### (組織)

第3条 協議会は、20人以内の委員をもって組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる団体に所属する者及び学識経験者の中から市長が委嘱する。

- (1) 相談支援事業者
- (2) 保健・医療関係機関
- (3) 障害者関係団体
- (4) 障害福祉サービス事業者
- (5) 商工業関係団体
- (6) 行政機関
- (7) その他の団体

### (任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

### (会長及び副会長)

第5条 協議会に、会長及び副会長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は、会長が欠けたときは、その職務を代理する。

### (協議会の会議)

第6条 協議会の会議は会長が招集し、会長がその議長となる。

2 協議会の会議は、委員の過半数の出席がなければ開くことができない。

3 協議会の議事は、出席委員の過半数の賛成により決するものとし、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 会長は、必要があると認めるときは、協議会の会議に委員以外の者の出席を求め、意見又は説明を聴くことができる。

### (運営会議)

第7条 協議会に運営会議を置く。

2 運営会議に関し必要な事項は、会長が別に定める。

(事務局)

第8条 協議会の庶務を処理するため、大牟田市保健福祉部福祉課、特定非営利活動法人大牟田市障害者協議会、障害者相談支援事業所で事務局を構成する。

(補則)

第9条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成20年 1月29日から施行する。

## 大牟田市障害者自立支援協議会運営会議設置要綱

(設置)

第1条 大牟田市障害者自立支援協議会（以下「協議会」という。）の円滑かつ効果的な活動を実施するため、協議会設置要綱第7条に基づき協議会に運営会議を設置する。

(組織)

第2条 運営会議は、30人以内の委員をもって組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる団体に所属する実務担当者で構成する。

- (1) 相談支援事業者
- (2) 保健・医療関係機関
- (3) 障害者関係団体
- (4) 障害福祉サービス事業者
- (5) 商工業関係団体
- (6) 行政機関
- (7) その他の団体

(任期)

第3条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(委員長)

第4条 運営会議に、委員長及び副委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 委員長は、運営会議を代表し、会務を総理する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は、委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(運営会議の会議)

第5条 運営会議の会議は委員長が招集し、委員長がその議長となる。

2 運営会議の会議は、委員の過半数の出席がなければ開くことができない。

3 運営会議の議事は、出席委員の過半数の賛成により決するものとし、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

4 委員長は、必要があると認めるときは、運営会議に委員以外の者の出席を求め、意見又は説明を聴くことができる。

(プロジェクト会議)

第6条 協議会にプロジェクト会議を置く。

2 プロジェクト会議に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

(個人情報の保護)

第7条 委員は、個人情報の保護の重要性を認識し、職務の遂行に当たって個人情報を取り扱うときは、個人の権利利益を侵害することのないよう個人情報を適正に取り扱わなければならない。

(目的外利用及び外部提供の禁止)

第8条 委員は、職務の遂行に当たって取り扱う個人情報をこの職務の目的以外に利用し、又は第三者に提供してはならない。

(守秘義務)

第9条 委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。

(事務局)

第10条 運営会議の庶務を処理するため、大牟田市保健福祉部福祉課、特定非営利活動法人大牟田市障害者協議会、障害者相談支援事業所で事務局を構成する。

(補則)

第11条 この要綱に定めるもののほか、運営会議に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成20年 3月12日から施行する。

# 大牟田市障害者自立支援協議会の構成

## プロジェクト会議

課題ごとに運営会議の関係メンバーで構成し、課題解決に向けた検討を行う。

## 全体会（年2回程度開催）

- ・障害者福祉計画策定委員をベースに選定。各機関・団体の代表クラス12名で構成。
- ・地域自立支援協議会全体の事業報告の場、障害福祉の推進に向けた政策提言の場、障害福祉計画の進捗管理の場。

就労プロジェクト会議  
7名

住居プロジェクト会議  
9名

インフォーマルサービスの  
開拓プロジェクト会議  
5名

コアメンバー  
運営会議全体のメン  
バーの中から選定。  
18名

## 運営会議（年3回程度開催）

- ・児童支援事業者、障害福祉サービス事業者、保健・医療関係者、教育・雇用関係機関、障害者関係団体等の実務者で構成。23人
- ・プロジェクト会議設置検討の場、核プロジェクト会議の情報共有の場、全体会への報告、提言事項検討の場。

ケース会議

ケース会議

## 運営事務局

- ・4相談事業所と大牟田市障害者協議会、市で構成。
- ・自立支援協議会全体の連絡調整、事務管理、個別ケース会議及びプロジェクト会議の召集、調整。



## インフォーマルサービス開拓プロジェクト会議名簿

区 分	氏 名	所 属
知的障害施設	宮 崎 拓	社会福祉法人あけぼの会（リーダー）
	増 田 佳 子	社会福祉法人地域福祉を支える会
	北 野 真由美	社会福祉法人日本厚生学園
社会福祉協議会	馬 場 朋 文	社会福祉法人大牟田市社会福祉協議会（サブリーダー）
育成会	山 崎 ゆかり	大牟田児童生徒育成会
	中 嶋 スミ子	大牟田児童生徒育成会
行政	坂 本 智 典	大牟田市教育委員会
	大 山 博 一	大牟田市特別支援学校
	杉 本 志津子	大牟田市児童家庭課
	川 地 伸 一	大牟田市福祉課
	鷹 尾 俊 介	大牟田市福祉課
	西 山 洋	大牟田市福祉課
事務局	大 場 和 正	NPO法人大牟田市障害者協議会
	入木田 美 耶	NPO法人大牟田市障害者協議会（コーディネーター）
	渡 邊 祥 吾	NPO法人大牟田市障害者協議会
	古 賀 敬 之	障害者相談支援事業所「ハーツ」
	松 尾 貢 治	障害者相談支援事業所「潮」
	下 川 敏 彦	障害者相談支援事業所「サンローレル」
	石 井 晃	障害者相談支援事業所「あじさい」

# あとがき

今回の「移動支援事業の効果的・効率的な実施方法の推進に資する調査研究事業」の事業実施に当たって、ボランティアのみなさん、小学校、中学校および特別支援学校の保護者のみなさん並びに教職員のみなさん、そして自立支援協議会のメンバーのみなさんに多大なるご協力を賜りましたことに対して、心より御礼申し上げます。

当初はインフォーマルサービスの開拓を行うために、ボランティアの協力により障害児に対して様々な形で移動支援を実施する予定でありましたが、事業の検討及び実施を行う過程で、障害児の自立登下校を促進させるため、週 2 日程度の登下校の見守り的な支援という形に支援内容が変わっていきました。

しかしながら、結果的に支援前は母親の送迎なしには登下校できなかった障害児が、支援を受けた後は完全に自立登下校ができるまで成長するなど、一定の成果をあげることが出来ました。

一方では、参加及び育成できたボランティアの数が少数にとどまり、支援ができた障害児も少ないなど、全体としては大きな成果を上げたとはいいがたく、まだインフォーマルサービスの提供についての小さな一歩を踏み出した状況ではないか、と認識しております。

平成 18 年 10 月に障害者の方々の自立を支援し、地域で安心して生活できるようにするために必要な改革を盛り込んだ障害者自立支援法が本格実施しましたが、そうした中であって公的な支援が多種多様化する障害児・者のニーズに対してすべて対応できるとはいえない状況です。よって、フォーマルサービスにインフォーマルサービスを組み合わせた支援等について今後も自立支援協議会で検討を重ねていくことが重要と考えています。

引き続き関係者の皆様のご指導、ご協力をお願いいたします。

2009 年 3 月

大牟田市自立支援協議会

インフォーマルサービス開拓プロジェクト会議

リーダー 宮崎 拓